

1999(平成11)年度

講義計画

経済学部

 駒澤大學

KUMAMOTO UNIVERSITY

1 專門教育科目

經 濟 学 部

講 義 計 画

目 次

1 専 門 教 育 科 目	7
2 他 学 部 履 修 科 目	115
3 日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目	195
4 教 職 ・ 資 格 講 座	217

専門教育科目

他学部履修科目

日本語・
日本事情
科目

教職・
資格講座

1 專門教育科目

經濟學概說	《經濟》	(有井行夫)	7					
經濟學概說	《經濟》	(福原好喜)	9					
經濟學概說	《經濟》	(荒木勝啓)	10					
經濟學概說	《商》	(瀬戸岡紘)	11					
經濟學概說	《商》	(山縣弘志)	13					
經濟原論 I	《經濟》	(大石雄爾)	14					
經濟原論 I	《商》	(天野光則)	15					
經濟原論 II	《經濟》	(淺野克巳)	16					
經濟原論 II	《經濟》	(松井柳平)	17					
經濟原論 II	《商》	(淺田統一郎)	18					
經濟學	史	(福原好喜)	19					
經濟	史	(安元稔)	20					
經濟	政	策	(石井啓雄)	21				
財	政	融	論	(里中恆志)	22			
金	融	論	(渋谷隆一)	23				
社	會	政	策	(光岡博美)	24			
日	本	經	濟	論	(工藤昌宏)	25		
國	際	經	濟	論	(德永俊明)	26		
商	學	總	論	(大吹勝男)	27			
經	營	學	總	論	(寺中良二)	29		
會	計	學	總	論	《商》	(遠藤孝)	31	
會	計	學	總	論	《經濟》	(寺坪修)	32	
商	業	政	策	(岩下弘)	33			
マ	一	ケ	テ	イ	ン	グ	(曾我信孝)	34
經	營	管	理	論	(百田義治)	35		
勞	務	管	理	論	(石井脩二)	36		
簿	記	論	(島崎規子)	37				
簿	記	論	(川口修)	38				
財	務	會	計	論	(遠藤孝)	39		
經	濟	數	學	(水野勝之)	41			
價	格	理	論	(荒木勝啓)	42			
國	民	所	得	論	(吉野紀)	43		
計	量	經	濟	學	(藁谷友紀)	44		
統	計	原	論	(吉野紀)	45			
景	氣	變	動	論	(西村允克)	46		
現	代	資	本	主	義	論	(北原勇)	47
社	會	思	想	史	(中金聡)	48		
日	本	經	濟	史	(渡辺新)	49		
西	洋	經	濟	史	(友松憲彦)	50		
農	業	政	策	(小宮昌平)	52			
工	業	政	策	(福田敦)	53			
經	濟	地	理	(須山聡)	54			
中	小	企	業	論	(三井逸友)	55		
環	境	經	濟	論	(山口由二)	57		
財	政	政	策	(休講)				
地	方	財	政	論	(篠原章)	58		

国際金融論	(齊藤壽彦)	59
人口論	(森岡仁)	60
教育経済論	(谷敷正光)	61
労働経済論	(休講)	
アジア経済論	(郭洋春)	63
中国経済論	(小杉修二)	64
アメリカ経済論	(瀬戸岡紘)	65
ヨーロッパ経済論	(清水卓)	67
ロシア・東欧経済論	(山縣弘志)	68
情報・経済ネットワーク論	(中濟光昭)	69
プログラミング論	(濱本和彦)	70
情報処理論	(黒部晃一)	71
商品学	(石崎悦史)	72
交通論	(小出修三)	73
商業史	(幸野保典)	74
消費経済論	(小谷正守)	75
経営戦略論	(田淵泰男)	76
財務管理学	(小椋康宏)	77
経営史	(岩永宏治)	79
会計監査論	(飯岡透)	80
管理会計論	(中原章吉)	82
原価計算論	(加藤利安)	83
税務會計論	(柳裕治)	84
貿易分析論	(坂口康)	85
貿易実務	(休講)	
銀行論	(齊藤正)	87
証券市場論	(磯谷玲)	88
保険論	(今泉敬忠)	88
憲法	(内田真利子)	89
民法	(大宮隆)	90
民法	(織田晃子)	91
民法	(山田泰彦)	92
民法	(荒木正孝)	93
経労法	(岡田外司博)	93
労働法	(藤本茂)	94
行政法	(齊藤寿)	95
国際法	(齋藤洋)	96
原書講読 I・II	(休講)	
原書講読 I・II	(岩永宏治)	97
原書講読 I・II	(小杉修二)	97
原書講読 I・II	(塩見英治)	98
原書講読 I・II	(清水卓)	98
原書講読 I・II	(友松憲彦)	99
原書講読 I・II	(中濟光昭)	99
原書講読 I・II	(中田秋男)	100
原書講読 I・II	(濱本知寿香)	100
原書講読 I・II	(福原好喜)	101

原	書	講	讀	I	・	II	(山	縣	弘	志)	101	
現	代	經	濟	事	情	I	(高	橋	乘	宣)	102	
現	代	經	濟	事	情	II	(平	石	裕	一)	103	
現	代	經	濟	事	情	III	(田	口	定	雄)	104	
現	代	經	濟	事	情	IV	(比	賀	江	克	之)	104
現	代	產	業	事	情	I	(休		講)			
現	代	產	業	事	情	II	(休		講)			
演		習				I	(岩	永	宏	治)	105	
演		習				I	(友	松	憲	彦)	106	
演		習				II	(岩	永	宏	治)	106	
演		習				II	(友	松	憲	彦)	107	
演		習				II	(渡	辺	善	次郎)	107	

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済学概説	あり 有 井 行 夫	経済1必	4

講義のねらい

これから大学で4年間、経済学を学んでいくための課題と意義を明らかにすることが本講義の目的です。

皆さんは、高校までに、政治経済のほか、日本史、世界史、地理など、現実の社会経済にかかわるいくつかの科目を学んできたはずですが、そこでは教科書を理解し記憶する努力を重ねてきたことでしょう。その努力の到達度は、学期ごと試験や入学試験で、アチーブメント・テストによって判定されてきたでしょう。

こうした努力によって獲得した知識は、それ自体、有意義なものです。また、そのすべてが大学で経済学を学んでいくための基礎になるものです。けれども、教科書学習の過程で、ややもすると、教科書こそが勉強の対象なのだ、というような気分になってしまうものです。ところがよく考えてみると、現実の社会、現実の経済を学んでいくさいの本当の唯一の教科書は、私たちが生きているこの社会そのもの、この生きた経済そのものです。現実の生きた経済は、過去の歴史を背負いながら運動し、日々刻々と変動しており、実のところは、将来がどうなるのか、誰も確実なこととはわからないのです。

教科書に記載されている知識の体系は、実は、貧困や生活の格差、景気変動、インフレ、国際的衝突など、現実の生きた経済現象が私たちに投げかけている問題について、先人たちが解きあかしてきた理解の到達点なのです。だから、経済学をいきいきと学ぶための大前提は、現実の社会・経済が私たちに投げかけている問題そのものを共有することです。「問い」を確認したとき、はじめて解答＝学問の意義があるのです。そして、その「問い」を投げかけるのは、テストではなくて、現実社会そのものなのです。

本講義は、現実の社会が投げかけている問題を皆さんに提示し、問題解決としての経済学を学ぶ意義を明らかにします。わけのわからない巨大な力＝社会に翻弄されて受動的に生きるのではなく、主体的にこの社会、この経済を理解し、自分の意見をもち、主人公として生きよう。これが、本講義をつらぬくメッセージです。

講義の内容・授業スケジュール

以上の目的に合致した最高の教材は、実は、「今日の新聞」です。果たして、「今日」という日になにか起きるのかわかりませんが、基本的に、「今日の新聞」の主要記事について、ひろく社会的・政治的視野のもとにとりあげて、それが含んでいる背後の問題を明らかにします。出来事は、偶然的ですし、具体的には予測を超えたことばかりです。それにもかかわらず、1年を通じて、25本程度のトピックスをとりあげるなかで、ある普遍的な経済的社会的な問題が浮かび上がってくるはずですが、90年代不況のなかで進行せざるをえない日本の構造変革の意義と課題が明示されてくるはずですが、使用する教科書は90年代経済の問題構図を提示しており、とりあげた問題の位置の確認のために参照します。

ちなみに昨年、98年度に結果的に論じることになった内容を提示しておけばつぎのようです(98年11月20日現在)。

1. G7声明と「日本問題」
2. 「橋本やめろ」大合唱
3. ユーロとダイムラー・クライスラー——2つの「統合」の背後
4. インド核実験とダイムラー・クライスラー——もう1つの評価軸
5. インドネシアが燃えた
6. 大手18行不良債権22兆円
7. 4.1%ショック——総務庁発表完全失業率
8. 時間内自由レポート
9. 円安と国際金融危機
10. サマーズ来日と「受け皿」銀行構想
11. 消える商店街・広がる買い物砂漠
12. クローン牛誕生
13. 参議院選自民大敗・橋本退陣
14. 効率性原理と公正原理——ひと夏の思い出
15. 労働基準法の改正
16. 信用収縮と公的資金の導入問題
17. 変わる日本型企业社会
18. 時間内自由レポート
19. 個人と社会——自由主義と社会主義
20. 結婚の経済学——厚生省出生動向基本調査
21. 環境の経済学

成績評価の方法

22. 教育の経済学

経済学への導入としての講義の性格上、平常点、つまり、授業への出席と何回かのレポートで評価します。

教科書

経済学教育学会編『経済学ガイドブック』（青木書店）2,800円
なお、なんらかの新聞を毎日読むこと当然の課題とします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 学 概 説	みくはら よしのぶ 福 原 好 喜	経 済 1 必	4

講義のねらい

この講義は学生に経済についての基本的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々の日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。昨年講義で取り上げたテーマを例示すると、

1. 日本農業と食糧の現状
2. 日本の女子労働
3. EU 通貨統合
4. 世界通貨ドルの問題点
5. 株価下落と不良債権の処理不能
6. 日本人の労働時間と休暇
7. 平成不況突入と日銀の金融政策
8. 新食糧法 — コメの流通機構
9. 農業の衰退と食糧自給
10. 林業壊滅 — 円高の結末
11. 農林業の衰退と自然破壊
12. 日本の景気 — 指標の読み方 —
13. 北海道経済をゆるがす北拓の破綻
14. EU の歴史
15. 世界経済の現状 — EU、NAFTA、APEC —
16. 山一の廃業
17. 日本の教育費
18. 地価下落と金融システムの不安定化
19. APEC 各国の利害
20. 平成不況から平成恐慌へ
21. 国防と防衛費
22. 財政改革こそが財政改革を不可能にする
23. 何時も間違える政府・日銀の経済予測
24. 農業壊滅と日本の安全保障
25. 経済白書の誤り
26. デフレスパイラルの原因
27. 指標で見る景気失速の経過
28. 緊急総合経済対策の効果
29. 来年度就職率予測

履修上の留意点

1. 授業中の私語、居眠り厳禁。(時に1時限目から寝ている学生がいるが、眠たい学生は家で寝ること)
2. PHS は電源を切ってから出席すること。(授業中の受信音は営業妨害である)
3. 出席点を40点つける。まずい教育でも、居ない者に教育は出来ない。サボり自由も学生にはあると思うが、そういう人は後で泣きごとを言わない。

そ の 他

授業の性質上教科書はない。自分の書いた新聞記事、雑誌論文、ニュース、当事者の談話その他をその都度資料として使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 学 概 説	あら き よ し ひろ 荒 木 勝 啓	経 済 1 必	4

講義のねらい

はじめて経済学に接する1年生に、マクロ経済学の基礎を示す。ちょうど1年間で、そもそも所得とは何かということからはじめて、国際収支、国際均衡、為替相場、乗数、財政、税金、貨幣、銀行券、債券、利子率、といった基本概念をはじめ、貨幣数量説、古典派理論、ケインズ理論のような基本的学説までを解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 所得とは
- (2) 付加価値と国民所得
- (3) 国民所得の循環図式
- (4) 貯蓄投資の均衡条件
- (5) 国内均衡と国際均衡
- (6) 国際収支
- (7) 為替相場と国際収支
- (8) 乗数理論
- (9) 乗数理論の拡張
- (10) 財政と税金
- (11) ビルトインスタビライザー
- (12) 貨幣の定義と信用通貨
- (13) 銀行券発行の仕組み
- (14) 信用創造その1
- (15) 信用創造その2
- (16) 貨幣数量説その1
- (17) 貨幣数量説その2
- (18) 古典派の経済学
- (19) 利子率と債券と流動性選好説
- (20) LM 曲線
- (21) IS 曲線
- (22) IS=LM 曲線と不完全雇用
- (23) 古典派理論とケインズ理論の比較
- (24) 財政政策と金融政策
- (25) クラウディングアウトとポリシーミックス
- (26) 物価の決まり方

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経済学概説	瀬戸岡 紘 <small>せと おか ひろし</small>	商 1 必	4

講義のねらい

経済学概説は、経済学の楽しさと奥ふかさを紹介する科目です

あたらしく経済学部に入學された諸君が、これから経済学を学習し研究するためのイントロダクションとなる話をするのが、この講義です。ここで私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入學してまもない諸君がおおいに抱えているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろ、ふくらませるようにもっていくことです。そのために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

講義の内容・授業スケジュール

《導入の話題》

- ◇最近の経済をめぐる話題から (内容未定)
- 《世界各地の経済を題材として — 経済史と経済政策論へのイントロダクション —》
- ◇ヨーロッパの経済・今昔
- ◇アメリカ経済の特質
- ◇旧ソ連・東欧の実験
- ◇日本の経済
- ◇アジア経済の発展
- ◇地球と経済
- 《思想家や経済学派を題材として — 経済学史と理論経済学へのイントロダクション —》
- ◇古典学派の人びと
- ◇歴史学派とその後継者たち
- ◇マルクス学派
- ◇近代経済学の起源と諸潮流
- ◇ケインズと20世紀の経済

《むすびの話題》

- ◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

前期の課題は、経済史、経済事情、経済政策のイントロダクションです

世界各地の今日の経済事情を概観しつつ、そのような経済事情を生んできた歴史的背景を考え、あわせてそれぞれの地域での経済政策の実態をごく簡単ながら紹介します。「現代経済事情——各国めぐりの旅」という気分で、最新の情報をもとに、受講者のみなさんを経済の世界に案内します。しめくりは、環境問題のような、21世紀を展望するさいさけてとれない諸問題にまで話をすすめます。

後期の課題は、経済学史と経済理論のイントロダクションです

過去の著名な経済学者や経済学派のおかれた環境やその人(たち)自身が格闘した難題などの紹介とおして、今日われわれがまなぶ経済学の生いたちをたどってみます。あわせて、それぞれの学者や学派の理論のアウトラインや特色をも概観します。著名な経済学者たちがどのような人生をすごしながら、それぞれ歴史にのこる理論をつくっていったか、この講義での聴きどころとなるでしょう。最終回では今日の最新鋭の経済学の潮流にも言及します。

履修上の留意点

1回の講義にひとつのテーマをとりあげます

講義では、1回ごとにひとつずつテーマをとりあげます(上記の◇について、おのおのふたつぐらいのテーマ)。毎回の講義では、なるべく身近な話題や経済現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげるばいにも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにするつもりです。

成績評価の方法

経済学のおもしろさがいっそう理解できた受講者が単位をとることもできます

この科目は必修科目なので、経済学部のすべての学生がいずれかのクラスで受講することになります。それだけにこの講義は、経済学部のさまざまな学生の期待にこたえるように努力します。

教 科 書

しかし、安直に単位だけをねらおうとする学生には、容赦ない対応をとることになるかもしれません。1年後に経済学がいっそう好きになったと感じられるような受講者がもっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです。とくにこの講義の性格上、一発の年度末試験で成績をつけることは適当と考えにくいので、受講者諸君と協議のうえ、平常点を重視すべく、諸君には、随時、授業をおして獲得した成果や感想を文章にして提出してもらい、それをもとに成績評価をするようにしたいと考えています。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらおうつもりであります。

最新のニュースや膨大な情報、そして歴史的事実こそ、この講義のテキストです

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。一回一回の講義をおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉強に役立つものが見つければ、その都度紹介していくつもりです。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経済学概説	やまがたひろし 山 縣 弘 志	商 1 必	4

講義のねらい

「経済学概説」の目標はある程度の幅をもって設定されています。というのは、この科目は特定の担当教員ではなく、それぞれの専門をもった教員が分担する形で運営されるものとなっており、各自の特色を出しながら経済学並びに経済学部への導入を図ろうとするものだからです。従って、この講義では、特定の分野での深い理解を求めるとか、なんらかの結論を得るとかではなく、社会経済現象への感覚を研ぎ澄まし、経済学の諸分野へ分け入っていくための思考方法を身に付けていけるよう手助けしたいと考えます。たとえば、私たちの同時代にソ連邦が解体し、市場経済に移行しようとする産みの苦しみを経験されています。日本はバブル崩壊後長い不況の中にあり、アジア諸国も国際的な金融混乱に巻き込まれて大きな経済困難に見舞われました。世界経済のシステムにはさまざまな問題点が内蔵されているように思われます。経済混乱に巻き込まれた人々への同情を禁じませんが、そして常に生身の人間に対する暖かい視点を皆さんにも期待するものですが、同時に、これらの混乱から私たちは何分かを学ばなければならないし、その点から見ると、現代は大変多くの研究材料を提供してくれているともいえます。

ロシアの経済混乱の原因はどこにあるのか？ ヘッジ・ファンドはいかなる根拠があって一国の経済を混乱させることができるのか？ 日本経済は皆さんの卒業するであろう4年後にまともな職を保障することができるのか？ 経済問題は確実に現実的な現象であり、その問題を解明するために生まれたのが言うまでもなく経済学です。しかしながら、経済学は多くの問題を課題として残している未熟な学問です（成熟の度をどのようにとるかの問題はありますが）。現在得られている結論は常に現実との緊張関係の中で再点検を必要とするのです。それゆえ、皆さんには常に常識を疑い疑問を突き付けていく態度が求められます。

講義の内容・
授業スケジュール

活字離れと呼ばれる状況は極めて重大です。特に皆さんは社会科学的な文章に慣れていないと容易に想像できます。それと、私自身の専門以外の問題を取り上げる場合が多いので、先人の業績を利用するのが確実である、と考え、主として岩波新書から選んだ文献の内容を紹介し、それを現代の視点からどう読むかという形で進めていきます。

予定の内容は以下のとおり（すべて岩波新書）：

- 経済現象への問題意識 — 暉峻淑子 『豊かさとは何か』
- 経済学の誕生と発展 — 高島善哉 『アダム・スミス』
- 内田義彦 『資本論の世界』
- 宇沢弘文 『経済学の考え方』
- 現代世界をとらえる — 西川 潤 『世界経済入門』
- 石 弘之 『地球環境報告』

その他適宜トピックスをとりあげ、参考文献を紹介してコメントします。

履修上の留意点

私語は授業妨害であるから当然厳禁します。

成績評価の方法

レポート（年2回）によって評価する予定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論 I	おお しい ゆう じ 大 石 雄 爾	経1・2・3・4必	4

講義のねらい

経済原論 I (マルクス経済学) では、資本主義経済の一般法則について講義します。このことは、ふつう市場経済と呼ばれているシステムの諸法則について勉強することを意味します。では、どうしてそのような資本主義経済に関する一般理論を学ぶ必要があるのでしょうか。

現代世界は、これまで「社会主義」と呼ばれてきた体制が崩壊したこともあって、混沌としているように見えます。しかし、旧来の社会主義諸国は市場経済への移行を旨としているわけですから、これは社会主義の資本主義化の動きであるといえます。他方、戦後50年をへて NIES や ASEAN 諸国も資本主義としての発展を軌道に乗せるに至りました。これらの動きをまとめると、世界はいまこそ資本主義社会として、同じ原理にしたがって運動している、ということになります。このような世界の運動の原理として、まず、資本主義経済の一般法則を学ぶことがますます重要になっていく、といっておいてよいでしょう。

しかし、だからといって資本主義が調和的に発展し、人々の生活が豊かで幸せなものになったかと言えば、必ずしもそうとは言えません。たしかに、アメリカ、日本などの先進資本主義国の人々の所得は多くなりましたが、それだけに北の先進国と南の貧しい発展途上国の間の経済格差はむしろ拡大しています。先進国どうしの間にも貿易摩擦の問題があります。そして、先進国の内部をのぞいてみると、財政の赤字、高い失業率に悩まされているという実態があり、特に日本では、労働者の長時間労働が解決されていません。

資本主義の成長をもってしても、これらの問題は解決されていないばかりか、成長のゆえに地球環境の破壊は急速に進行しつつあるといえます。世界が資本主義社会として一元化の傾向を示しつつあるだけに、私たちはなぜ資本主義がこうした諸問題を生み出すのか、資本主義はそれを解決する手段を持っていないのだろうか、という問いかけをしてみなければなりません。それは、資本主義の一般法則とは何か、その展開がどのような具体的諸問題として現象するのか、を追求することと同じです。以上のような意味において、資本主義の一般的運動法則を認識することが、私達の一人ひとりに求められているといえるのです。

では、資本主義の原理＝一般法則の重要な特徴はどこにあるのでしょうか。誰もが知っているように、資本主義社会では富が商品として生産され、貨幣を用いて売買されています。すなわち、商品生産社会なのですが、富が商品として生産されるということは歴史上いつでも見られたことではなく、社会の一定の発展を前提にして成り立ったものなのです。いったい生産物が商品という形態をとり、貨幣が取り引きの手段になるような社会とは、どのような社会なのか、これが最初に把握されるべき重要な点です。

さらに、資本主義社会では、この商品生産が資本＝企業によって実行されており、企業は利潤を得ることになります。また、銀行は利子を、土地所有者は地代を手にいれています。では、これらの所得はどのようにして生まれてくるのでしょうか。他面、商品を実際に生産するのは資本家ではなく多数の労働者ですが、彼らは賃金の形態で所得を得ています。一般的に言えば、資本は成長していても労働者の暮らしはなかなかよくなりません。資本家のもとで労働者が働くということはどういうことなのか、がよく理解される必要があります。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、以上述べた点に焦点を当てながら、次のようなテーマに沿って進めてゆく予定です。

- | | |
|------------|---------|
| 1. 商品と貨幣 | 7. 国民所得 |
| 2. 資本の生産過程 | 8. 国家財政 |
| 3. 資本の再生産 | 9. 世界経済 |
| 4. 価格・利潤 | |
| 5. 商業と銀行 | |
| 6. 資本主義と農業 | |

履修上の留意点

経済原論は一つのみをもちますので、毎回出席し、ノートをよく取る必要があります。時間的に余裕があれば、現代社会の諸問題についてお話ししてみたいと考えています。

成績評価の方法

授業時間を利用して何度か、小レポートを書いていただきます。後期に定期試験(記述)を実施し、成績評価は、小レポートと定期試験の点を合計することにより行います。

教科書

金子ハルオ編『資本主義の原理と歴史』(青木書店) 2,000円

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論 I	あまのみつのり 天野光則	商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済学は、商品・貨幣経済を基礎とする近代社会（＝資本主義社会）の生成・発展のなかで、「社会認識」の学問として誕生した。

人々の生活はそれまでの自給自足的な生活から、自分の必要とするものを商品・貨幣関係＝市場を通して充足する生活へと変わって行き、それにもない人々の意識や行動も共同体的意識が次第にうすれ、個々人が自己の利益を優先し、「損得勘定」に従うようになっていった。こうして人々は、「利己心」を中心に市場を通して関係を取り結ぶようになり、こうした社会にあって個人と社会の関係がどのように「調和」するかということをめぐる経済学という学問は生まれたのである。経済学を一つの体系的な理論として示したのは、アダム・スミス『国富論』（1776年刊）であった。

スミスはイギリスにおける経済発展を考察しながら、近代社会が資本家・労働者・地主という三大階級からなり、階級間に貧富の差はあるけれども、分業にもとづく生産力の発展によってもっとも貧しい労働者階級にもその恩恵は及び、社会に「調和」が存在すると見なした。

しかし、18世紀末から19世紀初頭にかけての産業革命の進展とともに生産力は目ざましい発展を示しながら、資本主義社会の病理としての過剰生産恐慌は労働者を失業＝貧困に追いやり、社会の分裂・対立が大きな社会問題となった。この問題に真正面から取り組んだのが、マルクスであった。マルクスは資本主義社会を人類史における一つの歴史的・過渡的な社会にとらえ、そこにおける「経済的運動法則」の解明を意図して『資本論』（第一巻、1867年刊）を著わした。

本講義では、スミスからマルクスにいたるこうした経済学の流れを念頭におきながら、マルクスによって示された「資本主義の経済的運動法則」とはどのようなものであったかということ、明らかにして行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 第1篇 経済学の対象と方法
- 第2篇 商品・貨幣論
- 第3篇 資本・剰余価値論

後期

- 第4篇 資本蓄積論
- 第5篇 分配論（商業利潤論、利子論、地代論）

履修上の留意点

第2回の授業の出席者をもって受講登録者と見なすので、受講希望者は必ず出席すること。毎時間出席を取ることはいらないが、適宜出席を取り、平常的評価として加味する。

成績評価の方法

前後期各2回、授業時に簡単なテストを行ない、出席状況を加味して成績評価を行なう。

教科書

平井規之他著『経済原論』（有斐閣）

参考書等

マルクス『資本論』第1巻（新日本新書）
 内田義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）
 大塚久雄『社会科学の方法』（岩波新書）

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済原論Ⅱ	あさの かつみ 浅野 克巳	経1・2・3・4必	4

講義のねらい

経済学の目的は、われわれの日常生活の中でごく身近に生起する様々な経済問題の原因は何か？なぜそのような問題が起きるのか？それらを解決する処方箋はどのようなものであるべきか？といった問題を明らかにすることであり、われわれの生活と深い関わりがある。
このような観点から「経済原論Ⅱ」では、経済学の基礎理論を近代経済学の方法にしたがってできるかぎり平易に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- ・前期
- I. マクロ経済学
 1. 経済循環と国民所得の諸概念
 2. 国民所得の決定
 3. 財政・金融政策
 4. 経済の変動と成長
- II. ミクロ経済学
 1. 消費者行動の理論
 2. 企業行動の理論
- ・後期
- 3. 市場均衡と価格決定
- 4. 一般均衡分析
- III. 公共政策
 1. 公共政策のマクロ分析
 2. 公共政策のミクロ分析
- IV. 国際経済学
 1. 国際経済学のマクロ分析
 2. 国際経済学のミクロ分析

履修上の留意点

現代経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題に常に関心をもつことである。これらは様々なマス・メディアをとおしてあふれるほど提供されている。とりわけ『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。必要な記事はスクラップ・ブックに整理しておくこと、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つであろう。

現代経済学を理解するためには数学の知識が必要であるといわれるが、標準的な基礎理論で用いられる数学は高度なものではない。高校の基礎解析あるいは代数程度で十分であろう。経済分析に必要な数学は授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れろ！」のつもりで自ら反復練習することが肝要である。

なお、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報教育センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションを行ってみることも、経済学理解の一助となるであろう。授業の内容と関連のあるソフトあるいは利用の仕方については最初の授業で詳しく説明する。

成績評価の方法

成績は筆記試験とレポートによって行う。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。また、各種国家試験の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、以下の問題集も用意して下さい。

〔問題集〕 青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1995年

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経済原論Ⅱ	まつい りゅうへい 松井柳平	経1・2・3・4必	4

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのであろうか。

現実の経済はあまりに複雑すぎて、そのままでは物事の本質を見失いかねない。そこで複雑な現実の経済をある程度単純化し、実際の経済のモデル（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的なモデルを作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は怠ることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も自ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学それぞれの基礎理論を解説する。ミクロ経済学とマクロ経済学とはアプローチの仕方も、したがってモデルの構造も異なり、両者は必ずしも矛盾なく接合されているわけではないことに留意されたい。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

マクロとは巨視的ということであり、マクロ経済学は経済諸主体の活動を例えば1国全体の規模で集計した国民所得などの集計量を用いて分析し、さまざまな集計量相互の関係を考察する。考え方の基本的な枠組みとして、市場のすみやかな調整に信頼をおく「新古典派」と、市場のさまざまな不完全性を重視する「ケインズ派（ケインジアン）」とがあるとされてきた。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験などで評価する。

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論 II	あき だ とう いち ろう 浅 田 統 一 郎	商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的にしています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。) 他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別の変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。) マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- I. ミクロ経済学
 1. 消費者行動の理論
 2. 企業行動の理論
 3. 市場均衡の理論
 4. 不完全競争の理論
- II. マクロ経済学
 1. 国民所得の概念
 2. 国民所得決定の理論
 3. 貨幣と利子率 (IS・LM 分析)
 4. 財政・金融政策の効果

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)に行う筆記試験によって評価します。

教 科 書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎 著『エコノミックス』(成蹊堂)

参 考 書 等

本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

[指定図書・文献等]

武隈慎一著『ミクロ経済学』(新世社)

浅田統一郎著『マクロ経済学の基礎理論』(中央経済社)

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済学史	ふくはら よしのぶ 福原 好喜	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

履修上の留意点

出席点を40点つけるので不真面目な人はとらないでほしい。大人数の授業となるので、私語居眠りは厳禁、ひどい場合は退場願う。授業は学生の興味ある具体的な話から始める。

成績評価の方法

出席もせず単位がほしいなどという不屈きな学生がいるので出席を頻繁にとる。テストも厳格につけるつもりなので、それでもという熱意のある学生のみとってほしい。

その他

一部で横道の話の方が面白いという風評があるが、学生の次元で経済学の話をしよという意図であって、本人には少し不本意な評価である。授業には全力投球する。PHS 禁止。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 史	やすもと 安 元 稔	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義のねらい

この講義の目的の一つは、社会科学のものの見方がある程度身につけた諸君に「歴史社会学」としての「経済史」の特色を知ってもらうことである。「経済学」と「歴史学」の双方の学問的特色を体現した「経済史」という学問領域は一人人間のどのような営みを対象にするのか、どのような切り口でその対象に迫るのか。そして、「経済史」という学問分野が現在までどのような発展を示して来たのか。今「経済史」では何が問題となっているのか、こうした点を講義の前半で見て行くことにしたい。

講義の後半では、具体的にヨーロッパの中世以降の経済発展をとりあげる。人々は物質的要求の充足をどのような形で行って来たのか、そのためにどのような制度・組織を作り上げて来たのかを考えてみる。1000～1500年のヨーロッパは農業中心の社会であった。そこでは農業生産はどのような形で組織され、人々はどのような形で参加していたのか。中世社会が崩壊し、近代ヨーロッパの誕生を告げた1500～1750年のヨーロッパの社会経済システムは、中世のそれとどのように違っていたのか。そして最後に現代社会の根幹を形造った産業革命＝工業化の実態とはどのようなものであったのか。こうした点を具体的に説明して行くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

第1編『経済史』とは何か

- I. 経済史の対象
 - 1. 「経済的営為」の特色
 - 2. 経済史の課題
- II. 経済史の性格
 - 1. 社会科学・経験科学としての経済史
 - 2. 経済学と経済史、歴史学と経済史
- III. 市場経済と非市場経済
 - 1. ヒックスの『経済史の理論』
 - 2. 市場経済の特質（長所と欠陥）

第2編 ヨーロッパ経済の歴史的発展

- I. 中世の経済と社会
 - 1. 中世農村と農業の発展
 - 2. 中世都市と商工業の発達
 - 3. 中世末期の経済と社会
- II. 近代化への道
 - 1. 近世ヨーロッパ世界と重商主義国家
 - 2. 人口・都市化・物価
 - 3. 農業と農村社会
 - 4. 大航海時代の商工業
 - 5. 不況の17世紀
 - 6. 工業の再編とプロト工業化
- III. 最初の工業国家
 - 1. 「産業革命」をどうとらえるべきか
 - 2. 人口の動向と農業発展
 - 3. 18・19世紀イギリスの経済変動
 - 4. 都市化と工業化
- IV. 大陸の工業化
 - 1. フランスの工業化
 - 2. ドイツの工業化
 - 3. ベルギーの工業化

履修上の留意点

この講義は、ヨーロッパの中世以降の経済発展を概観し、経済史的なものの見方を身につけることを目的にしている。聞きなれない用語や事実が多く出て来るので、参考文献を指示されたら、おっくうがらずに調べ、理解して行くことが必要である。受講者は、教科書・授業スケジュール・講義資料（講義中に配布）を常時持参しなければならない。

成績評価の方法

前期試験を行わない代わりに、夏休みにレポート（200字詰原稿用紙10枚程度＝30点配点）を提出してもらい、後期試験（70点配点）・出席状況と総合して成績を評価する。

教科書

岡田泰男編著『西洋経済史』（八千代出版）

その他

講義方式。但し、OHP・ビデオ・資料を使って説明する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済政策	石井啓雄	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義のねらい

「政治政策」の講義のありかたとしては、土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係の問題を軸に経済政策とはどういうものなのかを専ら理論的に詳細に論ずる方法とか、現代資本主義国家の政策手法についてだけ細かく述べる方法とか、特定の領域、たとえば産業政策など教師の専門的研究領域にそくしてだけ講義する、などの方法もある。しかし私は、基礎的な専門選択必修科目のひとつとしてこの「経済政策」が位置づけられていることを考えて、この講義では、土台としての資本主義の発展段階、すなわち、重商主義、自由主義、独占資本主義、国家独占資本主義という発展段階ごとに、この資本主義の構造的発展を背景に変化していく国家の経済政策の内容の基本的な点について講義することとする。ただ学生の関心を考慮し、なるべく現代の問題に多く時間を充当するよに努めたい。

講義の内容・授業スケジュール

試験その他を除いて、講義の回数は意外に少なく、1年間におおむね25回である。そこでこの講義回数をおおむね次のように充当する。

- (1) 土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係および政策とはどういうことかなどについて、2回。
 - (2) 重商主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね3回。前期重商主義、市民革命、後期重商主義、この段階での保護貿易政策その他主要な経済政策について。
 - (3) 自由主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね4回。イギリスにおける産業革命の意味、穀物条令の廃止に象徴される自由貿易の意義と産業資本の自立化による自由主義的経済政策の主な内容。イギリスに対しては後進的なフランス・ドイツ・アメリカなどの経済政策について。
 - (4) 独占資本主義段階の経済構造とその経済政策について、おおむね4回。自由競争が必然的にもたらす独占資本の成立とそれによる国家の政策の変化、資本の輸出と植民地支配の発展、第一次世界大戦の意味などについて。
 - (5) 国家独占資本主義の成立とこの段階での経済政策について、おおむね6回。1929年恐慌以後の経済政策の変化と第一次大戦とは異なる第二次世界大戦の複雑な性格をふまえた上で、第二次世界大戦後のアメリカ主導のIMF=GATT体制の成立、アメリカの「援助」と覇権、各国の国家独占資本主義とその経済政策、経済成長政策と1970年代以降、さらに1985年以降のその変化、1990年代の不況、WTOの成立などの今日の問題などについて。
- 以上のほか、①いわゆる社会主義の成立とその崩壊をめぐる問題、②植民地の独立と新植民地主義的経済政策、③最近の規制緩和問題と新自由主義的考え、④明治維新と戦後改革を経た日本の経済構造と政策の特殊性、などについてもあわせて5〜6回を充て、全体として25回の講義とする。

履修上の留意点

高校時代に学習した歴史(日本史および世界史)を含む社会科の知識、および経済学概説、(経済学科の学生にあっては必修の)経済原論Ⅰ・Ⅱの履修をきちんと行うことを当然の前提とする。学会との重複、やむえない病欠など以外、休暇の前後でも休講はしないので、学生諸君もそのつもりで受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、自覚的な勉強を期待して、期末試験の成績を基本とするが、時々出欠をとり、試験の成績が振るわない学生の成績評価についてはこの出欠を考慮することとする。学生の受講態度によっては、途中で試験あるいはレポートを課することもありうる。試験については基本的に書物、コピーなどの持ち込みは認めず、自筆ノートについてのみ考慮することがありうることとする。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の過程で適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
財政学	さとなか つねし 里中 恆志	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担配分の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方はまず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政府案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粋公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 国債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債券価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国際収支 (第28週) 財政投融资と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

履修上の留意点

関連科目として、経済学部の専門教育科目である「経済原論Ⅱ」、「価格理論」、「国民所得論」、「行政法」の履修が望ましい。「財政学」は経済と政治の学際的分野の科目でもあるから、他学部履修科目として開設されている法律学科の「行政法各論」、政治学科の「地方自治法」等の履修も有効である。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。自筆のノート持ち込み可。

教科書

里中恆志・八巻節夫編著『新財政学』(文眞堂) 3,200円

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄 著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店) 2,000円
中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社) 3,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
金 融 論	しば や りゅう いち 洪 谷 隆 一	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義の内容・
授業スケジュール

第1部 金融の基礎知識（前期授業）

第1章 市中銀行

- 第1節 預金
 - 2 借入金
 - 3 資本金・積立金
 - 4 貸出金
 - 5 有価証券

第2章 中央銀行

- 第1節 発券機能
 - 2 銀行の銀行としての機能
 - 3 政府の銀行としての機能

第2部 日本の金融制度（後期授業）

第1章 日本金融体系史論

- 第1節 戦前の金融体系史論
 - 2 戦後の金融体系史論

第2章 金融制度改革論

- 第1節 松方正義の銀行分業論
 - 2 戦前・金融制度調査会の銀行分業論
 - 3 戦争経済と銀行兼営論の台頭
 - 4 GHQ 主導の銀行分業論
 - 5 金融自由化と銀行兼営論への傾斜

講義は第1部金融の基礎知識と第2部日本金融制度とに分けて進める。

第1部では、金融制度の中核である市中銀行（第1章）と中央銀行（第2章）を対象とする。前者は銀行の勘定科目にそって業務内容を解説し、それに関連する諸事項（たとえば手形交換、為替業務、小切手と兌換銀行券との比較、預金の源泉と形態、信託会社、旧相互銀行、信用金庫、資金運用部資金、預金銀行と債券発行銀行、オーバー・ローン、割引手形、貸付金、利子、BIS規制、その他金融自由化に伴う業務内容の変化など）にもふれる。後者は中央銀行の3つの機能（発券〔保証準備発手法、屈伸制限発手法、比例準備発手法、最高額制限発手法〕、銀行の銀行〔金利政策、マーケット・オペレーション、支払準備率操作、窓口指導〕、政府の銀行）を中心に概説する。

第2部は、以上の金融の基礎知識をふまえて日本金融制度に関する2つの問題を取り上げる。第1章では、日本金融体系史に関する戦前・戦後の代表的な学説（飯淵敬太郎『日本信用体系前史』1947年、石浜知行『特殊金融機関史論』1937年、松成義衛・三輪梯三、長幸男『日本における銀行の発達』1959年、加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年）の紹介と批判を行う。

第2章では、日本資本主義の後進性とその発展階段を念頭におきながら、金融制度改革の推進とその性格変化をみてゆく。まず松方正義によるイギリス銀行分業論の導入、その意義と限界、次いで第1次・第2次大戦時の銀行兼営論の台頭と金融制度調査会及び第2次大戦後・GHQ 主導の銀行分業論への変更、金融制度の再建、最後に金融自由化の進展に伴う銀行兼営論への傾斜（業態別子会社方式→ユニバーサル・バンク方式）、一方におけるリテール・バンクとホールセル・バンクといった新たな分業形態の出現について考察を進めてゆきたい。

教 科 書

三宅義夫『金融論（新版）』（有斐閣）1981年

参 考 書 等

加藤俊彦『本邦銀行史論』（東大出版会）1957年
 斎藤精一郎『ゼミナール現代金融入門』（日本経済新聞社）1988年
 全国地方銀行協会『金融自由化の進展と地方銀行の対応』（同協会）1991年
 後藤新一『金融制度改革と展望』（時潮社）1992年

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会政策	みつ 光 おが はく 博 み 美	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の半ばに、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問は発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととしたい。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上のべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教科書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 論	く どう まさ ひろ 工 藤 昌 宏	経済1・2・3・4選必 商1・2・3・4選	4

講義のねらい

第二次世界大戦の日本経済と、そこに貫かれる資本主義経済のシステムの論理を探ることをねらいにします。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は大きく前期と後期に分け、前期は主に50年代後半以降今日までの世界経済の動向とそれの中の日本経済の位置を確認し、それを通じて日本経済の特殊性と問題点を検出します。具体的には、IMF や世界銀行を重要な装置にしたバクス・アメリカナ体制とその動揺、50年代後半から70年代初頭にかけての高度経済成長過程、石油危機と日本経済、日米経済摩擦の展開、バブル経済とその崩壊などを中心に講義します。

後期は前期の内容を踏まえて、敗戦後の日本経済の基本的枠組みとそれを形成した経済再建過程、朝鮮戦争とその影響、高度経済成長に至る過程を分析します。その中ではとくに経済主体としての個別企業に焦点を当て、その発展とそれを支えた条件を明らかにします。

講義の進め方。

1 回ごとにテーマを設定しますが、全体として連続性をもたせます。また具体例、数値を用いて、日本経済の在り方とそれを担う経済主体の行動に焦点を当てて考察します。

講義の到達目標。

戦後日本経済の推移、基本構造、問題点を捉えることができるように認識を高めるようにします。また新聞などの経済記事の内容についてある程度理解できるようにし、今日の様々な経済現象とその根底にある論理を大筋で捉えることができますようにします。

履修上の留意点

講義は1 回ごとに独立したテーマを設定しているため、講義時間に遅れないこと。ノートは確実にとること。

成績評価の方法

前期、後期各1 回ずつの試験によって評価します。

教科書

サブ・テキストを含めて、開講時以降、随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 論	とく <small>なが</small> 徳 永 <small>とし</small> 俊 明 <small>あき</small>	経済1・2・3・4選必	4
		商1・2・3・4選	

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして社会主義経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう1本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・
授業スケジュール

〈講義のテーマ (予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日＝第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱の一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——〔援助〕と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行いません。)

参 考 書 等

講義の中で適宜紹介します。

そ の 他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄ってください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男	商H1以降入学生/1・2・3・4選必	4
		商H10以前入学生/1・2・3・4必	
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するとおもいます。

講義の内容・
授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことではありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、十分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

教科書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』（梓出版社）
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号

6 『経済学論集』第26巻第1号

7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 学 総 論	てら なか りょう し 寺 中 良 二	商H11以降入学生/1・2・3・4選必	4
		商H10以前入学生/1・2・3・4必	
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、自主管理社会有企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、労働者の人間的復権にもとづく企業民主化の徹底性を明らかにしたい。さらに、管理論においては、アメリカ資本主義の独占形成期に成立したテイラーの作業管理技術の主内容とその本質、大企業における下層から上層への管理技法の全般化と経営者の役割、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つと思える。尚、経営の国際化に対応して、専門用語（経済英語・経営英語）の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

〈企業論〉

- I. 企業形態論の方法
- II. 人的会社
 - (1) 個人企業の特質と限界
 - (2) 合名会社の形成と特質ならびに内部変化
 - (3) 合資会社の形成と特質
 - (4) 有限会社の成立要件・意図と地位
- III. 株式会社
 - (1) 初期株式会社の成立事情
 - (2) 人的会社と近代株式会社
 - (3) 資本の動化
 - (4) 擬制資本および株価の形成
 - (5) 自己資本の他人資本化
 - (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
 - (7) 株式会社の機能資本家
 - (8) 株式会社と協同組合
 - (9) 創業者利得の取得形態
 - (10) 現代株式会社の主内容
 - (11) 配当利子化の二段階
 - (12) 自己金融
 - (13) 経営者支配の諸問題
 - (14) 株式各論
- IV. 公企業
 - (1) 主要国における公企業の設立事情
 - (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割
- V. 企業の民主化・国有化・社会化
- VI. 自主管理社会有企業
 - (1) 自主管理連合労働体制
 - (2) 体制転換（株式会社化）
- VII. 米国自動車企業各論

〈管理論〉

- I. 現場肉体労働者に対する管理としての管理論の成立——テイラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離
- II. 全般的管理への拡大としての管理論——中間管理者に対する管理（分権管理）とトップ・マネジメントの経営戦略
- III. ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV. 人間主義的管理論の意義——管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

履修上の留意点

イ 大教場における前列席が空席にもかかわらず最後尾に着席せし者並びに講義中に私語をする者に対しては授業時間中に講義内容について指名質問を行うことにしている。

成績評価の方法

- ロ 4～5月中及び9月最初の授業時間には、原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで履修学生諸君の講義理解が高まるものと思う。
- ハ 授業に出て真剣に講義を聴くこと。そうでないと答案が書けません。論理を真に理解すれば暗記は一切不要である。意味が判らずに暗記しても全く無駄である。

年度途中における平常試験を1～2回実施して、多数の履修者間の学力格差を解消しつつ、期末試験の成績との総合評価（単なる算術平均はしない）を行う。平常試験は原則として口頭出題の筆記試験であるが、口頭試問（数名単位で最前列に呼び出し、論理的誘導質問による1問1答の討論形式）も実施したい。レポートによる単位認定は一切行わない。尚、期末総合評価においては、全員の成績が万一悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

教科書

最初の授業で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
会計学総論	えん 遠藤 孝 たかし	商H11以降入学生/1・2・3・4選必	4
		商H10以前入学生/1・2・3・4必	

講義のねらい

2年次以降の会計学関係の科目を理解するための会計学の基礎を総合的に講義
将来、企業実務、会計実務、会計職業人－税理士、公認会計士などの職業にたずさわるのに役立つことを主眼とし、複式簿記からはじまる会計学一般につき、その技術的、理論的講義をおこなう。

講義の内容・
授業スケジュール

4月－5月
第1週 会計とは何か、広義の会計、狭義の会計。企業会計とは何か。会計学の領域、複式簿記の役割－企業会計の認識、測定、財務会計－企業会計の開示、管理会計－企業活動の管理、監査、会計監査－企業会計の検証、財務諸表の監査。会計職業人について。
第2週 企業会計の計算構造。
企業会計の対象は企業活動。企業活動は資本の調達、その具体的財産への転換、その運用による利益追求。企業会計はこの資本運動を認識、測定、管理、伝達。財産計算、損益計算。
第3週 財務諸表とは何か。
企業が実際に作成した貸借対照表、損益計算書のコピーを配布。その内容の説明。
第4週 企業会計の規制。
商法による規制目的、税法による課税所得計算目的、証券取引法の規制目的。以上の規制内容について。日本の企業会計規制の特質。
6月－10月末まで。7月始め、中間試験。
複式簿記の基本構造、複式簿記による企業活動の記帳について講義
取引、取引要素、資産、負債、資本、収益、費用、勘定科目、仕訳、元帳転記、試算表、6けた試算表、帳簿の締め切り、決算整理、8けた精算表。貸借対照表、損益計算書の作成
11月－12月 企業会計、会計学をめぐる最近の論点。単独から連結へ、会計の国際化など。

履修上の留意点

途中欠席すると講義が理解できなくなるので必ず出席のこと。

成績評価の方法

中間試験。定期試験の総合による。

教科書

遠藤 孝ほか『会計学』（森山書店）1998年

参考書等

講義の中で紹介。

その他

授業の方法
教科書による。ときにプリント配布、教場により OHP 使用。
以上のスケジュールは学会出張などによって変更することがある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 学 総 論	てら 寺 つぼ 坪 おさむ 修	経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計専門科目の履修のため、あるいは経営・経済の理解の前提としての計数管理の基本を習得する。経営に秩序と統制をもたらす会計が、統計やOR等の数理学とどう違うのかを、具体的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

会計の分野を幅広く取りあげていくが、特に基本技術である簿記の原理の解明に、やや重点がおかれる。具体的には次の事項(分野)が含まれる。

- ① 企業活動と会計の関係
- ② 会計の体系
- ③ 複式簿記原理(演習を含む)
- ④ 企業会計の一般原則
- ⑤ 財務諸表(総論と各論)
- ⑥ 財務会計の論点把握
- ⑦ 管理会計総論
- ⑧ 財務諸表分析の基本
- ⑨ 監査の概要(意義と種類)
- ⑩ その他(国際動向など)

履修上の留意点

計算器具を持参し、頭のみでなく、身体(手)を動かすこと。常に本質を追求する姿勢を維持すること。質問は歓迎。私語は厳禁。

成績評価の方法

理解度の水準により評価(試験実施・中間レポートを要求することもある)。出欠は採らない予定。

教 科 書

岩辺晃三編著『基本会計』(税務経理協会)2,621円(税別定価)

参 考 書 等

参考文献はそのつと紹介。

そ の 他

授業は講義中心となる。板書の読み取り等、教室の前方に位置することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわ ^{した} 岩 ^{ひろし} 下 ^弘	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』（白桃書房）2,800円

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』（大月書店）2,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	曾 我 信 孝	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウェイトをおいていることはいうまでもないが、そこでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営管理論	ひやく た よし はる 百 田 義 治	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPO や NGO の組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月～7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ① 授業ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
 - ② 現代の組織と経営管理（企業の経営管理と NPO・NGO の経営管理は異なるか？）
 - ③ 経営管理論の源流 1：科学的管理法（唯一最善の管理法は存在するか？）
 - ④ 経営管理論の源流 2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
 - ⑤ 組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
 - ⑥ 現代組織論 1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
 - ⑦ 現代組織論 2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
 - ⑧ モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
 - ⑨ 人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）
- （夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月～1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
 - ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
 - ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本の経営は国際的に通用するか？）
 - ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
 - ⑭ 経営管理と情報化 1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
 - ⑮ 経営管理と情報化 2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
 - ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
 - ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（経営者の社会的責任とは何か？）
 - ⑱ 労働の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）
- （学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉強意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』（ミネルヴァ書房）1996年
片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』（ミネルヴァ書房）1998年

参考書等

授業や夏季レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436：電話03-3418-9345）を気軽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせして下さい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
労務管理論	いし い しゅう じ 石 井 脩 二	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実を生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこでの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせ利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本の経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本の経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるとということにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

- | | |
|------------------------|-------------|
| 序章 人事労務管理から人材管理へ | 第5章 報酬管理 |
| 第1章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化 | 第6章 労働時間管理 |
| 第2章 採用管理 | 第7章 福利厚生管理 |
| 第3章 教育訓練と能力開発 | 第8章 女性労働の管理 |
| 第4章 昇進管理 | 第9章 国際人事 |

成績評価の方法

定期試験のみにて評価、評価の基準は解答内容の論理性と説得力

教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参考書等

津田真徴編著『人事労務管理論』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
簿記論	しま 島 ぎさ 崎 のり 規 こ 子	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

最も授業で目的とする点は、簿記とは、どのようなものであるかを理解してもらい、簿記のおもしろさを知り、好きになって簿記検定試験に挑戦してもらいたいことです。
簿記は、実践学です。学生各人が電卓とペンを使って先生といっしょに勉強に参加する授業です。
簿記の授業では、会社で日常使う言葉がたくさんでてくるので、就職する前の準備教育にもなります。

講義の内容・授業スケジュール

今年度の講義は、簿記検定を受験する者や経理で活躍しようとする者にすぐ役立つよう以下の内容で体系的に進めたい。友達といっしょに参加して下さい。
講義の大筋は、次のとおりです。
〈前期〉— 複式簿記の基礎知識 —
 (1) 簿記の主要概念
 (2) 取引・仕訳・勘定記入
 (3) 決算手続・試算表・精算表 (その1)
 (4) 決算整理事項と精算表 (その2)
 (5) 貸借対照表と損益計算書の作成
 〈後期〉— 主要取引・帳簿記入・応用問題 —
 (6) 現金・預金・有価証券の取引
 (7) 商品売買・掛・債権・債務の取引
 (8) 固定資産・手形・資本の取引
 (9) 売上帳・仕入帳・商品有高帳の記入
 (10) 応用問題

履修上の留意点

授業では、毎回、教科書、ノート、電卓、筆記用具、定規が必要です。他人に迷惑をかけないように忘れないで持ってきて下さい。

成績評価の方法

出席率、授業態度、小テスト、定期試験などを総合評価して決めます。なお、欠席理由が学校行事への参加や教育実習などの場合は出席扱いとします。きちんと届けを出して下さい。

教科書

下野武司・島崎規子・石田九洲男著『複式簿記の理論と演習』（中央経済社）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記論	かわくち おさむ 川 口 修	商1・2・3・4選必 経済1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在、簿記といえば技術的には、複式簿記を意味している。その簿記を商企業に適用したものが、商業簿記である。商業簿記は簿記を理解するうえで、最も基本になるものである。この講義では、簿記の基礎から仕訳・転記、計算表・精算表の作成、帳簿の縮切、損益計算書・貸借対照表の作成までの一巡について講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、簿記の基礎概念、仕訳と仕訳帳記入、元帳転記、簡単な決算手続きまでの一巡について講義する。ここまでは、いわば、簿記の骨格であるから、正確な理解をして欲しい。後期には、勘定科目の内容と具体的な事例の処理、決算整理事項を含む決算手続きについて講義を行う予定である。

履修上の留意点

簿記は、基礎の理解とそれに基づく積み重ねであり、不断の努力が必要とされるものである。講義は、テキストを中心に進めていくので、予習・復習が内容理解の上で大いに役立つと考えている。休まないで受講して欲しい。

成績評価の方法

試験は、前期と後期の2回を考えている。比重は、前期4・後期6程度とし、出席を考慮した総合評価を行う。詳しくは、最初の講義の時に説明する。

教科書

『簿記の基礎構造』（創成社）

参考書等

必要に応じてプリント等を配布する。
『簿記の基礎構造』ワークブック（創成社）

その他

計算を必要とするので指示をした時には、計算用具を持参して欲しい。簿記は実用性の高いものであり、会計関連科目の基礎となるものであるから、しっかりと学習・理解して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
財務会計論	えん どう 藤 たかし 孝	商1・2・3・4選必	4
		経済1・2・3・4選	

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET)、損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に、その性格、内容、役割について講義する。できるだけ時の実務上の会計問題にひきつけて講義する。例えば'98年度ではヤオハン、三田工業の粉飾問題。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰越資産の特殊性、繰越資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本会計について。

後期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週
同上。
- (14) 10月第1週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)。
- (16) 10月第3週
同上。
- (17) 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週

- 同上。
- (21) 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
 - (22) 12月第1週
同上。
 - (23) 12月第1週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
 - (24) 最終週
予備。
- 以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』(森山書店)1998年

参考書等

遠藤孝著『引当金会計制度の展開』(森山書店)1998年

その他

授業の方法、教科書、OHP、ときにプリント配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 数 学	みずの かつし 水野勝之	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済理論は数学を利用して説明される。しかしながら、初学者にとって、数学のうちどれが必要でどれが不必要かと判然としない。また、経済学の授業で突然数学が使われても、それを忘れてしまった諸君もいれば、はじめて目にする諸君もいるはずだ。本屋に行き、自分で勉強するために「経済数学」の入門書を手にとると、その難解な書き方がゆえに逆に嫌悪感を抱く人もいるはずだ。本講義では、諸君の経済学の勉強への数学の適用を念頭において、そこで多用されるであろう数学の基礎とその経済学への応用を行っていきたいと思う。経済学の例示は、マクロ、ミクロの経済学ととびとびになるが「経済学に利用される数学」という方針の下に体系化される。数学の苦手な諸君にも十分理解できるような授業の進め方をしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義は、従来の「経済数学」という、学問を初等的にアレンジし、かつ一般学生により役立つ形で進めていきたい。授業スケジュールは以下の通りである。

1. 数学の用語・記号
 - ① 関数
応用：効用関数と生産関数
 - ② Σ (シグマ)
応用：予算式の表示
 - ③ その他
2. 行列
 - ① ベクトルと行列
 - ② 行列の加減と積
 - ③ 行列式
 - ④ 余因子と余因子行列
 - ⑤ 逆行列
 - ⑥ 連立方程式
 - (1) 応用
 - ・マクロ経済モデル
 - ・価格の決定
 - (2) クラームルの公式
3. 微分と偏微分
 - ① 微分の意味と最大・最小
応用：弾力性
 - ② 微分いろいろ
 - ・積・商の法則
 - ・合成関数の微分
 - ・その他
 - ③ 偏微分
 - ・偏微分の意味
 - 応用：効用関数と限界効用
生産関数と限界生産力
 - ④ その他
 - ・全微分
 - ・オイラーの定理
 - ・ラグランジュ未定乗数法

履修上の留意点

前述のように数学が全く苦手がかまわない。しかし、苦手にもかかわらず出席をおこたることは避けてほしい（もちろん数学が得意な人も）。

成績評価の方法

総合的に評価する。

教科書

水野勝之著『テキスト経済数学』（中央経済社）
水野勝之著『マクロ経済分析入門』（創成社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

授業のあらまし：価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することでもある。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノ・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出される as if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる「経済」現象は生じないのである。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかかなりの部分がそのために準備と練習にあてられると期待したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、偏微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR 曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 消費曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノ・ナッシュ均衡
- (21) クールノ・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミクス』（成蹊堂）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 民 所 得 論	よしの 吉野 紀 <small>おさむ</small>	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」 5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」 8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」 4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果が取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」 5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R.J.ゴードン『現代マクロエコノミックス(上)』(第6版)(多賀出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
計 量 経 済 学	わら がい とも き 藁 谷 友 紀	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済・経営の実際を数量データを通して分析し、把握することを学ぶ。数量分析により、分析対象の量的検討のみならず、質的検討が可能であることを示す。計量分析とは何か、そこで用いられるデータはいかなるものかを明らかにし、自身で分析用具を動かしてみることにより、分析能力を身に付けるとともに、計量分析の結果を評価する能力の獲得をめざす。具体的には、計量分析を行なう上で必要な統計の基礎知識を習得し、計量分析の手法を学ぶとともに、経済・経営データを用いた実証分析を行なう。

講義の内容・
授業スケジュール

1) 統計知識の基礎、2) 統計的推計と仮設検定、3) 経済・経営データの種類とその構造・性質、4) 回帰分析、5) 計量モデル分析、6) 時系列分析、7) 産業連関分析、8) 企業行動の計量分析

履修上の留意点

受講の条件としてあらかじめ特別な知識を求めることはなく、また、これまで数字の扱いを不得意とする学生の受講も可能である。講義は基礎から応用へと、段階的に積み上げる形で進める。講じられた講義内容の理解は、次に続く講義へ進むための前提となることから、講義への毎回の出席が強く求められる。

成績評価の方法

定期試験の結果と平常点に基づく。

参 考 書 等

参考書・文献は適宜指示する。

そ の 他

コンピュータを用いた実習を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
統 計 原 論	よしの 吉 野 紀 <small>おさむ</small>	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代の統計学の基本は推測統計学にある という認識に立って講義を進めてゆく。それでは、推測統計学の基本とは何であろうか。サムエル・バトラーは「人生とは、不十分な証拠から十分な結論を引き出す芸術である」と言っているが、この文言の「人生」を「統計学」に置き換えるならば、相当の部分を言い当てていることになろう。「相当の」であって「完全に」ではない理由は、元来、人生には偶然性や不確実性がつきものであって、偶然が支配していると思えないデータから何がしかの決定や判断を下すためには、すべての経験に裏打ちされた人間性・人格を総動員して粗なデータをインテリジェンス（情報）へと昇華させなければならず、その過程こそ人生そのものであるからである。

統計学の扱う世界は不確実性が支配する世界であり、人間はこの偶然性に長い間悩まされてきた。「偶然とは、おそらく、神が自分の名をサインしなかつたときの、神の仮名であろう」(アナトール・フランス)。端的に言えば、統計学の住む世界では、どのような結論が下されようとも、そこには確実に誤りが何パーセントかの確率で含まれるのである。この世界の住人たることに何がしかの面白味を感じてもらえればと期待する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 記述統計 — 標本データの整理 —
 度数分布表
 統計値（平均値、中央値、最頻値）
 散らばりを表す統計値（分散、標準偏差）
2. 確率変数と確率分布
 2項分布
 ポアソン分布
 正規分布
3. 標本抽出と標本分布
 ランダム・サンプリング
 中心極限定理
 t分布
4. 統計的推定
 推定とは何か
 平均値の区間推定
5. 仮説検定
 検定とは何か
 平均値の検定
6. 回帰分析 I
 単純回帰モデル
 最小2乗法
 回帰と相関
7. 回帰分析 II
 回帰における統計的推測
 多変量回帰（重回帰）
8. 経済成長の見方
 弾力性の話
 eの話

履修上の留意点

第2講では、2項分布や正規分布の分布の様子を見るために、パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して、具体的なイメージをもってもらえるよう努めたい。

また、1-201教場を使ってインターネット上のタブレットにアクセスして授業を行うことも、年に数回予定している。

数学上の知識は特に必要としない。

教 科 書

最初の授業で指示する

科目名	担当者名	配当学科	単 位
景気変動論	にしむらみつよし 西村允克	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

全体としての経済は、景気回復→好況→景気後退→不況→景気回復→という循環を繰り返しながら発展してきた。この発展が景気変動論の対象であるから、この景気変動を繰り返しながら発展する経済過程を、いかに理解・把握するかが、この講義の中心目的となる。

講義の内容・授業スケジュール

講義は以下のように進められる。

I 国民所得決定理論

対象が全体としての経済であるから、全体としての経済の成果を示す経済数値である国内総生産（GDP）を動かす要因とそれらの要因の変化がGDPにどのような影響を与えるか、という問題をここで取り上げ、景気変動を理解するための理論的基礎を与える。

II テキストの批判的説明

景気変動は経済数量の変化によって説明されるから、テキストに示された数値や因を用いながら、戦後日本の景気変動の具体的な姿を解明する。

在庫投資循環（キッチン・サイクル）

設備投資循環（ジュグラール・サイクル）

コンドラチェフ・サイクル

の3つのサイクルがまず取り上げられ、それぞれをテキストの因・数値によって説明し、3つのサイクルの関係について説明する。

次に金融や輸出がサイクルといかなる関係があるかを説明する。

講義はテキストの順序に必ずしも従がうものではない。

履修上の留意点

景気変動は現実の経済と密接な関係をもっているから、受講者は毎日の新聞記事に注意して出席すること。

成績評価の方法

期末試験

教科書

森一夫著『日本の景気サイクル』（東洋経済新報社）3,150円

参考書等

篠原三代平著『戦後50年の景気循環』（日本経済新聞社）
嶋中雄二著『メジャー・サイクル』（東洋経済新報社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代資本主義論	きたはら 北原 勇	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代は「大失業時代」であり、また「金融システム危機の時代」である。そしてこの事態に対し、確固たる打開策も将来の展望も見いだせない状況にある。なぜ資本主義経済はこのような事態に立ち至ったのか、この正確な分析なしに今後の展望は語れない。本講義は、第2次大戦後の半世紀の歴史を概観しながらこの問題に迫ろうとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

まず、現代資本主義分析の方法を巡って正統派・宇野学派・レギュラシオン学派のそれぞれの特徴・有効性・限界を比較検討したうえで、①アメリカ主導の「冷戦下・国家独占資本主義体制」の成立・展開・解体の過程を、他方における「冷戦下・社会主義体制」の成立・崩壊の過程との関連で把握する。

なお、毎回、講義の冒頭に最新のトピックスについて解説する時間をおく。学生諸君が新聞をよく読み現代の様々な問題について考える習慣を身につけてもらいたいからである。

成績評価の方法

学年末試験。随時小テストを加味。

教科書

北原勇・伊藤誠・山田鋭夫『現代資本主義をどう視るか』（青木書店）2,500円

参考書等

北原勇『独占資本主義の理論』（有斐閣）
北原勇『現代資本主義における所有と決定』（岩波書店）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 思 想 史	なか がね さとし 中 金 聡	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義の主たる目標は、20世紀ヨーロッパにおける「社会」概念の変遷過程をたどり、来る世紀のあるべき社会像を構築するための予備的考察を試みることにある。もちろん「社会」とはいつでも、小は家族や隣人関係から大は国家あるいは超国家的組織まで、さまざまなレベルで分析の対象を設定することが可能であろうし、そのいずれのレベルに「社会」の本質をみるかによっても理論の地平や展望は異なってくる。そこで本講義では、とくに国家を考察の焦点に定め、政治思想史や経済思想史をも渉猟しながら社会の現代的位相について検討することにした。「社会」の構想と政治・経済体制とのあいだには密接な関連があり、そこにはしばしばイデオロギーの介在がみとめられる。国民国家の解体が指摘される現在、「社会」をめぐる旧来のイデオロギー的言説がどこまで妥当するのか、また新しい国家イメージの形成に際して「社会」にどのようなポテンシャルが残されているのか。それを考えていくのが本講義の課題である。

講義の内容・授業スケジュール

講義はおおむね教科書に準拠しつつ、以下のようなトピックを論じる（各項目について2ないし3回をあてる予定）。

前期

- 1 序論——20世紀という時代
- 2 全体主義の経緯
- 3 リベラル・トラディションの探求
- 4 保守主義の政治社会観

後期

- 5 公民哲学の再建
- 6 国家とは何か
- 7 社会・正義・権力
- 8 結論

履修上の留意点

講義形式で進めるが、受講者は教科書・参考文献の指定された箇所を前もって読んできてもらいたい。講義に際しては内容をできるかぎりわかりやすく説明するので、とりたてて予備知識はいらぬ。思想に興味があり、本を読むことに苦痛をおぼえない学生の参加が望ましい。

成績評価の方法

前期末のレポートと後期末の定期試験の総合点で評価する。なお出席調査を適宜おこない、評価の素材とする。

教 科 書

中金 聡『オークショットの政治哲学』（早稲田大学出版部）4,369円

参 考 書 等

前期レポートの課題は、藤原保信・飯島昇藏編『西洋政治思想史Ⅱ』（新評論）4,429円から出題する。そのほかに、講義および教科書の理解を補うための参考文献を適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 史	<small>わた</small> 渡 <small>なべ</small> 辺 <small>あらた</small> 新	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

日本経済の歴史的分析を通じ、第1に日本経済の通史的理解を深め、第2に経済史的な考え方および経済史の基礎的知識を学び、広い意味での歴史認識を養うことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主な講義内容は以下の通りであるが、近年の歴史学の研究動向を反映させ、できる限り隣接諸科学（たとえば国家論、地域社会論、女性論など）との接点を探っていききたい。

- ① 日本経済史の課題
- ② 前近代の経済構造
- ③ 日本における原始的蓄積
- ④ 日本における産業革命
- ⑤ 日本帝国主義の構造
- ⑥ 昭和恐慌と戦時統制経済
- ⑦ 戦後改革と高度経済成長

成績評価の方法

筆記試験ないしはレポートによって評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 経 済 史	とも まつ よし ひこ 友 松 憲 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「西洋経済史」という科目名を聞いて、20世紀の日本に生活している自分に18世紀や19世紀の西洋の経済を学ぶ意味があるのか、という疑問をもつ人もあろう。あるいは、これまでの経験から人名や年号の丸暗記を強いられる科目ではないかと思ひ、それだけでウンザリの人人もいるのではないか。

いうまでもなく、われわれは数百年まえの西洋社会に生活してはならず、21世紀の日本社会に向かつて生きていくのである。また、正確な事実認識はどんな科目でも大切とはいえ、たしかに歴史系の科目は他に比べれば覚えるべき事実は多いかもしれず、憂鬱な気持ちが理解できないわけではない。

しかしこの講義は、歴史的事実を解説し、それを暗記することを少なくとも主題にはしていない。講義が目指すことは、現代経済の特徴や問題がどのように生まれてきたのか、またそれが今後どう変化していくのかを、「過去の経済」=経済史の研究によって探ることである。具体的にいえば、近代ヨーロッパやアメリカの経済の歴史を、資本主義といわれる経済システムの成長、確立、波及、変質の歴史的歩みを中心に分析し、上記の課題に接近することである。

また、「西洋経済史」は経済学を学ぶうえでの基礎となる科目でもあることも指摘しておきたい。例えばこの講義からは、経済学の発達の歴史的背景を知るうえでの不可欠の知識を得ることが期待できよう。あるいは、資本主義発展の流れを理解し、そこに日本経済の歴史を位置づければ、現在の日本経済の特徴や問題にもより深い理解が可能になるように思われる。そうした意味で、「西洋経済史」は経済学の広範な諸科目と密接な関係をもち、経済学の学習にとり土台となる科目であることも付言しておきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 資本主義とはなにか
 - (1) 商品経済と市場経済
 - (2) 近代と前近代の経済
2. 前資本主義の経済（ヨーロッパ中世の経済）
 - (1) 村落「共同体」と農業
 - (2) 荘園制度
 - (3) 中世都市の商工業
 - (4) ギルド制度
3. 資本主義の成長
 - (1) 「封建制の危機」と資本主義の生成
 - (2) 農村工業の成長
 - (3) 海外市場の発達
 - (4) 国内市場の発達
4. 資本主義の確立（イギリス産業革命）
 - (1) 産業革命の原因
 - (2) 産業革命の過程
 - (3) 産業革命の結果
5. 資本主義の波及
 - (1) イギリス経済と世界経済
 - (2) 後発国の産業革命
 - (3) 植民地の形成
6. 資本主義の変質
 - (1) 「大不況」と資本主義の構造変化
 - (2) 植民地支配とその結果
7. 現代資本主義

履修上の留意点

講義は低学年でも十分理解できる内容であるが、教科書を使用しないので講義ノートをかみならず取ることが必要である。

成績評価の方法

期末試験、授業中の小レポートに出席状態を加味する。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

岡田泰男編著『西洋経済史』（八千代出版）1996年

長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門』（ミネルヴァ書房）1992年
石坂・船山・宮野・諸田著『新版西洋経済史』（有斐閣）1994年

そ の 他

質問等で研究室を訪問することを歓迎する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
農 業 政 策	こ ^{みや} 小 宮 ^{しょう} 昌 ^{へい} 平	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

日本農業の危機的状況を踏まえ、これまでおよび現在の農政の特徴を明らかにすることによって、今後の農政のあるべき姿を探る。経済原論(主としてマルクス主義経済学)を基礎としつつ、農業経済学、経済政策論一般、日本経済史ならびに現代経済とも関連させながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

- I 序論
 - 1 経済学と経済政策
 - 2 なぜ今農業政策か
- II 農業政策の特殊性
 - 1 農業の特質
 - 2 農業政策の特殊性
- III 第二次大戦前の日本農業と農業政策
 - 1 前史—封建制下の日本農業
 - 2 明治の土地変革と第二次大戦前の日本農業
- IV 敗戦と農地改革
 - 1 農地改革および国の基本政策としての農業政策
 - 2 農地改革の徹底性および不徹底性
 - 3 食糧管理制度、食糧増産政策、土地改良政策
- V 高度成長と農業政策
 - 1 高度成長期の農業政策の基本—農業基本法(1961)
 - 2 農業基本法農政の展開
- VI 農業基本法農政から「国際化」農政への過度
 - 1 1970年代以後(稲作減反以後)
 - 2 1980年代前半
- VII 「国際化」農政への転換—農政の「国際化」への没入
 - 1 1980年代後半—「21世紀に向けての農政」
 - 2 「新政策」
- VIII 現在の日本の農業政策—新基本法にむけて
 - 1 「新基本法」の背景
 - 2 「新基本法」とそれにもとづく農政の方向
 - 3 個別政策
- IX 世界諸国の農業政策
- X まとめ—21世紀の農業政策の展望

(以上前期)

履修上の留意点

講義にあたってはなるべく現代的な問題を中心にプリントを配布する。講義中における参考文献その他、関連文献を広く読んでおくことを望む。

成績評価の方法

論述問題による試験(講義終了後1回)。

教 科 書

田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策』(有斐閣ブックス)1996年

参 考 書 等

講義の進行に沿って随時示す。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
工 業 政 策	ふく だ あつし 福 田 敦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

21世紀を目前に社会経済システムが大きな転換期にある今日、企業は先行き不透明な経営環境下で事業戦略の再構築に向けて懸命な取り組みを行っている。これまで競争の秩序が維持されてきた業界においても、有力企業同士の業務提携や合併、広域あるいはグローバルな規模での資本移動に伴う市場勢力の再編など、複雑系の経済学で説明される収獲逡増を象徴するかのようダイナミックな展開が見られる。産業の空洞化や雇用問題を中心にこうした動きが地域経済に及ぼす影響は大きく、各自治体では地域産業の主要な担い手である中小企業の創意を啓発するための対応が喫緊の課題となっている。

この講義では首都東京の産業活動の実態と中小企業の経営動向を分析するなかで、21世紀に向けた中小企業の展望と戦略的課題について検討するとともに、彼らを支援する行政施策のあり方を学際的な領域まで含めて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 東京の産業活動と中小企業の動向
 1. 東京の産業活動と集積の特色
 2. 産業別の動向（製造業、卸売業、小売業、サービス業）
 3. 中小企業の景気動向
- II. 東京の製造業の構造変化と経営活動
 1. 製造業の構造変化
 2. 中小製造業の企業活動と経営成果
 3. 東京の中小製造業の展望と課題
- III. 東京の卸売業の構造変化と経営活動
 1. 流通経路の構造変化
 2. 中小卸売業の企業活動と経営成果
 3. 東京の中小卸売業の展望と課題
- IV. 東京の小売業の構造変化と経営活動
 1. 小売業の構造変化
 2. 中小小売業の企業活動と経営成果
 3. 東京の中小小売業の展望と課題
- V. 地域産業政策の現状と課題
 1. 国の産業政策の動向
 2. 自治体の重点施策の状況
 3. 自治体における取り組み課題

履修上の留意点

単に講義を聞くだけでなく積極的に授業に参加する意欲的な学生の受講を歓迎したい。各種資料の説明は OHP で、具体的な事例紹介はビデオを活用する予定である。

成績評価の方法

期末のレポート試験（80点）と授業への貢献度（20点）により総合的に評価する。原則として出席はとらない。

教 科 書

平成10年版 東京都中小企業経営白書（製造業編）東京都
 9年版 東京都中小企業経営白書（小売業編）東京都
 8年版 東京都中小企業経営白書（卸売業編）東京都

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経 済 地 理	須 ^す 山 ^{やま} 聡 ^{さとし}	経済・商1・2・3・4選	4

専
門
教
育
科
目

講義のねらい	地域の経済的つながり、地域経済の分析、経済の地域間格差を理解するためのツールとしての地理学的観点や基本概念を提供する。
講義の内容・授業スケジュール	前期はおもに地理学の目的と基本概念を図上実験を交えて講義する。後期には経済現象の地域的な捉え方の例としていくつかの地域の産業活動を例に講義を進める。
履修上の留意点	前期の講義をないがしろにすると、後期の内容が理解できなくなるおそれがある。積極的な参加を望む。
成績評価の方法	学年末試験（60%）、出席（40%）で評価するが、場合によってはレポートも課す。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書等	地図帳（高等学校で使用していたものでよろしい）を持参されたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	三井逸友	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「中小企業」を論じるということは、意外に容易ではない。なぜなら、「社会科学的概念」を抽象的に論じるのではなく、慣れ親しんでおり、それなりの「固定概念」や「イメージ」が「言霊」としてつきまとっているのが、日本語の慣用語の一つとしての「チューショーキギョー」だからである。しかしそんな「日用語」を一年もかけて論じようというのがここでのねらいではない。ねらいはむしろ、「中小企業は経済のきわめて重要な(critical)構成要素である」(クリントン米国大統領)と評される事実を、客観的総合的にとらえ、考えていくことにある。

日本の中小企業はその数約600万、企業の99%、従業者数の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万を数え、付加価値の50%以上を生み出している。まさしく、『日本は「中小企業国」だから強い』(森清著、ダイヤモンド社刊)のである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が十分その成果の恩恵にあずかっていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差・不利・経営不安などの「問題状況」も依然広く見られ、長期不況と信用収縮の中でまた、きわめて深刻ともなっている。しかもこのように「期待」と「困難」とが交錯するという事態は、いずれの国でも共通して確認できる。

中小企業をめぐる現実をとくカギを、その役割と当面する問題、そしてこれに対する経済学的な理解の方法を検討し、中小企業の役割・可能性とこれを妨げる諸問題への政策的対応の意味を通じて明らかにしていくのが、この講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

第一部 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況

ここでは、「中小企業論」の性格と方法を示し、その対象としての中小企業の存在の実態を、国際比較を含めて概観する。その上で、中小企業が直面している問題状況や、中小企業の新生・成長と転廃業・退出の経済的社会的メカニズムを具体的に検討し、「日本の中小企業問題」の位相と今日性を再確認する。

第二部 「中小企業論」研究の理論と方法

ここでは、中小企業の存立と問題性をめぐる従来の理論・研究を振り返り、新たな方法を提起する。「中小企業存立論」「問題論」や「貢献論」だけでなく、今日の「企業家論」、さらに、いわゆる「ベンチャー企業論」や「企業家精神論」、「ポストフォーディズム論」もここでの批判的検討対象である。それらの限界性をふまえて、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけの方法を指摘する。

第三部 中小企業の現代的存在形態と「経済システム」「経済的関係」

ここでは、うへの研究方法にもとづいて、中小企業の存在の実態を構造的に解明する。「下請制」「地場産業産地」「大都市中小企業」などといった、我が国の従来の中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追う。あわせて、80年代後半以降の、日本企業の「国際化」のもとでの、日本的企業間関係と管理手法の「輸出」「現地化」の示した特徴と限界から、中小企業の存立の普遍的意味をあらためて考える。結合生産力の「効率性」と、競争と統制・管理の原理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうちの問題状況・「自立」企業の可能性と経営展開の意義が、基本的な視角となる。

第四部 中小企業政策の展開と国際比較

ここでは、「中小企業問題」の展開とこれに対する各国の「中小企業政策」の国際比較研究を行う。ポイントは「生産力的」に成功を収めてきた我が国の「中小企業近代化政策」の評価であるが、これに対する欧米の政策の相違、そして世界経済の一体化、地域経済圏の形成のもとでの、近年の「収斂傾向」を検討し、特にEU欧州連合ならびに欧州諸国の政策の最新の特徴にふれる。また、我が国についても、近年の「構造転換」対応策、創業促進策、ベンチャー企業支援策なども検討する。

履修上の留意点

中小企業の研究は、ナマの企業の実態から始まるものであり、その意味で現実感覚が大切である。講義の中では、「教科書をなぞる」ようなことはなるべく避け、今日の現実的な話題を重視したいので、教科書くらいは事前に読んでおくようにしてほしい。また、夏休みには補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。

成績評価の方法

基本的には、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。「出席」を取るという空しい作業をするつもりはないが、「出席状況」は加味する。

教科書

三井逸友『現代経済と中小企業』(青木書店) 2,800円(税抜)
同編『日本の生産システムの評価と展望』(ミネルヴァ書房) 予定

参考書等

三井『EU 欧州連合と中小企業政策』（白桃書房）2,330円
巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ新版』（有斐閣）2,200円
中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕
中小企業総合研究機構訳編『ヨーロッパ中小企業白書 1997』（同友館）3,500円
佐藤編『21世紀、中小企業はどうなるか』（慶大出版会）2,300円

その他

「講義」形式を基本とするが、企業のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、「ベンチャー」起業家、企業経営者や行政関係者の方々の話なども取り入れたい。その中で、企業の経営実態、産業動向等についての、担当者の世界各地や全国での最新の見聞も豊富に活用していく。また、諸方面の WEB サイトの提供する情報は（担当者自身のものを含めて）、必須の材料である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
環境経済論	やまぐち ゆうじ 山 口 由 二	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

産業革命以降、人類は無限とも思える生産力を得て、それまでとは比べものにならない急速な経済発展・成長を成し遂げてきた。この大量生産、大量消費を美徳とする社会における経済成長は、すべての人々に文化的で豊かな生活を与えるものとして、これまで、声高に異議を唱える者はほとんどいなかった。しかし、21世紀が間近にせまる現在、様々な矛盾が露呈してきている。そのもっとも大きな問題が、環境問題である。

現在の環境問題は、かつての水俣病に代表される公害問題のように加害者と被害者が明確に分離されるものばかりではなく、地球温暖化のように、ほとんどすべて人々が加害者であると同時に被害者となりうる問題や、熱帯雨林の破壊や、酸性雨問題のように、貧しさゆえに引き起こされ、そのことが南北問題にまで発展しているより複雑な問題もある。

本講義では、経済成長と環境の相互関係を歴史的視点と理論的視点の両視座から論じると共に、様々な事例を提示して経済成長の意味や、経済成長と環境破壊とのトレードオフの関係について論じる。この講義を通して、受講者の方々に環境経済学への問題意識を喚起したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、おもに、指定した教科書に沿って、資源・環境問題、及び環境経済学を理論的に論じる。その上で、後期では、地球温暖化問題、国有林や東京湾の漁業のコスト・ベネフィット分析、捕鯨問題、自動車の社会的費用、農業の環境問題など様々な事例を取り扱う。

履修上の留意点

本講義は、近経の基礎的知識を必要とするが、講義過程でその都度、簡単に復習を行いたい。環境経済学は、まだ確固とした学問体系が出来上がっておらず、発展的余地があり今後ますます重要となる研究分野である。この講義で積極的な質問や議論ができることを希望する。

成績評価の方法

前期・後期それぞれ、テストを行う。
また、適宜に簡単なレポートを提出していただき、これも考慮する。

教科書

未定、最初の授業時に指定する。

参考書等

- ・ K.W. カップ著 篠原泰三訳『私的企業と社会的費用』(岩波書店)
環境経済学の古典的名著。生産過程で第三者や社会が受ける、公害、環境汚染による損失を社会的費用として、大気汚染、水質汚染、動植物の絶滅、人災、エネルギーの枯渇、森林の濫伐等について理論と実際の両面で分析を試みている。1950年に原著は刊行されている。
- ・ 宇沢弘文著『自動車の社会的費用』岩波新書(岩波書店)
若い人ならば皆大好きで、現代社会においてこれなしには成り立たないと思われる自動車の外部不経済性を徹底的に追求した名著。私が自動車の免許を取らないのもこの本を読んだため。宇沢氏は日本の近経の一人者で、ノーベル賞をもらってもまさか文化勲章はもらうまいと思っていました…。ちょっと古い本だがおすすめ。
- ・ 宮本憲一著『環境経済学』(岩波書店) 3,600円ぐらい
筆者は公共経済学者、政治経済学者の立場から長年様々な公害問題に立ち向かってこられた。環境経済学を「容器の経済学」と称し、環境をあらゆる経済活動の“容器”としてとらえている。やはり、読んでおいてほしい本。
- ・ 環境庁編『環境白書平成10年度版 総説・各論』(大蔵省印刷局)
白書というと堅苦しく難しいイメージがあるが、『環境白書』は、現在の環境問題についてかかれている良書。総説は毎年サブタイトルが変わり10年度版は「21世紀に向けた循環社会の構築のために」である。一昨年の地球温暖化京都会議の成果から現代のゴミ問題を取り挙げている。私も毎年買うようにしているが総論・各論併せて厚さ5センチで本棚の少ない我が家では置く場所に窮してきたのが悩み。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 方 財 政 論	しの 篠 原 章 あきら	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

地方財政の枠組みを理解するとともに、地方財政の基本問題を分析するための基礎的な手法を学ぶことを主眼とする。時事問題なども、折に触れて取り上げる予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

年間を通じて以下の項目を講義する予定である。

[基礎編] (主として前期)

1. 地方財政論を学ぶということ
2. 地方公共支出の役割
3. 地方公共支出の現状
4. 地方公共支出と公共財供給
5. 租税体系と地方税
6. 地方税制度の歴史と現状
7. 負担と受益
8. 地方債の基礎知識

[応用編] (主として後期)

1. 分権と集権
2. 地方財政調整の実態
3. ケーススタディ：沖縄問題と地方分権
4. 地方財政と地域開発
5. 地方財政制度の国際比較
6. ケーススタディ：高齢化社会と地方財政
7. ケーススタディ：「東京」の社会経済学

履修上の留意点

初学者を対象としたコースだが、財政学の知識があれば、より深く理解することができる。したがって財政学の履修経験があるか、財政学を履修中であることが望ましい。

成績評価の方法

学期末に筆記試験またはレポート提出を義務づける。また、少なくとも前後期各1回は課題を示し、簡単なレポートも作成してもらう。

教 科 書

斎藤慎・林宜嗣・中井英雄共著『地方財政論』（新世社）2,400円（本体価格）

参 考 書 等

参考書・参考文献・資料等は随時指示する。

そ の 他

テキスト・参考書以外に、新聞等の時事的な資料やビデオ資料等もしばしば利用する予定である。質問等については電子メール（akirashi@ic.daito.ac.jp）でも受けつけるので、ぜひ活用してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 金 融 論	さいとう ひさひこ 齊 藤 壽 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

前期は外国為替および国際金融市場について説明する。

- 4月：外国為替の仕組み
- 5月：外国為替相場論
- 6月：外国為替銀行論
- 7月：国際金融市場論

後 期

後期は国際通貨、IMF体制、旧IMF体制崩壊後の国際金融上の諸問題、日本の国際金融について講義する。

- 9月：国際通貨の理論
- 10月：IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊
- 11月：変動為替相場制、SDR、ユーロダラー、インターナショナル・バンキング
- 12月：戦前日本の国際金融、戦後日本の国際金融（とくに日本の金融の国際化としての円の国際化、銀行の国際化、東京の国際金融センター化、日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展）
- 1月：講義の要約と国際金融の将来展望

履修上の留意点

できるだけ出席するよう履修者に望みたい。年に数回出欠を点検する。また前期授業の最後に小論文（試験ではない）を提出してもらう。

成績評価の方法

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

教 科 書

授業時間中に指定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 口 論	もり 森 おか 岡 じん 仁	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

人口に関わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。経済と人口との関係はどちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に成立しその後大きな発展を遂げた経済人口学は、この点に注目する人口学の一分野であるが、本講義も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追求するものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論及してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている関心事であり、将来益々その重要度を高めていくことは周知の事実である。

一方発展途上諸国に生じている急激な人口増加の問題は、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。真の人口問題が不明確だとすれば、それに対応する政策も不適切なものにならざるをえない。的確な事実判断の下に適切な政策を施すには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。ここでは、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養い、政策論にも言及してみたい。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めることによって、一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら近年の先進諸国においては子供を公共財的に扱う傾向があり、人口問題が国民一人一人の問題になっているからである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 人口高齢化の経済的諸問題
- IV. 人口政策

履修上の留意点

履修に当たっての条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、出席状況

教 科 書

大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』（新評論）1981年

参 考 書 等

大淵・水野・森岡・吉田訳『マルサス人口の原理』（中央大学出版部）1985年
大淵寛・黒田俊夫編『現代人口問題』（大明堂）1990年
国際人口学会編（日本人口学会訳）『人口学用語辞典』（厚生統計協会）1994年

そ の 他

授業の方法：講義

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 経 済 論	谷 敷 正 光	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (8) クリントン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (9) サッチャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (10) メージャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (11) ブレア首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (12) 学制時代における実業教育政策 1 富国強兵・殖産興業 (映画)
 - (13) 学制時代における実業教育政策 2 学制公布と実業教育
 - (14) 教育令時代における実業教育政策 1 工場払下
 - (15) 教育令時代における実業教育政策 2 教育令公布と実業教育
 - (16) 学校令時代における実業教育政策 1 産業革命
 - (17) 学校令時代における実業教育政策 2 学校令公布と実業教育
 - (18) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (19) 復興期の経済発展と教育 1 (一部ビデオ)
 - (20) 復興期の経済発展と教育 2 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
 - (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (24) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30~40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参 考 書 等

沼口博『学校教育と経済発展』(学文社)
小林泰宏『アメリカで進む教育改革』(朝日新聞社)
原田和男『ブッシュの米国経済』(日本経済新聞社)
宮崎正宏『クリントンの日米経済』(銀河出版)
森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』(岩波新書)
天野郁夫『教育と近代化』(玉川大学出版部)

その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア ジ ア 経 済 論	かく 郭 とう 洋 しゅん 春	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「世界経済の成長センター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。しかし、1997年7月以降、アジア各地に波及した通貨・金融危機は、世界経済そのものの根幹を揺るがしている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、貧の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。その際、我々の身の回りから見たアジア、という視点についても触れていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN、⑤日本に来るアジア人旅行者

II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁、⑤アジアに広がる日本文化

IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと前期末レポート、学年末試験を合わせた総合評価

教 科 書

郭 洋春『アジア経済論』（中央経済社）3,360円

参 考 書 等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）3,045円。他は授業中に随時紹介する。

そ の 他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみながるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この3点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
これにつづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれぬであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア メ リ カ 経 済 論	瀬 戸 岡 紘 <small>せとおかひろし</small>	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・
授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

- ◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

- ◇アメリカの建国の理念と現代の経済
- ◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

- ◇アメリカの農業
- ◇アメリカの工業
- ◇アメリカの企業家とベンチャービジネス
- ◇アメリカの雇用と労働者
- ◇アメリカの商業とサービス
- ◇アメリカの交通・通信・情報
- ◇アメリカの金融
- ◇アメリカの教育と経済
- ◇アメリカの科学技術
- ◇アメリカの先端産業
- ◇アメリカ経済と環境問題
- ◇アメリカ社会とヴォランティア
- ◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

- ◇国際通貨ドルの地位とIMF
- ◇アメリカと貿易 (GATTとWTO)
- ◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義
- ◇アメリカの海外援助
- ◇アメリカの多国籍企業
- ◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとカナダ・メキシコ
- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋

《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

授業の方法

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたどちどって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにところがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらおうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

教科書・参考書等

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳 青木書店 1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	し 清 み ず た かし 卓	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、ここ数百年、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

1980年代末のソ連を盟主とする「共産主義」体制の崩壊以降、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っています。このアングロサクソンの新自由主義経済システムが地球人類のかかえる諸問題にとって有効である否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討します。

欧州連合（EU）の11カ国は、今年1999年単一通貨ユーロを発行します。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指しています。一般市民がユーロ紙幣や硬貨を使用するようになるのは2002年ですが、このユーロが安定通貨になるか否かは、世界経済に大きく影響します。

1997年には、イギリス、フランス、1998年にはドイツで社会民主主義政党が政権につき、EU 15カ国のうち13カ国が左派中道政権となりました。こうした政権が、グローバル化に対応して、第二次大戦後作り上げた福祉国家の成果をどのように継承ないし刷新して行くのかが注目されます。とりわけ、公営企業民営化やリストラによる高失業率をどのように解決していくのか手腕が問われています。通貨統合と併行して進められる東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きも目が離せません。

講義の内容・
授業スケジュール

【前期予定】

第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ
 欧州統合への歩み－EECへの道
 西欧経済の高成長
 経済統合の展開－関税同盟
 経済統合－共通農業政策
 経済成長の限界－スタグフレーション
 経済危機下のEC－通貨危機
 経済危機への対応(1)－サッチャーリズム
 経済危機への対応(2)－ミッテランの実験
 1992年市場統合－非関税障壁の克服
 経済通貨同盟－単一通貨ユーロ
 前期試験

【後期予定】（EUの最新動向をフォローするためテーマを変更することがあります）

ヨーロッパの多様性－地理・民族・文化
 EUの農業－多様性
 EUの産業－強さと弱さ
 EUの機構と財政－超国家か国家連合か
 EUと地域政策－地域格差の克服
 EUの拡大－東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題
 EUの対外関係－日本との比較
 欧州の平和問題－冷戦と民族問題
 後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実に向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、試験点数を基本とし、出席回数にも若干配慮します。なお、再試験は行わないので注意してください。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

参考書については授業中に紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることではできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・
授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からベレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ベレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報・経済ネットワーク論	なか すみ みつ あき 中 濟 光 昭	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義は、

- 1 情報リテラシーを身につける
- 2 パソコンを駆使して情報ネットワーク上の経済システムを探求することを目的としている。

パソコンの実習および課題を通じて、電子メール、WWW等のインターネットの利用、さらには、ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel) を使って、レポート作成を行えることが1のゴールであり、インターネットでの電子商取引、オンラインバンキング、オンライントレードリングなどについて理解することが2のゴールである。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：

- 1) Windowsの基本操作
- 2) インターネットとは？
- 3) インターネットから情報を得るには？
- 4) WWWを楽しむ
- 5) 電子メールを使ってみよう
- 6) 電子メールを使いこなす
- 7) ワード (ワープロ) を使ってみよう
- 8) ワードで図や表を描いてみよう
- 9) エクセル (表計算ソフト) の基本操作
- 10) エクセルで計算してみよう
- 11) エクセルでグラフをつくろう
- 12) レイアウトを考えたレポートをつくろう
- 13) 総合課題の説明

後期：

- 1) 電子商取引
- 2) デジタルマネー
- 3) オンライントレード
- 4) オンラインバンキング
- 5) インターネット広告
- 6) インターネット放送局
- 7) テーマを決めてグループワーク、レポート作成

履修上の留意点

コンピュータの初心者を想定した講義を行う。単位取得には出席と予習・復習が必須である。時間が合えば、他大学との遠隔講義など情報ネットワークを活用した試みも行う。

成績評価の方法

レポート、出席による

教科書

初回の講義で指示

参考書等

初回の講義で指示

その他

- ・本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがある。初回の講義に「必ず」出席すること。
- ・メールアドレスを持っている前提で講義を進めるので、本講義を選択する学生は、早急にメールアドレスを取得すること。
- ・講義に関する質問などは、事前予約の上、第2研究館4F 2437研究室 (tel: 03-3418-9352) に来室するか、nakasumi@komazawa-u.ac.jp にメールすること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
プ ロ グ ラ ミ ン グ 論	はまもと かず ひこ 濱 本 和 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在の社会においてコンピュータはあらゆる分野で使用されており、その重要性は非常に高い。それに伴いソフトウェアの機能強化が必要とされており、ソフトウェアの開発におけるプログラミング技術の重要性はますます高くなっている。またコンピュータの使用環境もスタンドアロンからインターネットなどのネットワーク上での利用へと変化し、それに伴って供給されるソフトウェアを記述するプログラミング言語も変化している。

本講義ではまず、ソフトウェア開発におけるプログラミング技術の位置づけを明らかにするために、ソフトウェア工学の基礎について講義する。次にプログラミング技法とプログラミング言語について講義する。プログラミング言語としてはC言語とJavaを扱い、実際にソフトウェアを作成しながら包括的なプログラミング技術、ソフトウェア開発について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、ソフトウェア工学の基礎とプログラミング技法（構造化やオブジェクト指向）について講義する。次に、プログラミング言語について実際に演習（ソフトウェア作成）を交えながら講義する。言語としてはC言語とJavaを扱う。前期にC言語、後期にJavaを扱う予定である。C言語は第2種情報処理技術者試験レベルを目標として、各種データ構造からポインタ、関数、構造体、ファイル操作まで講義する。Javaでは、主に、インターネットのWWW上でプログラムを発信するためのJavaアプレットについて講義する。いずれも実際に演習を行い、「アルゴリズムの作成」、「流れ図の作成」、「コーディング」、「コンパイル」、「実行」、「デバッグ」、というソフトウェア開発の流れを学習する。

履修上の留意点

できるだけコンピュータの初心者に対しても理解しやすいように講義を行うが、各自の予習復習が理解のためには必要である。

成績評価の方法

講義中に出す課題、長期休暇中に課すレポート、および中間試験、期末試験により評価する。

教 科 書

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書 等

講義中に指定する。

そ の 他

講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 処 理 論	くろ べ こう いち 黒 部 晃 一	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

CG (コンピュータ・グラフィックス) が包括する主要アイテムを、市販ツールの操作を通して学習し、その上で自らプログラミングを試行することで、CG アルゴリズムがビジュアライズされるプロセスについて学ぶ。

 講義の内容・
授業スケジュール

- ・ 3DCG ソフトウェアのオペレーションと 2D グラフィックスの 3D グラフィックスへの適用。
- ・ プログラミング言語 C++ の習得。クラス概念とオブジェクト志向型への理解。
- ・ Windows プログラミング。Dos プログラムと比較しながら、Windows システムが発するメッセージとそれを処理するハンドラのメカニズムの生成。リソースの作成とそのソースプログラムへの導入。
- ・ フラクタル画像生成。オートマトン／コッホ曲線／中点変位法／非整数次元とマンデルブロ集合／樹木
- ・ 光線追跡法 (レイトレーシング) アルゴリズムとプログラミング。モデリングとレンダリング／オブジェクトアフィン変換／内部論理演算と外部論理演算／鏡面反射モデルと屈折モデル
- ・ 自ら書くプログラムによる画像生成。

成績評価の方法

出席状況と提出課題について評価。

教 科 書

プリント配布

参 考 書 等

山岡祥『3D グラフィックス』(森北出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 品 学	いし ぎき よし ぶみ 石 崎 悦 史	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在の商品の状況は変化が激しいが、消費者のニーズと企業との関係のなかで出現するものである。それをもとにして、商品の将来と社会生活の変化を考えたい。

現実のなかから商品学の体系を作り出すという手法を試みようとしているが、これが成功するかどうかは学生諸君の参加の程度にかかっている。自分の頭で考えるという習慣を大学生としてもたないと勉強はほとんど意味をもたないからである。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書の順にしたがうが、現実をいかに抽象化していくかということを念願にしているので、商品ブランド、CMなどの役割から社会科学の体系まで考えるプランを実行してみたい。教科書をみて判断して下さい。

成績評価の方法

前・後期に筆記試験をおこなう。

教 科 書

石崎悦史『商品知識イノベーション戦略』（同友館）2,000円

参 考 書 等

- (a) 石崎悦史『商品学と商品戦略』（白桃書房）
- (b) 片岡寛編著『市場力学を変える商品多様化戦略』（中央経済社）
- (c) 片岡寛編著『拡大する栄養ドリンク市場』（中央経済社）
- (d) 見目洋子『「生活福祉」を実現する市場創造』（中央経済社）

授業の方法

例年受講者が多いので、大教室での講義形態をとらざるをえないが、勉強をおもしろくするための方向性を示したいと考えている。勉強が生きる力になることを期待したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
交 通 論	こ い しゅう ぞう 小 出 修 三	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

交通に対する政策には、さまざまな政府による経済的な規制が非常に多い。鉄道、航空などの運賃は規制緩和の方向にあるものの、現在もおお、政府による規制制度の下にある。また、その市場に参入することも容易なことではなく、航空路線への新規参入も大きな話題となるほどである。ほとんどの商品やサービスを生産する一般の企業はその価格の決定や市場への参入退出が自由に行われていることを考えた場合、交通産業が置かれた経営環境は大きく異なる。本講義では、交通に対するこうした政府による公的規制がどのような理由によって行われているのか、そしてそれが社会に対してどのように影響を及ぼしているのかを考察することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では、上述のように、交通に対する規制制度を理解するために、前期においては各種交通機関を横断的に検討するとともに、日本における事業分野別に各交通機関の市場構造について概観する。そして、その規制制度について諸外国での制度と比較しながら、実体面および理論面からどのような議論がなされているのかについて考察する。

1. 交通産業の規制制度、そしてその変化（交通公企業の民営化の論議を含む）
2. 運賃料金制度
3. 交通調整制度、補助政策（総合交通体系論を含む）

後期においては、各交通機関別に以下のとおりの順で各論を展開しながら、それを通じて都市間交通、都市・地域内交通、および国際交通の実態について考察し、そこにおける問題点について論じる。

4. 鉄道
5. 道路輸送
6. 航空
7. 海運

成績評価の方法

定期試験の成績によって評価する。

参 考 書 等

テキスト・参考文献については毎講義に配布するレジюмеに、その講義の理解するために必要な文献について示すのでそれを参照してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	こ 幸 の 野 やす 保 の 典	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

商業史とは、各時代の人間の経済生活のなかでとくに商業活動を取りあげて、その具体的役割や歴史的な変遷を明らかにする学問だといってよいであろう。この場合の経済生活とは、人間が生存のために必要な生活必需品などさまざまな財貨（商品）を獲得し、それらを消費しながら日常生活を繰り返すことである。広義の商業とは、財貨がどこで生産され、どのような経路で生産者から消費者へ運ばれ売られるかに関わることである。

経済の発達した現在では、消費者は必要な消費財をみずから生産せず、第三者が生産した財貨を商品として市場から購入しなければならない。人間の経済生活は市場における商品の売買という取引行為を通して営まれている。そして、商品売買という取引行為が生産活動から独立した場合、商品を購入して再び販売するこの取引行為は生産とは別の独立した職業として専門的に営まれることになる。これが本来の意味での商業で、それを専門に営む者が商人である。

このように、本来の商業は市場における商品の購入と再販売という連続した二つの取引からなっている。しかし、現実には商品取引が行なわれる場合には、金融業（信用業務）、通信業（発注・受注業務）、保険業（商品の保全）、運輸業（商品運送業務）、倉庫業（商品の保管）などが商品の売買に付随して行なわれることから、これらも商業の範疇として考えられ、商業史の対象となりうる。外国との商取引である貿易も商業史の重要な一部門である。

このように商業史の対象は多岐にわたるが、本講義では、日本における小売商問題、とくに大正・昭和期の小売商問題に重点をおきたいと思う。それは、今日の小売商問題の源流を探るうえで重要であると考えられるからである。経済史とのかかわりのなかで商業史をみることは当然のことではあるが、小売商問題に限っては社会史や文化史からのアプローチも重要な要素となる。経済的効率のみから小売商問題を理解したり、外国との経済摩擦の解消策としての規制緩和問題に重点を置き解決を計ろうとすれば、地域文化の崩壊や個性の喪失はまぬがれないと考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 商業史の課題と方法（1回）。
2. 近代以前の商業（2回）。
3. 明治期の商業、①近代商業の経済的環境（1回）、②近代商業経営の成立（1回）。
4. 大正・昭和期の小売商問題、①小売商の社会経済環境（1回）、②商業人口の過剰現象とその定着度、（1回）、③中小事業者の零細性（1回）、④各種小売形態の発展、a. 百貨店の発展（2回）、b. チェーンストアなどの発展（1回）、c. 小売市場の設置（1回）、d. 商店街の形成（1回）。
- ⑤中小小売商の経営実態、a. 小売商経営の実態（1回）、b. 小売商問題の発生と社会的認識（1回）。
- ⑥中小小売商の社会運動、a. 営業税反対運動（1回）、b. 政党運動の展開（1回）、c. 反百貨店運動（1回）、d. 反産運動・その他の社会運動（1回）。
5. 戦時下の商業、①商業の再編成（1回）、②転廃業問題（1回）。
6. 戦後の小売商問題、①中小小売商の保護政策（1回）、②流通革命とスーパー・マーケット（1回）、③コンビニエンス・ストアの発展（1回）を予定している。このほか、5～7回特色ある各地商店街の発展史を取りあげる。

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

前期にレポート、後期に試験を実施する。

教科書

とくに指定しない。毎回講義にはレジュメを用意する予定である。

参考書等

- 竹林庄太郎『日本中小商業の構造』（有斐閣）1941年
 糸園辰雄『日本中小商業の構造』（ミネルヴァ書房）1975年
 藤田貞一郎、宮本又郎、長谷川彰『日本商業史』（有斐閣）1978年
 石坂昭雄、壽永欣三郎、諸田實、山下幸夫『商業史』（有斐閣）1995年
 白澤恵一『地域経済と小売商業』（溪水社）1982年
 鈴木安昭『昭和初期の小売商問題』（日本経済新聞社）1980年など

その他

授業の方法－講義を中心に行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
消 費 経 済 論	こ 小 谷 正 守	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

いまなぜ「消費経済論」か、を問う講義である。成熟社会を迎えたわが国は、物的な生活手段としての商品は店舗にあふれ、欲望の対象としての商品は商店街、デパート、スーパー、専門店などに満ちあふれて山積みされ消費者の購入を待ち受けている。すべての欲望は、お金さえ出せば買える時代になっている。生産は完全に消費量を超過する遊休設備をかかえて、平成不況を耐えているのが現状である。また、あり余る消費は家庭ゴミを増やし、ゴミ焼却やゴミ埋立地に深刻な問題を抱えている。大量輸入される製品輸入、例えば食料品や紙製品などは輸入先の国では深刻な資源問題を抱えている。豊かさを求めて発展したわが国が経済がこのような成熟社会を迎えて、消費者は何をなすべきか、何をなさないと次の21世紀を乗り越えることができないかを問う講義内容にしたい。講義概略の主要項目は、以下の通りである。

講義の内容・
授業スケジュール

[前期講義内容]

1. 消費経済論の対象と方法（消費経済学とはどんな学問か）
2. 消費者の概念～欲望や欲求とはなにか
3. 人間の生活のいとなみ～個人と社会生活と関連して
4. 消費と消費者の概念～欲望、欲求と関連して
5. 資本主義と消費、消費者～資本制生産は売れるもの売りたいものを無限に作るシステム
6. 消費と消費者の経済理論～消費することによってどのような理屈があるか
7. まとめ

[後期講義内容]

1. 消費問題の発生と展開
2. 消費者運動の生成と発展
3. 消費保護行政（消費者政策）の対象と方法
4. 家計調査と消費者
5. 生産、流通、消費の関連性
6. 消費者問題と生活環境問題～資源リサイクル、ゴミ処理問題など地球環境保護へ
7. まとめ

（上記の各項目を1回ないし2回の講義で行う。また、講義内容を理解するために、適切な資料を配付する。）

参 考 書 等

小谷正守『現代消費経済の基礎理論』（ミネルヴァ書房）
 小谷正守・伊藤セツ『消費経済と生活環境』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 戦 略 論	た ぶち やす お 田 淵 泰 男	経済・商1・2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

企業をとりまく経営環境が、めまぐるしくダイナミックに変化している今日、経営戦略の優劣いかに、企業の盛衰に大きく影響するようになってきました。そうした環境に、いかにしてうまく適応すべきかを考える経営戦略は、現代企業にとって最も重要なものであるとともに、現代経営学における中心的な研究分野の1つになっています。

この講義では、これまでの経営戦略論の展開をふまえ、基礎的かつ重要な論点にかんする知識を提供し、その考え方の理解をはかることをねらいとしています。

講義の内容・授業スケジュール

この授業では、経営戦略論のつぎのような各分野ごとに、そこでの理論を事例もまじえて解説していきます。

- ・経営戦略論の歴史・概念・体系
- ・その企業の事業とは何かを定義して事業領域（ドメイン）を選択する全社的な企業戦略
- ・新しい製品・市場をめざして複数の事業へ経営資源を展開する多角化戦略
- ・多角化企業の経営資源をどのような製品事業へ選択的に重点配分するかを考えるポートフォリオ戦略
- ・競合企業に対し競争上の優位な地位を獲得するための競争戦略

履修上の留意点

実際の企業行動の論理を探求しようとする意欲をもって、その機会を常日頃さまざまなメディアを通じてとらえようとする姿勢が大切です。

成績評価の方法

原則として、筆記試験により評価します。ただし、授業の状況次第で出席およびレポート（課した場合）を含めた総合評価とすることがあります。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

適宜指示します。

そ の 他

必要の都度、プリントを配布し、また OHP を利用します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 管 理	お 小 椋 康 宏 お ぐら やす ひろ	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本年度の講義については、第1に、経営のグローバル化における企業経営の財務問題に焦点をあわせながら、財務管理の基本的枠組みと財務管理の基礎原理を修得させることをねらいとする。また第2に、日本的経営財務の視点から、日本の企業体のなかにある財務管理の実態をとりあげ、日本的経営の再構築としての新しい経営財務原理を展開する。とくに日本企業の財務管理実践についても論及する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 財務管理研究の方法
財務管理研究の方法を明らかにする。ここでは、とくに経営学のなかでの財務管理の位置づけを明らかにする。財務管理研究と実践経営学研究との関連についても明らかにする。
- ② 財務管理研究の流れ
アメリカ財務管理研究の流れを明らかにし、①企業金融論的財務論、②管理論的財務論、③意思決定論的財務論、④実践学的財務論のそれぞれの方法と課題を明らかにする。
- ③ 財務管理組織
財務管理の典型的組織として、アメリカ企業の財務管理組織を明らかにする。また日本企業の財務管理組織をとりあげ、日本企業の経理部と財務部の実態を明らかにする。
- ④ 財務分析
財務分析の比率分析および体系分析を通じて、企業の評価分析の一技法を検討する。また財務分析の体系化として財務分析の理論研究を展開する。
- ⑤ 運転資本管理
運転資本管理の理論と技法を明らかにする。あわせて資金運用表の仕組みを明らかにする。
- ⑥ 確実性下における投資決定
投資決定の基本概念を明らかにする。投資決定のプロセスを明らかにし、投資決定基準とくに①回収期間法、②正味現在価値法、③内部利益率法、④収益性指数法の内容を明らかにする。
- ⑦ 不確実性下における投資決定
不確実性とリスクおよびリスクとリターンの概念を明らかにする。とくに不確実性下で採用される投資決定方法について明らかにする。
- ⑧ 資本コスト
財務管理研究のキーワードである「資本コスト」の理論を明らかにする。ウエストン、ブリガム、ゴードン等による伝統的意思決定論的財務論の理論に加え、モジリアーニ、ミラーによるいわゆる「MM理論」の展開を通じて、資本コスト論の重要性を明らかにする。
- ⑨ 資本構成
資本構成の理論を明らかにする。営業レバレッジの理論、財務レバレッジの理論についてもふれる。最適資本構成理論をベースに企業評価論を展開する。
- ⑩ 資本調達
資本調達の制度論について明らかにする。とくにエクイティ・ファイナンスの理論を資本コスト論との関係で明らかにする。
以上の項目に加え、⑪配当政策、⑫株価モデル、⑬CAPM理論、⑭M&A理論、⑮日本的経営財務論、⑯国際的経営財務論のトピックスを講義のなかでとりあげたい。
年間スケジュールに関しては、①～⑤項目については前期において、⑥～⑩については後期において講義予定である。

履修上の留意点

講義のなかでの演習問題については、よく復習すること。

成績評価の方法

出席率80%以上
レポート 1～2回（講義における演習問題）
試験 学年末試験

教科書

小椋康宏『経営財務（増補版）』（同友館）1984年 2,884円

参考書等

小椋康宏『日本的経営財務論』（中央経済社）1984年
 諸井勝之助『経営財務講義』第2版（東京大学出版会）1989年
 若杉敬明『企業財務』（東京大学出版会）1988年
 岡部政昭『現代の経営財務』（同文館）1990年
 赤石雅弘、小嶋博、榎原茂樹、田中祥子編『財務管理』（有斐閣）1993年

小山明宏『経営財務論——不確実性、エージェンシー・コストおよび日本的経営——』（三訂版）
（創成社）1996年

そ の 他

講義形式で行なうが、講義中での質問を受ける。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 学 史	いわ なが こう し 岩 永 宏 治	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

企業・経営における実践の理論的体系化として生成・発展してきた経営学の歴史的展開を中心に講義していく予定です。その際、アメリカを代表する学説を焦点にし、それらの学説がいかなる歴史的、経済的、思想的背景のなかで成立し、企業・経営あるいは組織・人間のいかなる側面を問題にし、どのような理解を示してきたのかを解明していきます。そのなかで、アメリカにおける経営学の基本的性格とその歴史的・客観的な意義と役割を明らかにしていくつもりです。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① アメリカ経営学の基本的性格
- ② アメリカ資本主義と管理問題
- ③ 独占形成と管理問題
- ④ アメリカ経営学の思想的背景
- ⑤ テイラリズム
- ⑥ 科学的管理と精神革命
- ⑦ フォーデズム
- ⑧ 合理化運動と労働問題
- ⑨ ホーソン実験と人間関係論
- ⑩ 人間関係論の基本思考
- ⑪ フォレット学説の特徴
- ⑫ 行動科学的管理学説の展開

履修上の留意点

開講時に指示します。

成績評価の方法

ペーパーテストと出席状況により評価します。

教 科 書

高木・丸山編著『経営管理の理論と歴史』（中央経済社）

参 考 書 等

必要に応じて随時指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	飯 岡 透 <small>い い お か と お ろ</small>	経 済 ・ 商 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

[前 期]

- 4月 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
 - (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査人の選任と解任
 - (3) 監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

[後 期]

- 9月 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素
 - (2) 内部統制の評価
 - (3) 監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
経営者確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明
なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
管理会計論	なか ほら しょう きち 中原 章 吉	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができるといえます。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎』（創成社）

教科書

『管理会計論』（税務経理協会）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
原 価 計 算 論	か とう とし やす 加 藤 利 安	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することをこころがける。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教 科 書

最初の授業時に指示する。

参 考 書 等

授業時に適宜挙げる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
税 務 会 計 論	やなぎ 柳 めう 裕 治	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、税務会計論の初学者を対象に、税法の基礎理論および法人企業の課税所得計算理論を体系的に理解することを目的とする。あわせて、租税の時事問題に触れ、租税に関する幅広い知識を修得できるようにしたいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

租税（税金）は、経済生活のほとんどの局面に深い関わりをもっている。そのため、通常、経済取引を行う場合、租税の問題を考慮することなしには経済的意思決定を行うことはできない。またわが国の租税制度においては、原則として、個人であれ法人であれ第一次的に納税者自らが課税所得および税額を計算し、自ら申告し納付しなければならない、という申告納税制度を採用していることから、当然に税法を理解していることが要求されるのである。

課税所得および税額は税法の規定に従って認識・測定されることになるが、この研究領域を税務会計論という。したがって、税務会計は、法的側面と会計的側面との統合された理論をもつところにその特徴がある。

そこで、本講義では、経済学部の学生を対象とした税務会計の概論として、税法の基礎理論から始め課税所得計算理論へと系統的に説明していく。その内容は、税法総論と法人税法が中心となるが、所得税法および消費税法についても触れる。

成績評価の方法

中間試験および学年末試験により評価する。

教 科 書

岸田・矢内・柳・吉村著『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい）

参 考 書 等

金子・清水・宮谷・畠山著『税法入門』（有斐閣）
 武田昌輔著『税務会計通論』（森山書店）
 井上・柳・矢内著『法人税の計算と理論』（税務研究会）
 富岡幸雄著『税務会計論講義』（中央経済社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営分析	さか ぐち やすし 坂 口 康	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

経営分析は、会社が発表する決算書（財務諸表）を主たる資料として会社の経営内容を分析する学問である。決算書は会計という機構にもとづいて作成される関係上、一般になじみ難いという面があるが、会社の経営内容や体質が集約されて示されている。近年、企業の不祥事が多発し、それをめぐってしばしば会計操作や簿外負債が一般のマスコミでも取り上げられるようになってきた。専門的な投資家ならずとも決算書のウラに潜む会社の実像をとらえるワザがますます要求される時代となっているのである。

この講義では、決算書の一般的な利用者の立場から、なじみ難いといわれる決算書をどのように読み解いていくのかを解説し、それを通して日本の企業の収益・財務構造の特質を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義スケジュールや評価方法については開講時に述べる。履修者数が200名前後までの場合には、適宜、資料作成・分析等の小テスト、小レポートを多用する積りである。

教科書

特定の教科書は使用しない。適宜レジュメ、資料を配布する。ただし、配布は原則として一回限りとし、欠席者に対する追加配布はしない。

参考書等

参考書としてさしあたり以下の4冊をあげておく。参考文献は講義の中で紹介する。

- 谷江武志『基本経営分析』（中央経済社）1995年
- 山口孝他『企業分析』（白桃書房）1996年
- 桜井久勝『財務諸表分析』（中央経済社）1996年
- 青木茂男『企業財務の日米比較』（森山書店）1997年

科目名	担当者名	配当学科	単位
貿易論	ふるさわこうぞう 古沢 紘造	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーションと貿易
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
銀行論	さいとう 藤 正 ^{ただし}	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしている。それゆえ、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえ、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。

① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。

② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。

2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。

① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。

② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。

③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。

④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』
いずれも大月書店 1992年、山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科目名	担当者名	配当学科	単位
証券市場論	いそ や 磯谷 玲	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい	本講義では証券の仕組み、今日の各国経済においてその果たす機能等を扱う。証券市場あるいは広い意味での金融は国ごとの相違が大きいため、本講義では主に1980年以降のアメリカを対象とするが、必要に応じて日本の事例等にも言及する予定である。
講義の内容・授業スケジュール	基本的には、以下の内容で行なう。 ① アメリカの金融・証券市場の仕組み ② 1980年代のアメリカ経済と証券市場 ③ 1990年代のアメリカ経済と証券市場
履修上の留意点	日常的に新聞等経済情報に接していることが望ましい
成績評価の方法	基本的に定期試験に基づいて行なう。
教科書	磯谷玲『80年代アメリカの金融変革』（日本経済評論社）3,000円
参考書等	日本証券経済研究所『図説アメリカの証券市場（1997年版）』

科目名	担当者名	配当学科	単位
保険論	いま いずみ たか ただ 今 泉 敬 忠	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい	近年、個人であると企業であるとを問わず、多様化しかつ巨大化した危険（リスク）をどのように処理するかは、経済生活上大きな問題となっている。そうした危険の処理に当たって大きな役割を果たすのが保険制度である。本講義では、まず保険の基本的原理を理解し、その上で個別の保険を取り上げてその実際がどのようになっているかが理解できるようにすることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	保険の研究方法には種々の方法があるが、本講義では、前期には、保険の基本的原理（すなわち、保険の生成、保険の概念、保険の機能、保険料、責任準備金、資産の運用とその規制、保険者の組織、保険の分類等）を取り上げ、後期には、個別の保険（例えば、歴史的に一番古く、その後生成したその他の保険に大なり小なり影響を与えた海上保険）を取り上げ、経済生活上危険の発生が予測される場合、その危険が現実が発生し、それによって生じる経済的不利益（すなわち損害）が保険によってどのように補償されるかを、どの保険にも応用できる形で講義する。
履修上の留意点	保険は、必要があって生成し、長い年月を経て発展してきた経済制度であるから、それなりの独自の機構や組織をもち、更に用いられる用語にも特殊性がある。したがって、講義に出席してノートをとるだけでなく、下記参考書のいずれかを熟読することが必要であり、そうすることを希望する。
成績評価の方法	出席状況、授業時間中の態度および学年末試験を総合して評価する。
教科書	特に指定しないが、下記参考書を利用することが望ましい。 なお、必要に応じて資料を配布する。
参考書等	鈴木辰紀編著『保険論』（第9版）（成文堂） 石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの理論』（白桃書房） 前川寛『現代保険論入門』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	うちだまりこ 内 田 真 利 子	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

社会と憲法、個人と憲法の間係を学び、これからの時代における憲法の役割を摸索する。

講義の内容・
授業スケジュール

現代社会のかかえる多種多様な問題・課題に対し、憲法とくに人権という視点から取り組んでいく。家族、教育、職場、医療、情報など私たちが日常生活の中でごく当たり前に遭遇するテーマから、平等、平和、天皇制、地球環境といった社会の広い領域にまたがるテーマに至るまで、幅広い範囲に渡り具体的・現実的な題材をとりあげる。各回の授業で扱う題材については、社会・政治の動向に応じて、さらに受講者からの要望に応じて、適宜選択していく。

履修上の留意点

授業では、社会的に重大な関心事となっている最新の課題や憲法学上の難題を中心にとりあげていく予定である。したがって、自分自身が問題意識をもち主体的に考えていくことを、受講者には求めたい。原則として、授業に毎回参加できる人のみに履修してほしい。

成績評価の方法

授業で学んだテーマに関する小レポートを年間数本提出。同レポートの内容を成績評価の主たる対象とする。さらに通常の授業に対するとりくみ方についても評価に加えたい。

教 科 書

川人博編著『テキストブック現代の人権』（日本評論社）2,400円（税別）

参 考 書 等

六法

そ の 他

授業の形態については、受講者と相談の上決定する。基本的には講義形式をとるが、ディスカッションやビデオ上映などもとり入れたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 一 部	おお <small>みや</small> 大 宮 隆	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んてくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
民法二部	お織 だ てる 子 織 田 晃 子	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

民法二部の講義は債権総論と債権各論を対象とする。条文で言うと、399条～724条であり大変広範囲である。一年間でこれらすべてを網羅することは到底無理である。よって、まず日常の普通の取引、例えば、だれでも思い浮かべるであろう不動産の売買をとりあげ、売買の交渉から契約の成立、その履行にいたるまでの財産法上の問題をとりあげ、次に売買契約が履行されなかった場合の法的処理、すなわち債務不履行による損害賠償や解除に進む。

講義の内容・授業スケジュール

1. 売買の交渉から契約の成立、その履行
 - ① 契約の成立
 - ② 契約の履行過程
 - ③ 契約の履行終了
 - ④ 登記の移転
 - ⑤ 債権譲渡
2. 契約不履行の場合の法的処理
 - ① 債務不履行
 - ② 契約の解除
 - ③ 他人の物の売買
 - ④ 瑕疵担保責任
 - ⑤ 債権者代位権
 - ⑥ 詐害行為取消権

履修上の留意点

六法は必ず持参すること

成績評価の方法

期末試験の成績と出席日数により評価する。

教科書

河野弘矩著『債権総論講義』（ぎょうせい）3,500円

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 法 一 部	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、株式会社法を中心にする。現代の経済活動において不可欠の組織となっている株式会社—その構造、運営に関する法規制を体系的に取り上げて見て行きたい。また、近時は、株式会社法上の問題が新聞等で報じられることが多いが、こうしたトピックについても、できるならば触れてみたいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、①会社法総論として、会社の経済的機能、法的意義を見た後、株式会社の特質を位置付ける。次いで、②株式制度に入る。具体的には、①株式の意義、②株主平等の原則、③株式譲渡自由の原則とその例外、④株券、株主名簿、名義書換を中心に講義する。その後、③会社の運営を取り上げる。④機関総論、⑤株主総会、⑥取締役・取締役会、⑦監査体制がその大まかな内容となる。そして最後に、⑧株式会社の設立を取り上げたい。②③のあたりで、夏休みに入るものと予定している。

履修上の留意点

講義中での私語は厳禁する。これを守れない諸君には、教場からの退場と、場合により、さらに強い措置を取る。講義には、必ず六法全書（平成10年度版以降のもの）を持参のこと。

成績評価の方法

期末試験での評価による。出席は取らない。ただし、これまでの私の経験から言えば、単位取得者は、大体出席している学生の数に相当する。法学部では、大体、講義履修者の半分は不可となっている。

教 科 書

荒木正孝『企業法』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
商 法 二 部	<small>あら き まさ たか</small> 荒 木 正 孝	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、有価証券の法理と法規制について述べるが、とくに代表的な有価証券であり、権利の証券化が最も徹底している為替手形、約束手形および小切手について、どのような機能を営み、どのような法規制が行なわれているかを理解できるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

手形・小切手においては権利と証券とは密接に結合し、それは裏書または単なる証券の交付という簡単な手続で譲渡することができる上に、譲受人が強く保護され、支払の確実性や容易性が保障されているので、非常に流通に適している。このような性質をもつ手形・小切手は、支払の道具、信用の道具、送金の道具および取立の道具として経済活動において重要な作用を営んでいる。こうした手形・小切手の経済的機能を視野に入れながら、手形法・小切手法の正当な解釈や理解を追求してゆきたい。

履修上の留意点

有価証券法を学ぶ場合に問題になるのは、民法の中の財産法(民法総則、債権法、物権法など)で用いられる専門用語の理解が必要だということである。したがって、理想的には、財産法を学んだ後に有価証券法を選択することが望ましい。しかし、それは仲々困難なことであるから、ここでは、講義の内容を理解するのに必要な範囲で財産法の規定や基本概念を解説するので、財産法の知識が無くても受講に差し支えはない。

成績評価の方法

基本的に年度末のペーパーテストの点数で評価する。

教 科 書

服部栄三著「手形・小切手法綱要」(商事法務研究会)

参 考 書 等

鴻・竹内・江頭・岩原・山下編『手形・小切手判例百選』(有斐閣)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経 済 法	<small>おか だ とし ひろ</small> 岡 田 外 司 博	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験(後期1回のみ)によって判定する。

参 考 書 等

初回の講義の時に紹介する

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 働 法	ふじ 藤 もと 本 しげる 茂	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本の雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の改正なども見られます。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に組合の及ぼす影響は、一見地味ではありますが、無視できません。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありませんが、学年末試験がメインです。

教 科 書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

そ の 他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を揚げながら、授業を進めます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法	さいとう ひさし 斎藤 寿	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

「現代行政法の解明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、現代行政法の法理解明を興味深く行います。特にこの講義は、経済学部¹の学生向きに、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 行政とは何か。
- 第2回 行政法とは何か。
- 第3回 行政法の特徴は何か。
- 第4回 世界の行政法の類型と、行政法学について。
- 第5回 行政法の基本原理は何か。特に「法律による行政の原理」を中心として。
- 第6回 行政法の法源と効力について。
- 第7回 行政上の法律関係について。
- 第8回 特別権力関係と行政法関係の変動について。
- 第9回 行政作用法と行政立法について。
- 第10回 行政行為とその内容について。
- 第11回 行政行為の附款と成立について。
- 第12回 行政行為の効力について。
- 第13回 羁束行為と裁量行為について。
- 第14回 行政行為の瑕疵と取消と撤回について。
- 第15回 行政契約について。
- 第16回 行政計画について。
- 第17回 行政指導について。
- 第18回 これまでの講義の review と、これからの講義の outline について。
- 第19回 行政強制について。
- 第20回 行政罰について。
- 第21回 行政手続について。
- 第22回 行政救済について。
- 第23回 行政上の損害賠償について。
- 第24回 行政上の損失補償について。
- 第25回 行政争訟制度について。
- 第26回 行政不服審査について。
- 第27回 行政事件訴訟制度の沿革と類型について。
- 第28回 行政事件訴訟手続について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法」を楽しく研究してみませんか。——私がみなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) ——との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合せて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際法	さいとう ひろし 齋藤 洋	経済・商1・2・3・4選	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識の修得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

いずれの大学でも行われているようなオーソドックスな順序で講義する。国際法学の基礎理論、静的固定的秩序および動的秩序の説明が主な内容であり、受講生の理解度を観ながら、できるだけ広範囲に内容が及ぶようにしたい。

履修上の留意点

例えば数学でも加減乗除を知らないと微積分などができないように、国際社会秩序に関する法的基礎知識なしに現代国際社会を理解することはできない。いかなる学問でも基礎部分の習得は大変に退屈で苦勞するものであり、国際法学も例外ではない。しかし一度この基礎知識を修得したならば、日々生起する国際社会の様々な現象を法的視点をもって容易に理解することができ、何か問題の中心かを見いだすことができるであろう。受講生は苦勞の後の楽しさを思い描いて講義を受けてもらいたい。授業中に疑問のある点について、そのときの授業にかかわりなく、気軽に質問してもらえれば、それに答えるなかで他の様々な国際法のルールが説明できるので、おおいに質問を歓迎する。

成績評価の方法

成績は主として年末の定期試験で決定するが、授業中の報告やレポートの提出も考慮に入れる。

教科書

藤田久一編『現代国際法入門』（法律文化社）2,987円

参考書等

特に指定しないが、市販されている条約集及び国際判例集があれば好ましい。

その他

講義では板書はほとんどないので、受講生は自分自身で自分なりのノートを作成してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原書講読Ⅰ	いわ ^な 岩 ^が 永 ^{こう} 宏 ^し 治	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

日本経済の成功論としてアメリカの研究者・実務家が展開している「日本経済論」から2、3の論文を取り上げます。なかでも、日本の経営についてわが国大企業の歴史的な経営実態に焦点を当てた研究を中心にみていきますが、そのなかでアメリカの研究者・実務家が日本経済の「成功」をどう理解し、どのように評価しているのかを批判的に考察することによって、日本の経営についての特質を明らかにしていきます。今日、日本の経営について問い直すことは、現在の日本経済の状況に照らしても大いに意義のあることだといえます。

上記の課題を原書講読を通して考察していくわけですから当然一定の制約があります。皆さんの語学力を前提に「量より質」を重視し、主要な論説に限定して講読していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

日本経済の「成功」について考える場合、企業活動を主軸とした政治・経済体制、すなわち「企業中心社会」の形成・確立の歴史的展開過程の理解が重要になります。そこで「The Large Company: Identification and performance」を取り上げ、大企業の行動様式について見ていくことが不可欠になります。講読方法は輪読で全員に参加してもらいます。各担当者の分量は本人との合意に基づいて分担しますが、各回ごとの予定量は常に全員が予習しておく必要があります。

履修上の留意点

開講時に指示します。

成績評価の方法

平常点で評価します。
①分担報告 ②予習状況 ③出席状況

教科書

テキストは、開講時にコピーを配布します。

参考書等

必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原書講読Ⅰ	こ ^{すぎ} 小 ^{しゅう} 杉 ^じ 修 ^二	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

現在の中国の諸政策のバックボーンをなしている鄧小平の考えを知るために、その著作を中国語で読む。参加者は中国語履習者であること。中国語を母国語とする者は日本語への厳密な翻訳能力習得を目標とする意欲のある者に限る。

教科書

プリントして配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 書 講 読 I	しおみえいじ 塩見英治	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい	各人が英語を日本語らしく、かつ正確に翻訳する力を身につけること、経済学および経済のキー・ワードと、正確な理解力を身につけることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	授業は受講生の報告と、教員の内容についての点検と説明という形式で行なう。現代の経済社会が当面する重要な公共的諸問題を経済学の立場から考察した英語文献をとりあげる。文献は平易な文章で書かれている。
履修上の留意点	コンスタントに出席すること。
成績評価の方法	出席、授業中の発表で評価したい。
教科書	R. L. Miller, et al. <i>The Economics of Public Issues</i> 1993をとりあげる予定であるが、開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 書 講 読 I	しみずたかし 清水卓	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい	この原書講読では、経済専門書ないし経済専門紙を読みこなし、正確な日本語に翻訳する練習をします。英検2級程度の基礎力があればそれほど苦勞せずに読める程度の英文です。また、担当者は、フランス語についても指導出来るのでフランス語の専門書の学習を希望する学生がいれば要望に応えることもできます。以下の文章に興味を持った学生の受講を期待します。 At no time since World War II have so many countries been considering changes in their agricultural policies. It is in the interests of all countries that these changes take place with as little disruption as possible to their agricultural economies. Dislocations can be reduced if all major participants agree on directions and rules and the GATT is the only effective negotiating forum to include the various countries concerned. The Uruguay Round was scheduled for completion in December 1990 at Brussels. A lengthy round was inevitable given that its scale and complexity would lead to protracted negotiations. However, the Brussels Ministerial Meeting ended in disarray because of wrangling over agricultural support. Deadlock over agricultural served to delay an agreement for another 2 years or more.
履修上の留意点	受講生は毎回必ずレポートしなければなりません。1週間に3時間程度の予習が必要です。
成績評価の方法	平常の出席、レポートの質で成績を評価します。
教科書	受講生と相談の上、テキストを決めます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
原書講読Ⅰ	とも まつ よし ひこ 友 松 憲 彦	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

経済史に関する原書を読みながら、経済専門書の読解力と翻訳力を養成することを目的にする。本年度はイギリス産業革命の新しい研究動向に関する文献を講読する。

履修上の留意点

受講者は予習して当日分のテキストの要約をレポートとして提出する必要がある。努力を要するが年間持続すれば必ず成果はある。並行して「西洋経済史」の講義を受講すれば、いっそう理解は深まるであろう。

成績評価の方法

提出されたりポートと出席状態で評価する。

教科書

受講者の英語力をみてから決定する。テキストはコピーして配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
原書講読Ⅰ	なか すみ みつ あき 中 濟 光 昭	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

コンピュータの基礎を説明する英文を読み、理解することでコンピュータの知識を習得していく。

講義の内容・授業スケジュール

輪講形式で講義を行う。各自に文を割り当て、和訳と用語の解説などを行ってもらおう。

履修上の留意点

- ・Windows と Word の基本操作が出来ること（総合情報センターの基礎講習会修了程度）
- ・欠席しないこと

成績評価の方法

出席とレジュメ、発表により評価

教科書

初回の講義で指示

参考書等

初回の講義で指示

その他

- ・本講義はパソコンのある教場で行うため、履修制限を行うことがある。初回の講義に「必ず」出席すること。
- ・メールアドレスを持っている前提で講義を進める。未取得の学生は、早急に取得すること。
- ・講義に関する質問などは、事前予約の上、第2研究館4 F2437研究室 (tel: 03-3418-9352) に来室するか、nakasumi@komazawa-u.ac.jp にメールすること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原書講読Ⅰ	なかだあきお男 中田秋男	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

書物には読んで直ぐわかる(情報として読む)ものと、何度読んでも理解できない(古典として読む)ものがある。特に古典と呼ばれているものは、何度でも読み返されて行く運命にあるものかも知れない。古典は歴史的に限られた一時期の産物にもかかわらず、常にその時代を超えて現代に語りかけてくる。授業では経済学の古典といわれているものを読んでいくことにする。

講義の内容・授業スケジュール

経済学の歴史の中で大きな山脈としてそびえ立っている、三人の経済学者の著書を中心に読んでいきます。すなわち、経済学誕生の書と言われているアダム・スミスの『諸国民の富』(1776)、資本主義社会の経済的な運動法則を明かにしたカール・マルクスの『資本論』(1867)、大恐慌のあと政府の役割を重要視するジョン・メナード・ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)。以上、三人の著書の中から、それぞれ重要と思われる箇所を抜粋して原書で読んでいきます。

成績評価の方法

出席点及び平常点の総合で評価します。

教科書

テキストはコピーして配布します。

参考書等

以下の日本語訳は参考までに、さらにフランス語とドイツ語も紹介します。
 アダム・スミス『諸国民の富』(岩波書店)
 カール・マルクス『資本論』(岩波書店)
 ジョン・メナード・ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』(東洋経済新報社)

科目名	担当者名	配当学科	単位
原書講読Ⅰ	はまもとちすか香 濱本知寿香	経済・商1・2・3・4選	4
原書講読Ⅱ		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

本講義では、英語の原書を読むことで、語学能力を高めるとともに生活経済に関心をもつことを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

われわれの日常生活に関わる税制、社会保障制度を扱った原書を読んでいきます。また、日本の制度についてもふれていきます。

履修上の留意点

テキストを輪読する形式をとります。

成績評価の方法

発表点、受講態度、理解度などから総合的に評価します。

教科書

テキストはコピーして配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 書 講 読 I	ふく ぼら よし のぶ 福 原 好 喜	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

カール・マルクス『資本論』（ドイツ語）を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになろう。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君から希望があれば、夏休みなど泊まり込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。（夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。）

一昨年は男子1名、女子2名、昨年は男子1名の受講者であったが、本年はもう少し多くの受講生が来てくれればと思っている。

履修上の留意点

授業は固苦しい話ばかりでなく、ドイツ人の酒の飲み方や夫婦のあり方などよまやま話しも含めて、ユツタリとしたものにしたいと思っている。

そ の 他

よく出来た時は、コーヒーもでる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
原 書 講 読 I	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	経済・商1・2・3・4選	4
原 書 講 読 II		経済・商2・3・4選	

講義のねらい

ソ連邦解体以後、あらゆる教科書が使いものにならない状態となっているが、解体以前から、社会科学分野で批判的な読み方を要求しないものはなかったと言ってよい。従って主体的な読み方はいつでも必要であったし、今後も必要である。

成績評価の方法

平常のパフォーマンスを評価する。

教 科 書

Города Подмоскoвья в трех книгах. Книга первая. М., 1979.

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代経済事情Ⅰ（前期） 〔日本経済の再建策〕	たか はし じょう せん 高 橋 乗 宣	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

昭和恐慌いらいの混迷が続いている日本経済の現状を認識し、その歴史的背景と構造的要因について理解を深める。そのうえで、日本経済の閉塞を打破し、その活力を再生するための方途について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

第1講. 日本経済の現状(経済成長、企業業績、雇用・家計、財政収支・公的債務、対外収支)。第2講. デフレ・スパイラル下の日本経済(実物経済、金融、物価、資産価格)。第3講. デフレ経済の特性とその恐怖(貨幣価値の上昇、債務負担の増大、スパイラル化のベクトル)。第4講. 日本の財政デフレと信用デフレ(財政構造改革法への流れ、金融制度改革法への流れ)。第5講. 日本経済のデフレ化と世界経済へのインパクト(債権大国の意義、米国経済のファイナンス構図、新興諸国の成長資金)。第6講. 戦間期国際金融と現代の異同(1920年代の世界経済、国際マネーフローの構図、NYの株価暴落と世界恐慌、ポスト・バックスアメリカーナの時代、グローバル化と市場主義化の時代潮流とその限界)。第7講. バブル崩壊から改革テーマの浮上へ(不況の深化と政策的手詰まり感、社会的閉塞感の充満)。第8講. 金融制度改革(6大改革の提起、金融制度改革)。第9講. 日本型経済システムの改革(ビッグバンと経済社会改革、メーンバンク制の終焉、自己責任時代へ)。第10講. 国際金融の混乱と新スキームの摸索(市場主義への傾斜とIMFの限界、新国際金融フレームの摸索、円国際化の課題)。第11講. 欧州統一通貨(ユーロ)の意義とインパクト(統一欧州通貨への道程、ユーロ登場の歴史的意義)。第12講. 日本経済再建への道(21世紀に当面する諸困難、経済戦略会議が提起しているもの)。

履修上の留意点

新聞等の経済記事には目を通すこと。講義中は私語厳禁。

成績評価の方法

小論文テストにより評価。

教科書

使用しない。

参考書等

高橋乗宣著『日本版ビッグバンはこうなる』(徳間書店) 97年6月刊
R. ブートル著、高橋乗宣監訳『デフレの恐怖』(東洋経済新報社) 98年1月刊
高橋乗宣著『どうなる平成恐慌』(PHP 研究所) 98年9月刊
佐美光彦著『「大恐慌型」不況』(講談社) 98年7月刊
R. ハイルブローナー著、中村達也・吉田利子訳『二十一世紀の資本主義』(ダイヤモンド社) 94年2月刊

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代経済事情Ⅱ（後期） 〔金融危機〕	ひら いし ゆう いち 平 石 裕 一	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

1998年は、金融システムの破局的状況がつぎつぎと惹起し、その沈静と再生を意図した政府の制度作りと公的資金の大量投入が2度にわたってなされた。しかし、この一連の処置によっても、金融システムの急速な正常化が図られるという見通しはないようである。金融危機をもたらした広汎な影響とその背景にある原因は、必ずしも分りやすく解明されているとは言えない。私は市場経済の至上主義が必然的にゆきつかせた結果と位置づけ、その実態、原因、克服の方向を、わが国経済社会を底辺で支える中小企業と市民の立場から解説する予定である。その際、できるだけ私の体験した実業世界との関連で講義を展開したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

1、金融危機の実態、A) 経営破綻の実情…金融資産の悪化状況。不良資産の激増など。B) 金融システム瓦解の具体例…北海道拓殖銀行、日本長期信用銀行など。C) 銀行のリストラとその影響…金融利便性の低下、雇用の不安定化。中小企業などへの信用収縮。国際金融資本の買収増加など。2、金融危機の原因、A) バブル経済の崩壊、B) アジア通貨危機による焦げ付き、C) 国際的な資金投機運用の失敗、D) 金融システム改革の誤算。3、金融危機の克服方向。A) 制度改革と信用保証拡充、B) 地域共生の金融制度確立

履修上の留意点

金融問題は難しいといわれるが、金融問題のポイントが常識的に判断できるように解説したい。質問歓迎。積極的に講義に参加してくれることを望みます。

成績評価の方法

レポート（感想文）、筆記試験、出席加点（欠席は減点せず）

教 科 書

講師などの論文（コピー配布）が中心。

参 考 書 等

『市場経済下の協同金融』（絶版）『現代日本の金融』（新日本出版社）

そ の 他

授業の前に時事放談でアイドリングする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代経済事情Ⅲ（前期） 〔経済のグローバル化と企業再編〕	た ぐち さだ お 田 口 定 雄	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

本講では、激動する世界経済の姿を、主として企業のグローバルな展開と再編動向を通じて具体的に把握し、21世紀の産業や企業の変化の方向を具体的に検証することを目標とする。方法としては、素材から最終加工組み立て、販売・消費、廃棄・再利用といった生産・流通・消費の連鎖の基本的な理解を深めるため、エネルギー、素材、組み立て加工の各段階におけるキー・インダストリーを取り上げ、その世界市場における競争要因、再編状況を主要企業のケーススタディを交えて概観、既存の産業・企業の転換期の現況把握の一助とし、また今後の変化の方向や新産業の芽生えを考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- 限られた時間内に上記の目標に近づくため、次の数項目を各1、2時限かけて講義する。
- ① 世界の大手企業、ランキング上位100社程度の業種・国籍・収益・従業員数などを材料として現代経済のグローバル・プレーヤーについて大まかな知識を得る。
 - ② 世界経済の概況 GDP、人口、成長率、貿易と資本移動などからみた世界経済の概観と人口爆発、南北問題、資源エネルギー問題、地球環境問題などの理解
 - ③ 石油・エネルギー国際需給動向と大競争時代の到来－メジャー再編の背景
 - ④ 石油化学、プラスチック、合成繊維など主要合成素材産業の発展過程と再編動向
 - ⑤ 自動車産業のグローバル競争の現況と再編方向
 - ⑥ ヘルスケア・食糧問題とライフサイエンス産業（医薬・農業・育種など）の新展開

履修上の留意点

現実の企業再編と同時進行の話が多いので、新聞・雑誌の経済欄などを日常注意深く読む習慣をつけること。英文紙記事なども時々目を通し、大要把握の練習をしたい。

成績評価の方法

成績評価は、原則として期末試験の成績による。試験は上記講義テーマのいずれかに関する記述式問題およびマークシート形式数題の出題を予定。

教科書

教科書は使用せず、各論題について参考書をその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代経済事情Ⅳ（後期） 〔アジアの経済危機〕	ひ が え かつ ゆき 比 賀 江 克 之	経済・商1・2・3・4選	2

講義のねらい

「アジアの経済危機」を国際政治・外交、国際経済・貿易、国際金融など多角的な視点から分析し、講義する。アジアの駐在経験を通じ体得した「東南アジア政治経済論」を織り込み、生きた「現代経済事情」を講義することにより、学生諸君にアジアへの興味、関心を持って貰いたい。

講義の内容・授業スケジュール

後日提出します。

履修上の留意点

- ・「私語、居眠りのない充実した授業」をモットーとしたい。
- ・講義では出席をとることとし、出席者は教室入り口に置いてある出席者リストに氏名を記入して入室する。1回出席する毎に評価に1点を加算する事も検討したい。
- ・講義は最初に講師がプレゼンテーションを行い、それに対して受講者が質問、コメントを出して理解を深めるようにしたいので、受講者は積極的に発言すること。

成績評価の方法

全講義修了後に、受講者にレポートを提出して貰い、レポートで学業成績の評価を行います。

教科書

教科書はありませんが、講義のテキスト（レジュメ）をその都度配布します。

参考書等

後日提出します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
演 習 I	いわ なが こう じ 治 岩 永 宏 治	経済・商2選	4

講義のねらい

- ① 自主的・積極的な学習態度の形成
- ② 論理的思考方法の確立
- ③ 研究テーマの確立

講義の内容・
授業スケジュール

わが国における企業経営の諸問題について検討します。その際、その歴史的な展開を日本資本主義の発展過程のなかで理解し、とりわけ第2次大戦以降のわが国経済と企業経営の展開に焦点を当て、「我々にとって企業経営とは何か」というテーマを考察していきます。その考察を通して各自の企業経営研究の基礎的科学的な視点と理解の獲得を目指します。

履修上の留意点

演習テーマにそった文献講読を基本的課題として、年間を通して実施します。

- ① 全員サプノートの作成
- ② 報告者はレジュメ（報告要旨）を作成し、全員にコピー配布

a レジュメのレベル

- ・テキストの要約
- ・不明な点の調査
- ・報告内容に関する資料の収集
- ・自分の見解（感想を含む）

b コメンテータによる疑問点等の提示

（研究指導計画と方法）

7、12、3月は各一回研究指導を実施します。そこでは、各自の研究方向とテーマ確立について、以下のような方法で指導します。

- 7月－各自の興味、関心領域の表明
- 12月－個別研究領域の設定
- 3月－個別研究テーマの確立

成績評価の方法

平常点で評価します。

教 科 書

随時、プリントを配布します。
参考文献は必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演習 I	ともまつよしひこ 友松憲彦	経済・商2選	4

講義のねらい

この演習は経済史の入門を課題としている。毎日激しく変動してやまない世界や日本の経済。現在経済がもつ特徴や問題はどのようにして生まれ、今後どのような方向に変化していくのか。経済史はこうした問題を人類の過去の経済活動の軌跡を研究することによって明らかにしていく学問である。現在は過去の遺産であり、未来は現在を基盤とすることを想起すれば、過去の研究がもつ重要性は明らかであろう。

講義の内容・授業スケジュール

このゼミでは、経済史の勉強の第一歩として、経済史に関する重要な概念や基礎理論を学ぶことにする。またそれと並んで、文献や史料を探し、レポートを書き、研究結果を発表し、議論をする、といった学問研究をする場合に欠くことのできない技術を習得することも重要な課題である。

履修上の留意点

ゼミはたんなる勉学の場ではなく、学問を通じて教員と学生が人間関係を取り結び、学生相互が友情をはぐくむ場でもある。コンパや合宿といった行事も交えながら「楽しい」ゼミ運営をしたいが、ゼミの中心はあくまで勉学の「楽しさ」の追求であることは忘れてはならない。講義のような受身の勉強だけでは満足できない、大学生らしい主体的、能動的な勉強がしたい意欲的な諸君に受講してもらいたい。

教科書

老川・小笠原・中島編『経済史』（東京堂出版）1998年 2,600円

科目名	担当者名	配当学科	単位
演習 II	いわながこうじ 岩永宏治	経済・商3選	4

講義の内容・授業スケジュール

2年演習のテーマをひきつづき研究します。また、各自の研究テーマに関連した資料収集とサブノートづくりを開始します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 習 II	とも まつ よし ひこ 友 松 憲 彦	経済・商3選	4

講義のねらい

この演習は西洋社会経済史の研究を課題としている。本年度は「イギリス産業革命と民衆生活」をテーマに研究する。18世紀から19世紀にイギリスにおこった最初の産業革命は、科学技術を生産過程に適用し、生産力を手工業生産の制約から解放することで近代工業社会形成の歴史的分水嶺となり、今日の「豊かな」社会の出発点となった。しかしこの革命によって歩みを開始した大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済は、資源・エネルギー問題や環境破壊を深刻化させ、今日ではその存在を根底から揺さぶられるようになった。イギリス産業革命は現在社会の光と陰を生み出した歴史的起点として、重要な世界史的意義をもっている。この演習ではイギリス産業革命の「光」と「陰」が民衆生活にどのような影響を及ぼし、民衆はそれに対していかに行動したかをテーマにする。とりわけ、従来あまり注目されてこなかった民衆の消費生活を中心に研究したい。

履修上の留意点

ゼミはたんなる勉学の間ではなく、学問を通じて教員と学生が人間関係を取り結び、学生相互が友情をはぐくむ場でもある。コンパや合宿といった行事も交えながら、学生諸君の自主性を重視した「楽しい」ゼミ運営をしたいが、ゼミの中心はあくまで勉学の「楽しさ」の追求であることは忘れてはならない。講義のような受身の勉強だけでは満足できない、大学生らしい主体的、能動的な勉学がしたい意欲的な諸君に受講してもらいたい。

教 科 書

友松憲彦『近代イギリス労働者と食品流通』（晃洋書房）1997年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 習 II	わた なべ ぜん し ろう 渡 辺 善 次 郎	経済・商3選	4

講義の内容・授業スケジュール

今日、世界的に廃棄物問題が深刻化している。だが江戸時代の日本はきわめて見事なりサイクル経済の仕組みをつくり、高い生産力と美しい環境を保全してきた。その実態を各産業、各地域の具体例を通して追求する。

教 科 書

農文協発行『現代農業』増刊号『日本型環境保全の源流』1991年

2 他学部履修科目

2 他学部履修科目

禅学概論	(佐藤秀孝)	115
中国禅宗史	(田中良昭)	115
日本禅宗史	(原田弘道)	116
禅籍講読Ⅰ	(田中良昭)	117
禅籍講読Ⅲ	(佐藤秀孝)	118
仏教概論	(平井俊榮)	119
インド仏教文化史	(奈良康明)	120
中国仏教文化史	(永井政之)	121
日本仏教文化史	(袴谷憲昭)	121
中国古典語初級	(石井公成)	122
中国哲学史	(前川亨)	122
上代文学研究Ⅰ	(小野寛)	123
中古文学研究Ⅰ	(高橋文二)	123
中世文学研究Ⅰ	(村上光徳)	124
近世文学研究Ⅰ	(富士昭雄)	124
近代文学研究Ⅰ	(畑實)	125
比較文学	(満谷マーガレット)	125
児童文学	(山口節子)	126
西洋思想史	(麻生建)	126
演劇概論	(井上理恵)	127
編集実務	(長谷川孝)	127
イギリス文学特講Ⅰ	(石原孝哉)	128
イギリス文学特講Ⅱ	(高野正夫)	128
イギリス文学特講Ⅲ	(岡崎寿一郎)	129
イギリス文学特講Ⅳ	(富士川義之)	129
イギリス文学特講Ⅴ	(高松雄一)	130
イギリス文学特講Ⅵ	(丸小哲雄)	131
アメリカ文学特講Ⅰ	(新倉俊一)	132
アメリカ文学特講Ⅲ	(足田和人)	132
演劇特講(イギリス・アメリカ)	(荒井良雄)	133
時事英語	(サンダース, L. P.)	134
地理思想史	(休講)	
地形学	(小池一之)	135
人口地理学	(大友篤)	135
文化地理学	(小田匡保)	136
応用地理学	(高木正博)	136
現代地理学特論	(長谷川均)	137
日本史特講Ⅶ〔近代〕	(小泉雅弘)	137
東洋史特講Ⅹ〔近・現代〕	(趙軍)	138
考古学特講Ⅲ	(休講)	
日本仏教史Ⅱ	(休講)	
西洋文化史Ⅰ	(佐々木真)	139
日本民俗学	(谷口貢)	140
哲学史	(山口祐弘)	141
歴史哲学	(麻生建)	141
産業・職業社会学	(休講)	

マスコミュニケーション論 (休 講)	
社会福祉発達史 (林 千代)	142
国民所得論 (吉野 紀)	143
日本経済史 (渡辺 新)	144
中小企業論 (三井 逸友)	145
社会政策 (光岡 博美)	147
教育経済論 (谷敷 正光)	148
日本経済論 (工藤 昌宏)	149
アジア経済論 (郭 洋春)	150
中国経済論 (小杉 修二)	151
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	152
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志)	154
商業政策 (岩下 弘)	155
マーケティング (曾我 信孝)	156
経営管理論 (百田 義治)	157
労務管理論 (石井 脩二)	158
財務会計論 (遠藤 孝)	159
会計監査論 (飯岡 透)	161
管理会計論 (中原 章吉)	162
原価計算論 (加藤 利安)	163
貿易論 (古沢 紘造)	164
銀行論 (齊藤 正)	165
比較憲法各論 (齊藤 寿)	166
親族法 (竹中 智香)	167
西洋法制史 (竹中 智香)	167
英米法 (北野 かほる)	168
国際政治学 (北野 かほる)	169
ヨーロッパ政治史 (岡田 外司博)	170
地方自治法 (小堀 訓男)	171
議会関係法 (浦田 早苗)	171
立憲法 (富井 幸雄)	172
比較政治学 (休 講)	
現代政治学 (前田 英昭)	173
比較政治学 (岩崎 正洋)	174
現代政治学 (大塚 桂)	175
比較憲法 (休 講)	
経営労務論 (鹿嶋 秀晃)	176
国際経営論 (茂垣 広志)	177
商業史 (山田 勝)	178
保険経営論 (石名坂 邦昭)	179
財務会計論 (休 講)	
経営分会論 (片桐 伸夫)	180
税務分会論 (高木 克己)	181
経営情報論 (高井 徹雄)	182
情報統論 (西村 和夫)	183
経営統計 (長 国強)	184
上代文学講読 (佐原 作美)	185

中古文学	講読	(鈴木裕子)	185
中世文学	講読	(藺部幹生)	186
近世文学	講読	(菅野一雄)	186
近代文学	講読	(石割透)	187
現代文学	講読	(安藤幸輔)	187
時事英語	(休講)		
英語演習 I	[英語音声の基礎]	(アシュエル, T.)	188
応用計測学		(樞尾英次)	189

科目名	担当者名	配当学科	単位
禅学概論	佐藤秀孝	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禅那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。

はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国禅宗史	田中良昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐宋・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 禅 宗 史	ほら だ ひろ みち 原 田 弘 道	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅——教乘禅的性格をもったもの。
 - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
 - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雑に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
 - IV. これらの臨済禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
 - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅——念仏禅——である。
- 講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想史的意義も明らかにしておく。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）
2. 兼修禅の勃興とその系譜
3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨済禅の伝来と形成
5. 五山の成立と五山文学
6. 臨済禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開
8. 近世の禅宗
9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参 考 書 等

『禅の歴史——日本——』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』
荻須純道『中世日本禅宗史』

科目名	担当者名	配当学科	単位
禅籍講読 I	たなか りょう しょう 田中良昭	国文・英文文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この講義は、中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した語録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生まれ出されたが、現存最古のテキストである敦煌本の内、近年その内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦煌本）を用い、その読解を通じて、初期禅思想、特に南宗禅の特色を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

オリジナルテキストは写本であるが、近年、楊曾文氏の校定本、周紹良氏の影印・校写本が刊行されているので、両者を比較しながら読解を進める。尚、上記校訂本はいずれも白文（かえり点のない漢文）であるが、佐藤悦成氏による訓読と現代語訳が出版されているので、順番に読み下しと解釈してもらい、その上で読み方と内容について詳しい解説を加えていきたい。

履修上の留意点

この講義の履修を通して、原文に触れることの意義を体験し認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の当番の際の読解力、出席状況、学年末試験の結果を総合して評価する。

教科書

楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参考書等

佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）、柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18 『禅語録』（中央公論社）、及び（世界古典文学全集）36A『禅家語録』I（筑摩書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 籍 講 読 III	佐 藤 秀 孝 <small>さとう ひで たか</small>	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まり、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨済宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名語法などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や瑩山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後、当該の禅籍を講読するわけであるが、今年は『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教 科 書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参 考 書 等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫（岩波書店）520円
酒井得元訳註『永平元禅師語録』『道元禅師全集』第5巻に所収（春秋社）4,120円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 概 論	ひら い しゅん えい 平 井 俊 榮	英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法 — 仏教の真理観 —
- 第4章 一切法 — 法の分類 —
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心 — 実践の主体 —
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は随時採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』（春秋社）2,575円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教文化史	奈 良 康 明 <small>な ら やす あき</small>	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功徳を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、数学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か：
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功徳観念の文化史的発展。
善業と功徳（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功徳→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功徳観念の「出世間レベル」への関係付けられない昇華
功徳の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功徳観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見たいとすることが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないかと。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやっけてよい、ということなので、通常の講義と思って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講説を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでほしい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してほしい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円

袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円+税

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国古典語初級	いし 井 こう せい 石 井 公 成	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教科書

使用せず、コピーを配布する。

参考書等

教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国哲学史	まえ かわ とおる 前 川 亨	国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

中国人の世界観・人間観・死生観などを歴史的に把握することを目的とする。具体的には儒教・仏教・道教の思想とその相互関係を理解するように努める。その際、東アジアの思想史という広い視野を失わないように心掛けたい。中国人の思考様式、諸思想（宗教）がいかに我々日本人に受け容れられたか、また受け容れられなかったかを考えてみたい。一見抽象的にみえる思想史も、実は我々の現実と深くつながっているのだということを、共に学んでいこうと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

受講者の顔ぶれ・関心の方向を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、それとも前年度に引き続いて唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的ではなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

履修上の留意点

中国の思想・宗教・文化など多方面の関心のある諸君の受講を期待する。現代中国語もしくは古典中国語の初歩的な知識をもっていること（持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、授業じたいはそれなしでも理解可能であろう。但し当然ながら、本講義内容に関心を持ち、継続して出席する意欲を意志を有する者に限る。レポートだけ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで登録してはならない。

成績評価の方法

授業に関連するレポートを前期・後期に提出してもらおう。それ以外の評価方法も検討したい。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の皆さんの意見なども聞きながら進めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
上代文学研究Ⅰ	おののひろし 小野 寛	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

万葉集をよむことから、上代文学の特質を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

昨年は万葉集巻一をよみ進めて来たが、今年度はその続きを同じく巻一から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）1,600円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中古文学研究Ⅰ	たか はし ぶん じ 高橋 文 二	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英	4

講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

教科書

未定（4月出版予定のものを使用予定）

参考書等

講義時間内に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中世文学研究Ⅰ	むら 村上 かみ 上 みつ 光 のり 徳	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

中世隠者文学について講ずる。隠者とは何か。中世の隠者文学の特色などを考え、西行・長明・兼好・正徹、心敬などの遁世の動機や生き方、物の考え方、さらにそれぞれの作品を読み、自然観、無常観、美意識などを考察する。

講義の内容・授業スケジュール

講義が中心、そのときどきに応じて講読する作品を配布し、西行から一人一人について考えて行く。

成績評価の方法

①筆記試験、②出席状況。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
近世文学研究Ⅰ	ふ 富 じ 士 あき 昭 お 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

芭蕉の俳諧紀行の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

『野ざらし紀行』『笈の小文』などを精読して、『おくのほそ道』へ至るまでの俳諧紀行文の成立と展開の諸相について理解を深める。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

教科書

プリントを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近代文学研究 I	はた 実	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

明治の末に文壇の中心的存在であった自然主義文学をとりあげる。その当時に出た小説、評論類を考察して日本の自然主義文学の特色をあきらかにすると共に、文壇の主流を占めた理由、およびその限界等を考えていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じてプリントを配布し小説や評論の一部を読むことにより理解を深めたいと考えている。

成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

授業時に随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比較文学	みつたに 満谷マーガレット	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短大	4

講義のねらい

文化交流のもっとも重要な手段である翻訳の問題について考えてみたい。明治時代の日本は西欧文化のすべてを「翻訳」しようとしていたといっても過言ではないが、授業では、比較的扱いやすい詩の問題が中心になる。前期では、讃美歌、イギリスの浪漫派、フランスの象徴派の詩人たちやシェークスピアなどが近代日本にどのようにして翻訳されてきたか、作品を精読しながらみていきたい。後期では、逆に日本語の詩（短歌、俳句を含めて）の翻訳問題を焦点にして、十九世紀からの英訳短歌、E. パウンドの英訳謡曲や戦後のハイク・プームなどをみていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義科目ではあるが、授業中、なるべくたくさんテキストを精密に読んでいきたい。教科書はないが、必要に応じてプリントを配る。

成績評価の方法

前期、後期と試験を行う。

教科書

プリント

参考書等

秋山勇造『翻訳の地平』（翰林書房）1995
日本近代思想体系15『翻訳の思想』（岩波書店）1991
西田直敏『「新体詩抄」研究と資料』（翰林書房）1994など

科目名	担当者名	配当学科	単 位
児童文学	やまぐち せつこ 山口 節子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日的状況をのりを超える力をもつことを、M. エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教科書

授業の際に、事前に紹介する。

参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋思想史	あそう けん 麻生 建	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』（東京大学出版会）3,502円

参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
演劇概論	井上理恵	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかに収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウルクイー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになろう。ビデオで舞台に展開される演劇を視聴しながら西洋と日本の演劇の違いつもりである。

履修上の留意点

個別的な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Xを同時に受講されることが望ましい。

また、実際の舞台を見にいったりして批評を書いてもらうつもりでいるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500～4,500円)

成績評価の方法

レポート(二回、観劇批評含む)とテストによる。

教科書

木下順二『劇的とは』(岩波新書)650円、平田オリザ『演劇入門』(講談社現代新書)640円(必携)

参考書等

毛利三彌『東西演劇の比較』(放送大学教育振興会)

その他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
編集実務	長谷川孝	禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英	4

講義のねらい

編集とは、「だれかに—何かを—伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点(目のつけどころ)」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと考えています。

「だれかに—何かを—伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらいます。

教科書

教科書は使いません。(随時、プリントを使用)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅰ	いし ほん こう さい 石 原 孝 哉	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。

講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ⑨獄中作家ジョン・バニヤン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・バニヤン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

教科書

『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』（三修社）2,000円

参考書等

『同一性の寓話』（法政大学出版局）、その他教場にて指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅱ	たか の まさ お 高 野 正 夫	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、Dryden や Pope など代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomson のように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward Young や Robert Blair そして Thomas Gray などのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年に William Wordsworth と Samuel Taylor Coleridge によって出版された Lyrical Ballads という、1冊の詩集によってこのような古典主義的因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

教科書

教場にて指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ぎき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernityという言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T. S. エリオットの現代詩（モダニズム）、さらに D. H. ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教 科 書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参 考 書 等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅳ	ふ じ かわ よし ゆき 富 士 川 義 之	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

18世紀と19世紀における文学と絵画の関連（いわゆる「^{シスター・アーツ}姉妹芸術」）について、とくに風景画と風景庭園の流行、ピクチャレスク美学の成立、ワーズワスからラスキンやペイター等にいたる文学者たちにおける風景志向等に注目しながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

主として取り上げるのは、理想風景、ピクチャレスク美学、風景の発見、ゲインズボロ、ターナー、コンスタブルなどの風景画家、ワーズワス『序曲』、ラスキンのターナー解釈、ペイターにおける風景と記憶の問題、ワイルドの庭など。

履修上の留意点

講義を中心とし、機器を使って風景画などを見る予定。

成績評価の方法

出席は毎回とる。成績はレポートと試験により評価する。

教 科 書

必要に応じて、プリントを配布する。

参 考 書 等

教室でその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講 V	たかまつ ゆういち 高松雄一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評の T. E. ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評の T. S. エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動というべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠らず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っていい。

講義の内容・授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

教科書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

参考書等

高松雄一編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
イギリス文学特講Ⅵ	まるこ てつお 丸 小 哲 雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

批評行為は人間の本能です。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることでもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対して対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカールとして説明してゆきます。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構的世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か：日常言語と虚構言語の差異について
3. 文学テキストの機能と力について
4. 英文学研究の成立過程：文学研究制度の問題について
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 批評精神の遍在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教 科 書

『〈持続する〉テキストへの意匠』（英宝社）

参 考 書 等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は適宜必要に応じて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅰ	にい くら とし かず 新 倉 俊 一	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状况をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンスン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、スティーヴンズ、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、プライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

教科書

新倉『アメリカ詩の世界』（大修館書店）1,900円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅲ	あし だ かず ひと 足 田 和 人	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

ロスト・ジェネレーションと呼ばれる作家の短編小説を読み、その特徴を探る。また、歴史的、文学史的背景を考慮に入れながら、彼らの技法を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

それぞれの作家の作品に目を通しながら、講義を行う。

履修上の留意点

あらかじめ指定された英文テキストを読んでいることを前提に講義を進める。授業中に発言を求めることもあるので、積極的な参加を希望する。

成績評価の方法

毎時間、小レポートを提出してもらい出席とする。加えて、前期・後期あわせて2回のレポートを課し、年間の評価とする。

教科書

『現代アメリカ短編小説選(3)』（南雲堂）

参考書等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
演 劇 特 講 (イギリス・アメリカ)	あらいよしお 荒井良雄	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

教科書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

参考書等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』（新樹社）2,500円
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』（朝日新聞社）1,200円

その他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
時 事 英 語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TV ニュース、雑誌、タ
プロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを
行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教 科 書

長谷川潔、L. P. サンダース著 *ASIAN CROSSROADS* (成美堂)

そ の 他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地形学	小池一之	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。

1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人口地理学	大友篤	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

地理学は、地域の特性や機能、地域的關係、地域間の相互作用、地域構造、あるいはこれらの変化を明らかにする学問である。しかし、地域は、地球表面上の一定の広がり（空間）と定義することができるが、きわめて抽象的な実在であるために、上記の諸要素を明らかにするためには、地球上に存在している何らかの事象を媒介にすることが必要になる。すなわち、人口地理学は、人口現象を媒介にして、上記の諸要素を明らかにしようとする学問である。したがって、人口地理学の研究にあたっては、まず、人口現象を正しく理解することが必要であり、そのためには、人口学の知識が必要となる。1年間という制約のなかでは、人口学とその知識に基づく人口地理学の2分野の講義はできないので、ここでは、人口学の基礎知識を説明しながら、これまでに人口地理学研究のなかで明らかにされた法則や理論などを平行して説明する。

講義の内容・授業スケジュール

人口構造（基本的構造、社会的構造、文化的構造、経済的構造）、人口動態（出生、死亡）、人口移動（国内移動、国際移動）、人口の地域分布、人口変動と将来予測、人口と資源、人口と環境などの項目について、体系的に説明する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
文化地理学	お だ ま さ や す 小 田 匡 保	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

広義の文化地理学は人文地理学とほとんど同じであるが、本講義では狭義の文化地理学に的を絞り、特に宗教地理学の研究例について述べる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化地理学とその概要 2. 宗教地理学 3. 宗教分布 4. 宗教集落・宗教都市
5. 山岳宗教 6. 巡礼 7. 墓地

成績評価の方法

成績評価は、レポートと試験によって行なう。レポートが提出されない場合は、単位認定は保証できない。

教科書

使用しない。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
応用地理学	た か き ま さ ひ ろ 高 木 正 博	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では「河川」を対象とし、これの専門分野である河川工学や農業水理学などの成果をふまえて、地理学として河川をどのように扱うかを考える。河川は、河道だけでなく流域全体として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかわりあいを利水・災害・自然環境などの視点から考える。また、ヨーロッパの河川特性・管理などについても紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の流出に関する基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、いくつかの具体的な河川を事例として、利水・災害・河川環境などの視点からそれぞれの河川特性を考える。また、都市の水環境など、川をめぐる現実的な課題について、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味する。

教科書

授業時間に配布するプリントを使用。

参考書等

高橋 裕『河川工学』（東京大学出版会）その他随時紹介する。

その他

講義中心。事例紹介のためのスライドや OHP、ビデオも使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代地理学特論	はせがわ ひとし 長谷川 均	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。沖縄県では、本土復帰以降、巨額な資金がつぎ込まれ、島々の自然がいたるところで痛めつけられている。また最近、本島北部に米軍基地の移転と空港建設を目指した新知事が誕生し、それに伴う自然へのダメージを懸念する声も強い。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。サンゴ礁の自然をとおして、これらの現状を解説したい。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「リモートセンシングデータ」や「地理情報システム」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退中は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、PCによるプレゼンもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史特講Ⅶ 〔近代〕	こいずみ まさひろ 小泉 雅弘	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近代日本の出発点となった明治維新期の諸問題について講義し、最近の研究動向にも触れながら近代国家の成立について考える。

講義の内容・
授業スケジュール

最初に明治維新史の時代区分に関する諸説を検証し、次いで幕藩体制の崩壊から明治国家成立の過程を検討する。その際、必要に応じて史料講読を行いながら授業を進める。具体的には、幕末の政治運動、戊辰戦争、維新政権、民権分離問題、廃藩置県、岩倉使節団と留守政府、明治六年の政変、文明開化、藩閥権力の生成、土族反乱と農民一揆、自由民権運動などを、集団・情報・国民国家といった観点も取り入れながら述べていく。

履修上の留意点

既成の歴史認識にとらわれるのではなく、史料批判や史料解釈などを基礎とした自ら歴史を考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験により評価し、出席状況を加味する。

教科書

特にないが、必要な資料はコピーして配布する。

参考書等

講義内容に則して、適宜参考文献を紹介したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東 洋 史 特 講 X 〔 近 ・ 現 代 〕	ちよう 趙 ぐん 軍	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概要的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概要的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。
主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征亜論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山満と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定－組織と過程－
17. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教 科 書

- ① 趙軍『大アジア主義と中国』（亜紀書房）1996年
- ② 田中明彦『日中関係 1945-1990』（東京大学出版会）1991年

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 文 化 史 I	さ さ き 木 まこと 佐 々 木 真	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
山内進『掠奪の法観念史』（東京大学出版会）

そ の 他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢 <small>たに ぐち みつぎ</small>	禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学史	やまぐちまさひろ 山口 祐 弘	国・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
歴史哲学	あそうけん 麻 生 建	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 ちよ 代	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 民 所 得 論	よしの 吉 野 紀	禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。ここでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」 5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」 8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」 4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」 5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教 科 書

R.J.ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版)(多賀出版)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済史	わた <small>なべ</small> 渡 辺 あらた 新	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

日本経済の歴史的な分析を通じ、第1に日本経済の通史的理解を深め、第2に経済史的な考え方および経済史の基礎的知識を学び、広い意味での歴史認識を養うことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

主な講義内容は以下の通りであるが、近年の歴史学の研究動向を反映させ、できる限り隣接諸科学（たとえば国家論、地域社会論、女性論など）との接点を探っていききたい。

- ① 日本経済史の課題
- ② 前近代の経済構造
- ③ 日本における原始的蓄積
- ④ 日本における産業革命
- ⑤ 日本帝国主義の構造
- ⑥ 昭和恐慌と戦時統制経済
- ⑦ 戦後改革と高度経済成長

成績評価の方法

筆記試験ないしはレポートによって評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中小企業論	三井逸友	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

「中小企業」を論じるということは、意外に容易ではない。なぜなら、「社会科学的概念」を抽象的に論じるのではなく、慣れ親しんでおり、それなりの「固定観念」や「イメージ」が「言霊」としてつきまとっているのが、日本語の慣用語の一つとしての「チューショーキギョー」だからである。しかしそんな「日用語」を一年もかけて論じようというのがここでのねらいではない。ねらいはむしろ、「中小企業は経済のきわめて重要な (critical) 構成要素である」(クリントン米大統領) と評される事実を、客観的総合的にとらえ、考えていくことにある。

日本の中小企業はその数約600万、企業の99%、従業者数の80%を占め、製造業中心企業に限っても80万を数え、付加価値の50%以上を生み出している。まさしく、『日本は「中小企業国」だから強い』(森清著、ダイヤモンド社刊) ののである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が十分その成果の恩恵にあずかっていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差・不利・経営不安などの「問題状況」も依然広く見られ、長期不況と信用収縮の中でまた、きわめて深刻ともなっている。しかもこのように「期待」と「困難」とが交錯するという事態は、いずれの国でも共通して確認できる。

中小企業をめぐる現実をとくカギを、その役割と当面する問題、そしてこれに対する経済学的な理解の方法を検討し、中小企業の役割・可能性とこれを妨げる諸問題への政策的対応の意味を通じて明らかにしていくのが、この講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

第一部 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況

ここでは、「中小企業論」の性格と方法を示し、その対象としての中小企業の存在の実態を、国際比較を含めて概観する。その上で、中小企業が直面している問題状況や、中小企業の新生・成長と転廃業・退出の経済的社会的メカニズムを具体的に検討し、「日本の中小企業問題」の位相と今日性を再確認する。

第二部 「中小企業論」研究の理論と方法

ここでは、中小企業の存立と問題性をめぐる従来の理論・研究を振り返り、新たな方法を提起する。「中小企業存立論」「問題論」や「貢献論」だけでなく、今日の「企業家論」、さらに、いわゆる「ベンチャー企業論」や「企業家精神論」、「ポストフォーディズム論」もここでの批判的検討対象である。それらの限界性をふまえて、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけの方法を指摘する。

第三部 中小企業の現代的存在形態と「経済システム」「経済的関係」

ここでは、うへの研究方法にもとづいて、中小企業の存在の実態を構造的に解明する。「下請制」「地場産業産地」「大都市中小工業」などといった、我が国の従来の中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追う。あわせて、80年代後半以降の、日本企業の「国際化」のもとの、日本的企業間関係と管理手法の「輸出」、「現地化」の示した特徴と限界から、中小企業の存立の普遍的意味をあらためて考える。結合生産力の「効率性」と、競争と統制・管理の原理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうちの問題状況・「自立」企業の可能性と経営展開の意義が、基本的視角となる。

第四部 中小企業政策の展開と国際比較

ここでは、「中小企業問題」の展開とこれに対する各国の「中小企業政策」の国際比較研究を行う。ポイントは「生産力的」に成功を取ってきた我が国の「中小企業の近代化政策」の評価であるが、これに対する欧米の政策の相違、そして世界経済の一体化、地域経済圏の形成のもとで、近年の「収斂傾向」を検討し、特に EU 欧州連合ならびに欧州諸国の政策の最新の特徴にふれる。また、我が国についても、近年の「構造転換」対応策、創業促進策、ベンチャー企画支援策なども検討する。

履修上の留意点

中小企業の研究は、ナマの企業の実態から始まるものであり、その意味で現実感覚が大切である。講義の中では、「教科書をなぞる」ようなことはなるべく避け、今日的現実的な話題を重視したいので、教科書くらいは事前に読んでおくようにしてほしい。また、夏休みには補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。

成績評価の方法

基本的には、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。「出席」を取るという空しい作業をするつもりはないが、「出席状況」は加味する。

教科書

三井逸友『現代経済と中小企業』(青木書店) 2,800円 (税抜)
同編『日本的生産システムの評価と展望』(ミネルヴァ書房) (予定)

参考書等

三井『EU 欧州連合と中小企業政策』(白桃書房) 2,300円

巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ新版』（有斐閣）2,200円
中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕
中小企業総合研究機構訳編『ヨーロッパ中小企業白書 1997』（同友館）3,500円
佐藤編『21世紀、中小企業はどうなるか』（慶大出版会）2,300円

そ の 他

「講義」形式を基本とするが、企業のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、「ベンチャー」起業家、企業経営者や行政関係者の方々の話なども取り入れたい。その中で、企業の経営実態、産業動向等についての、担当者の世界各地や全国での最新の見聞も豊富に活用していく。また、諸方面のWEBサイトの提供する情報は（担当者自身のものを含めて）、必須の材料である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会政策	みつ 光 　 おか 岡 　 はく 博 　 み 美	禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放	4

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととしたい。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教科書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 経 済 論	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるとされている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (8) クリントン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (9) サッチャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (10) メージャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (11) ブレア首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (12) 学制時代における実業教育政策 1 富国強兵・殖産興業 (映画)
 - (13) 学制時代における実業教育政策 2 学制公布と実業教育
 - (14) 教育令時代における実業教育政策 1 工場払下
 - (15) 教育令時代における実業教育政策 2 教育令公布と実業教育
 - (16) 学校令時代における実業教育政策 1 産業革命
 - (17) 学校令時代における実業教育政策 2 学校令公布と実業教育
 - (18) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (19) 復興期の経済発展と教育 1 (一部ビデオ)
 - (20) 復興期の経済発展と教育 2 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
 - (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (24) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

沼口 博『学校教育と経済発展』（学文社）
 小林泰宏『アメリカで進む教育改革』（朝日新聞社）
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』（銀河出版）
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）
 天野郁夫『教育と近代化』（玉川大学出版部）
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	く どう まま ひろ 工 藤 昌 宏	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法律 政治・短国・短英	4

講義のねらい

第二次大戦後の日本経済と、そこに貫かれる資本主義経済システムの論理を探ることをねらいにします。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は大きく前期と後期に分け、前期は主に50年代後半以降今日までの世界経済の動向とその中で日本経済の位置を確認し、それを通じて日本経済の特殊性と問題点を検出します。具体的には、IMF や世界銀行を重要な装置にしたパクス・アメリカーナ体制とその動揺、50年代後半から70年代初頭にかけての高度経済成長過程、石油危機と日本経済、日本経済摩擦の展開、バブル経済とその崩壊などを中心に講義します。

後期は前期の内容を踏まえて、敗戦後の日本経済の基本的枠組みとそれを形成した経済再建過程、朝鮮戦争とその影響、高度経済成長に至る過程を分析します。その中ではとくに経済主体としての個別企業に焦点を当て、その発展とそれを支えた条件を明らかにします。

講義の進め方。

1回ごとにテーマを設定しますが、全体として連続性をもたせます。また具体例、数値を用いて、日本経済の在り方とそれを担う経済主体の行動に焦点を当てて考察します。

講義の到達目標。

戦後日本経済の推移、基本構造、問題点を捉えることができるように認識を高めるようにします。また新聞などの経済記事の内容についてある程度理解できるようにし、今日の様々な経済現象とその根底にある論理を大筋で捉えることができるようにします。

履修上の留意点

講義は1回ごとに独立したテーマを設定しているので、講義時間に遅れないこと。ノートは確実にとること。

成績評価の方法

前期、後期各1回ずつの試験によって評価します。

教科書

サブ・テキストを含めて、開講時以降、随時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
アジア経済論	かく 郭 よう 洋 しゅん 春	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。しかし、1997年7月以降、アジア各地に波及した通貨・金融危機は、世界経済そのものの根幹を揺るがしている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、賦の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。その際、我々の身の回りから見たアジア、という視点についても触れていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

- I アジアの台頭
 - ①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN
 - ⑤日本に来るアジア人旅行者、
- II ダイナミック・アジア
 - ①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化
 - ④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス
- III 迷走するアジア
 - ①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁
 - ⑤アジアに広がる日本文化
- IV 21世紀のアジア
 - ①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするの

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと前期末レポート、学年末試験を合わせた総合評価

教科書

郭 洋春『アジア経済論』（中央経済社）3,360円

参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）3,045円。他は授業中に随時紹介する。

その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949~57年)、(2)毛沢東モデル(1958~78年)、(3)鄧小平モデル(1978~)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設 — 超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) 4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	神・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅広く、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究していく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・ 授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

◇アメリカの建国の理念と現代の経済

◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家とベンチャービジネス

◇アメリカの雇用と労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの交通・通信・情報

◇アメリカの金融

◇アメリカの教育と経済

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

◇アメリカ経済と環境問題

◇アメリカ社会とヴォランティア

◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

◇国際通貨ドルの地位と IMF

◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとカナダ・メキシコ
- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- 《むすびの話題》
- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにところがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をとおさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア・東欧経済論	やま 山 ぐた 縣 ひろ 弘 し 志	祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることができないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・
授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達したか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに応えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』（白桃書房）2,800円

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』（大月書店）2,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	そ が のぶ たか 曾 我 信 孝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営管理論	ひやく た よし はる 百 田 義 治	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会 福祉・心理・短国	4

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPO や NGO の組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月－7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ① 授業ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
- ② 現代の組織と経営管理（企業の経営管理と NPO・NGO の経営管理は異なるか？）
- ③ 経営管理論の源流 1：科学的管理法（唯一最善の管理法は存在するか？）
- ④ 経営管理論の源流 2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
- ⑤ 組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
- ⑥ 現代組織論 1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
- ⑦ 現代組織論 2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
- ⑧ モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
- ⑨ 人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）

（夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月－1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
- ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
- ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本の経営は国際的に通用するか？）
- ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
- ⑭ 経営管理と情報化 1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
- ⑮ 経営管理と情報化 2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
- ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
- ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（経営者の社会的責任とは何か？）
- ⑱ 労働の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）

（学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉学意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』（ミネルヴァ書房）1996年
片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』（ミネルヴァ書房）1998年

参考書等

授業や夏期レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436；電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 務 管 理 論	石 井 脩 二	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実が生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこでの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・
授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせ利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力がかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本の経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるとということにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進んでいく。

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 序 章 人事労務管理から人材資源管理へ | 第 5 章 報酬管理 |
| 第 1 章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化 | 第 6 章 労働時間管理 |
| 第 2 章 採用管理 | 第 7 章 福利厚生管理 |
| 第 3 章 教育訓練と能力開発 | 第 8 章 女性労働の管理 |
| 第 4 章 昇進管理 | 第 9 章 国際人事 |

成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得性。

教 科 書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参 考 書 等

津田真激編著『人事労務管理論』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 務 会 計 論	えん どう たかし 遠 藤 孝	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大	4

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET)、損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に、その性格、内容、役割について講義する。できるだけ時の実務上の会計問題にひきつけて講義する。例えば、'98年度ではヤオハン、三田工業の粉飾問題。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰越資産の特殊性、繰越資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本会計について。

後 期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週
同上。
- (14) 10月第1週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)。
- (16) 10月第3週
同上。
- (17) 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週

- 同上。
- (21) 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週
同上。
- (23) 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週
予備。
以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』(森山書店)1998年

参考書等

遠藤孝著『引当金会計制度の展開』(森山書店)1998年

その他

授業の方法、教科書、OHP、ときにプリント配布。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
会計監査論	飯岡透	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

- 4月 会計監査の目的と種類
- (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査人の選任と解任
 - (3) 監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
- (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
- (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

- 9月 内部統制と監査リスク
- (1) 内部統制の構成要素
 - (2) 内部統制の評価
 - (3) 監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
- (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
経営者確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
- (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明
なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
管理会計論	なか ばら しょう きら 中原 章 吉	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎』（創成社）

教科書

『管理会計論』（税務経理協会）

科目名	担当者名	配当学科	単位
原価計算論	かとうとし やす 加藤利安	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状況の認識の下で、ある特定の社会的役割を果たすべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとすれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に説明することをこころがける。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら説明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教科書

最初の授業時に指示する。

参考書等

授業時に適宜挙げる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる古 ざわ沢 こう紘 そう造	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーション
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
銀行論	さいとう 齋藤 ただし 正	禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしている。それゆえ、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえ、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』
いずれも大月書店 1992年。山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 斎藤 寿	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
相 続 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きた の 北 野 かほる	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造 I 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造 II イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英 米 法	きたの 北 野 かほる	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる。法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内客の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済法	おがだとしひろ 岡田外司博	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・経営・短放	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

参考書等

初回の講義の時に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際政治学	こぼりのお 小堀訓男	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ヨーロッパ政治史	うらたさなえ 浦田早苗	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短放	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート 7～8×400字 は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地方自治法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。その際、現在進行している地方分権推進のシナリオは参考になる。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位、自治立法権について議論を行う。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。

成績評価の方法

前期試験（40%）と学年末試験（60%）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教 科 書

南博方他『行政法(3)（第3版）』（有斐閣双書）1,800円

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）。『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方自治』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

そ の 他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
立 法 過 程 論	まえ だ ひて あき 前 田 英 昭	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐって繰り返される議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。
[取り上げるテーマ] 立法過程とは。国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会議制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教 科 書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参 考 書 等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
前田英昭『国会の100年』（原書房）
岩井泰信『立法過程』（東大出版会）
林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
中村陸男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）近刊

科目名	担当者名	配当学科	単位
比較政治学	いわさきまさひろ 岩崎正洋	祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義諸国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだといふのでもない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありうることを念頭に置かれたい。

教科書

教科書というかたちで、何か特定の書物を一年間にわたり使用することはないが、授業中に適宜、参考書および関連文献を提示する。

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- *M. ドガン&D. ベラッシー/櫻井陽二訳『比較政治社会学』(芦書房) 1983年
- *西川知一編『比較政治の分析枠組』(ミネルヴァ書房) 1986年
- *H. J. ウィアールダ編/大木啓介他訳『比較政治学の新動向』(東信堂) 1988年
- *砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』(東海大学出版会) 1990年
- *青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』(新評論) 1998年
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., (Sage) 1994.
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, (Polity Press) 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 国 家 論	おお つか かつら 大 塚 桂	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英	4

講義のねらい

福祉国家の見通しが叫ばれて久しい状況にあります。ありうべき国家とは何か、が今日の重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ヘダーでしょう。政治学の発達を顧みたとき、政治学=国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治哲学・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果をとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格をもつものといえるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
- B 国家学説の史的展開
 - ①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説
- C 法治国家の構成原理
 - ①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権
- D 行政国家の構成原理
 - ①福祉国家 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家

成績評価の方法

- 受講生と相談の上で、以下のいずれかにより単位を認定します。
- A方式(レポートによる単位認定)
～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。
 - B方式(試験による単位認定)
～中間・期末試験により、成績を評価します。B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂) 3,000円

その他

上記テキスト所収の〈参考文献〉を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 労 務 論	か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本の経営論、経営労務学説史、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、日本の生産システム、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、90年代の労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には講義を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったように問題点を掲げ、その解説をおこなう。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明をするので、初回は重要。出席は取らないので、出席点はなし。私語は他の学生に迷惑になるので遠慮してもらいたい。

成績評価の方法

学期末の試験のみによる。内容はA方式：①空欄補充問題（約50点分）②論述問題1問（約50点分）の計100点、またはB方式：論述問題1問（100点）のいずれかを選択のこと。詳細は初回の講義で説明する。

教 科 書

テキストは津田真澄『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）1993 定価3,000円程度

参 考 書 等

労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）1995 定価2,600円程度、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992 定価3,500円程度をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。

そ の 他

授業は講義の形式でおこなうが、図表やグラフを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 営 論	茂 垣 広 志 <small>がき ひろ し</small>	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

国際経営とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点間の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存の経営諸理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。授業では、その日系 MNC の戦略及びマネジメントの特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際経営の戦略選択モデル（国際競争戦略）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ポーター・モデル、ドズ＝プラハラード・モデル、バートレット＝ゴシャル・モデル等）
- V. 国際戦略と国際経営管理
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）とミクロ構造および内部ネットワーク
 2. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略およびマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 3. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その現状と課題）
- VI. 国際マーケティング戦略
 1. 海外市場参入と現地マーケティング戦略の展開（現地マーケティングミクス）
 2. 国際マーケティング戦略における現地適応化とグローバル標準化
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 異文化マネジメント
 2. 海外派遣社員の人事管理
 3. 国際人的資源管理（能力開発、処遇、キャリアデベロップメント）
- VII. 国際研究開発戦略
 1. R&D の集中化と分散化
 2. 規格競争と戦略提携（R&D コンソーシアの形成）

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも概説する。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』（学文社）2,800円＋税

参考書等

根本孝・諸上茂彦『国際経営の進化』（学文社）

その他

講義が中心であるが、その際 OHP ないしプロジェクターを用いてビジュアル的な授業を行う。その際、使用資料について配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ 山 田 勝	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継続性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流通量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価格革命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』（創成社）2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いしなごか くにあき 石名坂 邦 昭	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教科書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』(白桃書房) 3,500円

参考書等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』(白桃書房)
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 分 析 論	かた ぎり のぶ あ 片 桐 伸 夫	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
 - 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
 - 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
 - 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
 - 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、
- といった内容です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析を取りあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと学年末試験で行います。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配布するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教 科 書

渋谷武夫著『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社）3,568円

参 考 書 等

随時、紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

そ の 他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営情報論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	福・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関する体系的な観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法と体系的なものの方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化I、II、III類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータールームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。

その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』（日刊工業新聞社）3,200円
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報理論	にしむらかずお 西村和夫	禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参考書等

各種の参考書をそのつと紹介します。

その他

〔関連科目〕→ 経営情報論

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営統計	ちよう 長 こつ 国 きよう 強	禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により統合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学講読	佐原作美	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝（629-641）の頃から奈良朝の天平宝字3年（759）までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良等の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

リポートや出席状況をもって評価する。

教科書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう（桜楓社）刊 1,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学講読	鈴木裕子	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見付けてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

今年は、初音の巻から読みます。完成した六条院に玉鬘を迎え、いよいよはなやかに我が世の春を誇る光源氏。いわゆる玉鬘十帖の構造や意味についても理解を深めていきたいと思っています。

履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。（前期一回、後期一回）その他、授業中に適宜レポート等を課し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教科書

『源氏物語四』新潮日本古典集成（新潮社）

参考書等

秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店）

科目名	担当者名	配当学科	単位
中世文学講読	この べ みき お 菌 部 幹 生	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

中世文学の中から、本年度は『御伽草子』をとりあげる。『御伽草子』は、「一寸法師」「浦島太郎」「物くさ太郎」「鉢かづき」「酒呑童子」その他（狭義では二十三編）のたいへんによく親しまれた作品群であるが、古典の原文を読むことで、幼い頃に親しんだ御伽話とはまた異なる作品世界を味わいたい。作品それ自体が持つおもしろさを堪能することも講座のねらいではあるが、加えて、それ以前の古典作品とは質的に変貌してきた中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、『御伽草子』の中の作品を出来るだけ多く講読する。

履修上の留意点

毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う（試験はテキスト・ノート・辞書・参考書等何でも持ち込み参照可）。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示するので、必ず出席すること。

教科書

白田甚五郎・藤島秀隆・岡田啓助・成田守編『御伽草子』（おうふう）1,848円

参考書等

必要に応じて時間内に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
近世文学講読	この かず お 菅 野 一 雄	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中でも独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさん名作を残したが、『曾根崎心中』は元禄16年に初めて身の廻りの町人の生活から取材して書いた作品で、大当りをとったものである。醤油屋の手代徳兵衛と遊女お初が、愛し合っているが心中に至ってしまう物語で、現在の「文楽」でも繰り返し上演される人気演目である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどういう作品を作ったか、『曾根崎心中』の二人の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『曾根崎心中』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト（テキスト・ノート携行）を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

祐田善雄校注『曾根崎心中・冥途の飛脚他五篇』（岩波文庫）

参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
近代文学講読	いし わり とおる 石 割 透	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

1910年代から1920年代に発表された、わが国の代表的な小説を、多様な角度から読み、同時代の文学史、表現史の検討の一助としたい。

講義の内容・授業スケジュール

扱う作品は芥川龍之介『奉教人の死』『秋』『菌車』、谷崎潤一郎『少年』『幫間』『痴人の愛』志賀直哉『十一月三日午後の事』『雨蛙』、内田百閒『冥途』『施順入城式』宇野浩二『蔵の中』など。また、それらの作品や時代に共通する課題をかかえた菊池寛、近松秋江、江戸川乱歩などの作品も自由にとり入れて、この時代の文学の問題を考えていく予定。

履修上の留意点

文庫本などで接することが難しい作品を扱う場合もあるが、そうした作品も、受講者は必ず授業でとりあげる作品を前もって読んで授業に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートなどでは、これまでの研究文献にもたれかかることのない、斬新な視覚によるものを期待したい。

教科書

『奉教人の死・煙草と悪魔』『大導師信輔の半生・手中・湘南の扇』（以上、岩波文庫）、谷崎潤一郎『刺青・秘密』（新潮文庫）、『美食倶楽部-谷崎潤一郎大正作品集』（ちくま文庫）、志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』（新潮文庫）、内田百閒『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）

参考書等

授業時に適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代文学講読	あん どう こう すけ 安 藤 幸 輔	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放	4

講義のねらい

「戦後文学」の代表的作家の作品を講読する。すなわち、
 ・太宰治『富嶽百景』『斜陽』『お伽草子』『ヴィヨンの妻』『駆け込み訴え』など。
 ・坂口安吾『風博士』『桜の森の満開の下』『青鬼の禪を洗う女』など。
 ・大岡昇平『俘虜記』『武蔵野夫人』など。
 ・三島由紀夫『金閣寺』『橋づくし』『近代能楽集』など。
 (上の各作家の作品は、掲げることのできなかつた作品も扱いたい。受講生が手にしやすい文庫本に収録されているものを選ぶようにするため、作品や順序に変更があるかもしれない)

教科書

テキストは、そのつど指示する。

参考書等

参考文献は、そのつど指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 演 習 I 〔 英 語 音 声 の 基 礎 〕	Ashwell, Tim (アシュウエル, ティム)	禪・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 歴 史 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 短 国 ・ 短 放	4

講義のねらい

It is hoped that by taking this course students will become proficient in aspects of the spoken language which may have been overlooked in their English language education to date, namely word and sentence stress, discourse stress and the equally important feature of reduction. By developing these aspects, it is hoped that students' listening comprehension will improve as well as their production of spoken English.

講義の内容・
授業スケジュール

Part of each lesson will be devoted to exercises from the textbook, 'Clear Speech', but time will also be set aside for working on the skills necessary to give an effective oral presentation in English. Facilities permitting, it is also hoped that students will engage in shadow speaking exercises, recording their own voices on tape alongside a model. Emphasis will, in any case, be laid upon the recordings students make for homework.

履修上の留意点

Students are expected to attend all classes and to be punctual. Reasons for absence are expected to be communicated to the teacher preferably in advance. Unexcused absences or lateness will incur penalties in the final grade.

成績評価の方法

Grades will be based on: 1). effort shown in class: 2). homework: 3) presentations: 4). attendance.

教 科 書

Clear Speech by Judy Gilbert (Cambridge University Press)

そ の 他

Students should buy a 90 minute cassette.

科目名	担当者名	配当学科	単 位
応用計測学 (前期)	かし 櫃 お 尾 えい し 次	禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営	1

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教科書

教材としてプリントを使用する。

3 日本語・日本事情科目

日
本
事
情
科
目
。

3 日本語・日本事情科目 (対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

日 本 語	I (佐 野 典 子)	195
日 本 語	I (多田羅 哲 子)	195
日 本 語	II (佐 野 典 子)	196
日 本 語	II (多田羅 哲 子)	196
日 本 語	III (多田羅 哲 子)	197
日 本 語	III (湯 村 礼 子)	197
日 本 語	IV (石 川 守)	198
日 本 語	IV (湯 村 礼 子)	198
日 本 語	V (石 川 守)	199
日 本 語	V (多田羅 哲 子)	199
日 本 語	VI (石 川 守)	200
日 本 語	VI (多田羅 哲 子)	200

《日本事情科目》

日本事情 I [地 理]	(後期) (小 池 一 之)	201
日本事情 II [自 然]	(前期) (清 水 善 和)	201
日本事情 III [歴 史]	(後期) (宮 本 由 紀 子)	202
日本事情 IV [思 想]	(前期) (赤 羽 由 規 子)	202
日本事情 V [社 会]	(後期) (江 上 涉)	203
日本事情 VI [政治・法律]	(前期) (関 口 雅 夫)	203
日本事情 VII [文 学]	(前期) (奥 原 淳 子)	204
日本事情 VIII [文化・芸術]	(後期) (赤 羽 由 規 子)	204
日本事情 IX [経 済]	(前期) (瀬 戸 岡 紘)	205
日本事情 X [経 営]	(前期) (前 田 和 利)	206

《日本語科目》

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 I	佐 野 のり 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

聴解を中心に、高度な日本語能力を養う。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期は時事問題のビデオを教材とする。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が準備する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 I	多 田 羅 あき 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要と思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 II	佐 野 典 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。
講義の内容・ 授業スケジュール	小説、小論文、雑誌記事、新聞記事などの読解を、ゼミ形式で行う。
成績評価の方法	小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。
教 科 書	教材は、担当者が準備する。

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 II	多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	<p>話すことを中心に日本語の運用能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。 ○発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。 ○あわせて書く練習もする。
講義の内容・ 授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ○読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。 ○スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。 ○ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。 ○話したことを文章にまとめる。 ○テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。
履修上の留意点	積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。
成績評価の方法	平常点を重視する。
教 科 書	必要に応じてコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 III	た た ら あき こ 子 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教 科 書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 III	ゆ む ら れい こ 子 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 IV	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。
履修上の留意点	授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。
成績評価の方法	成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。
教科書	教材は、授業中にプリントを配布する。
参考書等	特になし
その他	授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 IV	ゆ むら けい こ 湯 村 礼 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい	書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。
履修上の留意点	講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。
成績評価の方法	作文・レポートなど（5回程度） 授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）
教科書	授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 V	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 V	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義はICJ (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。

履修上の留意点

講義は教師が一方的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

- 今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。
- 関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。
- テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布、ビデオを使用。

《日本語事情科目》

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期)	こいけ かず ゆき 小池 一之	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸－東京の発展-その自然的な背景－
- c. 治山・治水事業－自然災害との闘い
- d. 「白砂青松」－代表的な日本の海岸成立の背景－

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せず質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

その他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期)	しみず よし かず 清水 善和	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート(2、3回)と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅲ 〔歴史〕(後期)	みやもと ゆきこ 宮本由紀子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教科書

なし

参考書等

なし

その他

講義のみ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅳ 〔思想〕(前期)	あかほ ゆきこ 赤羽由規子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

その他

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 事 情 V 〔 社 会 〕 (後期)	え 江 ^{がみ} 上 ^{わたる} 渉	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

この講義では、現代日本の社会の特質を素描する。
戦後における日本は、高度成長をとげ社会の構造的変動を経て、著しい変化をしてきた。その変動の過程でさまざまな社会問題が発生し、人びとの社会生活、社会意識等も大きく変容してきた。そうした日本社会の諸相について、社会学的なアプローチから概観する。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ次のようなテーマを扱う予定である。
1. 日本社会の構造的変化
2. 大衆社会化の進展とマスコミ
3. 情報化社会の進展と社会生活

履修上の留意点

この講義は、社会学的な考察を行うので、社会学の基礎を学んでおくことが望ましい。

成績評価の方法

受講生の数にもよるが、レポートと試験を行い、場合によっては出席を加味して評価する。

教科書・
参考書等

教科書、参考書は特に指定しないが、講義の中で適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 事 情 VI 〔 政 治 ・ 法 律 〕 (前期)	せき 関 ^{ぐち} 口 ^{まさ} 雅 ^お 夫	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教科書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅶ 〔文学〕(前期)	おくはらじゅんこ 奥原淳子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

目標は、問題発見能力の涵養と、文学・言語に対する理解を深めることにあります。
 具体的には、各自がテーマを選定し調査研究して発表する、という方式で授業を進めます。その際、内容はもちろん、言語面での問題点も共に考えていきましょう。
 テーマは、文学作品、作家、また、日本語の言語項目を対象とします。なお、文学作品の中では、日本語の作品とその翻訳版との比較なども興味深いだろうと思います。

講義の内容・授業スケジュール

第一回の授業には、予め、関心のある文学作品や作家、言語項目を持って出席できると思います。
 各自で調査研究を進め、順次教室で発表、検討していきます。

履修上の留意点

授業には、受身でなく、積極的な姿勢で臨むこと。

成績評価の方法

出席状況／研究発表

参考書等

その都度指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅷ 〔文化・芸術〕(後期)	あかばゆきこ 赤羽由規子	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。
 また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅸ 〔経済〕(前期)	瀬戸岡 <small>せと おか</small> ひろし 紘	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口にしめる農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？ そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？ それともジャパンでもいいの？ など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

- 日本の工業地帯と工業
- 日本の農村と農業および日本の水産業
- 日本のサービス業および金融
- 明治維新以前の日本経済の歴史
- 第2次世界大戦以降の日本経済の展開
- 日本経済とアメリカ経済
- 日本経済とアジア経済
- 日本経済と政府の役割
- 日本の労働者・サラリーマンの生活
- 日本経済と社会や文化の変化
- その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト(クイズ)30%、宿題30%が目安です。

教科書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

その他

授業は、おおむね日本語です。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情 X 〔経営〕(前期)	まえ だ かず とし 前 田 和 利	全学科・短大 (短放随意)	2

講義のねらい

日本の経営とよばれるものが歴史的にどのように形成されてきたかを、企業の具体的経営行動のケースをとおして明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

1. コーポレート・ガバナンス、2. 雇用システム、3. 生産・流通システム、4. 政府と企業の関係というテーマにそってケースをとりあげていく。

履修上の留意点

講義形式はとらない。あらかじめ担当者を決めておき、その報告にもとづいてディスカッションしながら日本の企業経営についての理解を深めることとする。自主的受講態度が望まれる。

成績評価の方法

平常点と筆記試験によって評価する。

教科書

伊丹敬之・加護野忠男・宮本又郎、米倉誠一郎編『日本的経営の生成と発展』(有斐閣) 1998年。

4 教職・資格講座

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博 物 館 学 講 座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。

(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏教学部・文学部
社会福祉主事 社会福祉士基礎 講座	全 学 部

4 教職・資格講座

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理 (豊 田 千代子)	217
教 育 原 理 (北 村 三 子)	217
教 育 原 理 (伊 藤 茂 樹)	218
教 育 原 理 (村 山 輝 吉)	219
教 育 原 理 (坂 本 信 昭)	219
教育心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子)	220
教育心理学〔教育方法論を含む〕(国 眼 眞理子)	220
教育心理学〔教育方法論を含む〕(角 野 善 司)	221
教育心理学〔教育方法論を含む〕(遠 藤 司)	222
青年心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子)	222
青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 田 三 夫)	223
青年心理学〔教育方法論を含む〕(小宮山 要)	224
青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 原 誠 司)	224
道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫)	225
道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫)	226
道 徳 教 育 の 研 究 (鶴 卷 武)	227
特 別 活 動 (小 川 一 郎)	227
特 別 活 動 (鶴 卷 武)	228
生 活 指 導 (遠 藤 司)	229
生 活 指 導 (佐 藤 尚 人)	230
宗 教 科 教 育 法 (小 山 一 乗)	231
国 語 科 教 育 法 (神 谷 道 倫)	232
書 道 科 教 育 法 (那 須 隆 吉)	232
英 語 科 教 育 法 (佐 藤 眞 二)	233
社会科・地理歴史科教育法 (久保田 武)	234
社会科・地理歴史科教育法 (桜 井 明 久)	234
社会科・地理歴史科教育法 (藤 木 正 国)	235
社会科・公民科教育法 (橋 爪 敏)	235
社会科・公民科教育法 (谷 敷 正 光)	236
社会科・公民科教育法 (上 條 末 夫)	237
商 業 科 教 育 法 (谷 敷 正 光)	238
職 業 科 教 育 法 (前 田 幸 一)	239
教 育 実 習 (豊 田 千代子)	239
教 育 実 習 (坂 本 信 昭)	240
教 育 実 習 (村 山 輝 吉)	240
教 育 実 習 (北 村 三 子)	241
教 育 実 習 (伊 藤 茂 樹)	241

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教 育 関 係 法 規 (広 沢 明)	242
教 育 評 価 (大 浜 幾久子)	242
教 育 法 規 研 究 (休 講)	242

教 育 哲 学	(汐 見 稔 幸)	243
教 育 情 報 学	(小 倉 康 仁)	244
教 育 臨 床 心 理 学	(牟 田 隆 郎)	244
教 育 社 会 学	(熊 谷 一 乘)	245
教 育 史	(北 村 三 子)	246
教 育 調 査	(鈴 木 規 夫)	247
芸 術 教 育	(香 川 良 成)	247
現代社会の諸問題と教育	(熊 谷 一 乘)	248
青 少 年 問 題 研 究	(讀 岐 真 佐 子)	249
宗 教 教 育	(小 山 一 乘)	250
生 涯 学 習 概 論	(豊 田 千 代 子)	(251)
視 聴 覚 教 育	(飯 森 彬 彦)	(251)
社 会 教 育 施 設	(村 山 輝 吉)	(251)
学 校 經 営 と 学 校 図 書 館	(山 田 節 子)	(251)
読 書 と 豊 かな 人 間 性	(山 田 節 子)	(251)
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	(源 昌 久)	(252)
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	(源 昌 久)	(252)
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	(山 田 節 子)	(252)

(3) 教科に関する専門科目 (必修)

【社会・地理・歴史・公民】

東 洋 思 想 史	(末 木 恭 彦)	253
美 術 史 概 説	(矢 野 陽 子)	253
民 間 信 仰 論	(谷 口 貢)	254
人 文 地 理 学 概 説	(小 池 と み 子)	254
自 然 地 理 学 概 説	(高 木 正 博)	255
自 然 地 理 学 概 説	(早 船 元 峰)	255
地 誌 学 概 説	(川 元 豊 和)	256
地 誌 学 概 説	(久 保 田 武)	257
地 誌 学 概 説	(藤 島 範 孝)	258
日 本 仏 教 史	(遠 藤 廣 昭)	258
日 本 文 化 史 I	(廣 瀬 良 弘)	259
日 本 文 化 史 II	(休 講)	
歴 史 哲 学	(麻 生 建)	259
日 本 史 概 説	(黒 田 基 樹)	260
日 本 史 概 説	(小 松 寿 治)	260
世 界 史 概 説	(井 村 行 子)	261
世 界 史 概 説	(松 本 弘)	261
社 会 学 原 論	(渡 辺 源 樹)	262
宗 教 人 類 学	(佐 々 木 宏 幹)	(263)
経 済 原 論	(浅 田 統 一 郎)	264
経 済 原 論	(天 野 光 則)	265
経 済 原 論	(小 野 俊 夫)	266
民 法 I	(大 宮 隆)	267
政 治 学 原 論	(大 塚 桂)	268
日 本 宗 教 文 化 史	(池 上 良 正)	269
民 衆 宗 教 成 立 史	(津 城 寛 文)	269
宗 教 学 概 説	(洗 建)	270
宗 教 学 概 説	(池 上 良 正)	270

宗	教	学	概	說	(津	城	寬	文)	271	
哲	学	概	說	(国	嶋	一	則)	272	272	
倫	学	概	說	(末	木	恭	彦)	272	272	
【職	理	学	概	說	(久	保	陽	一)	273	273
業】											
産	業	概	說	(前	田	幸	一)	274	274	
職	業	指	導	(山	田	勇	治)	274	274	
商	業	実	習	(前	田	幸	一)	275	275	
【商	業】										
職	業	指	導	(山	田	勇	治)	(275)	(275)	

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館 (山田節子)	279
読書と豊かな人間性 (山田節子)	279
学校図書館メディアの構成 (源昌久)	280
情報メディアの活用 (源昌久)	280
学習指導と学校図書館 (山田節子)	281

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画 (村山輝吉)	285
生涯学習概論 (豊田千代子)	286
社会教育実習 (豊田千代子)	286
社会教育実習 (村山輝吉)	287

(2) 選択必修科目

社会教育行政 (東寿隆)	288
社会教育施設 (村山輝吉)	288
成人学習論 (東寿隆)	289
女性と学習 (矢口悦子)	289
企業内教育・職業訓練 (塩川正人)	290
社会体育 I (古田潤子)	291
社会体育 II (古田潤子)	291
教育原理	(292)
教育心理学〔教育方法論を含む〕	(292)
青年心理学〔教育方法論を含む〕	(292)
社会心理学 (坪井健)	293
視聴覚教育 (飯森彬彦)	(293)
教育社会学 (熊谷一乘)	(293)
教育史 (北村三子)	(294)
教育調査 (鈴木規夫)	(294)
児童文化 (香川良成)	294
現代社会の諸問題と教育 (熊谷一乘)	(294)
青少年問題研究 (讃岐真佐子)	(295)
青少年指導演習 (平野学)	295
博物館学 I〔概論〕 (太田喜美子)	(296)
博物館学 II〔資料論〕 (竹内順一)	(296)

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

視聽覚教育(飯森彬彦)	299
考古発掘実習(飯島武次・酒井清治)	299
博物館学Ⅰ〔概論〕(太田喜美子)	300
博物館学Ⅱ〔資料論〕(竹内順一)	300
博物館学Ⅲ〔経営論・情報論〕(竹内順一)	301
博物館実習Ⅰ〔館務〕(飯島武次・酒井清治・太田喜美子)	302
博物館実習Ⅱ〔収集〕(酒井清治・太田喜美子・國見徹 久保田昌希・佐々木真・佐藤元英 所理喜夫・廣瀬良弘)	302
博物館実習Ⅲ〔見学〕(酒井清治・太田喜美子・松本信道)	303
教育原理	(303)
生涯学習概論(豊田千代子)	(303)

(2) 選択必修科目

インド仏教文化史(奈良康明)	304
中国仏教文化史(永井政之)	305
日本仏教文化史(袴谷憲昭)	305
禅美術(海老根聰郎)	306
仏教美術(山下裕二)	306
仏教民俗学(須藤寛人)	307
日本民俗学(谷口貢)	308
美術史概説(矢野陽子)	309
現代美術(矢野陽子)	309
地形学(小池一之)	310
第四紀学(鈴木毅彦)	310
考古学概説Ⅰ〔日本〕(酒井清治)	311
考古学概説Ⅱ〔外国〕(飯島武次)	311
日本文化史Ⅰ(廣瀬良弘)	312
西洋文化史Ⅰ(佐々木真)	313
日本文化史Ⅱ(休講)	
西洋文化史Ⅱ(休講)	
考古学特講Ⅰ(休講)	
考古学特講Ⅱ(高浜秀)	314
考古学特講Ⅲ(休講)	
考古学特講Ⅳ(矢野和之)	315
西域美術史(松平美和子)	316
宗教人類学(佐々木宏幹)	316

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

※社会福祉原論(伊藤秀一)	319
※社会福祉原論(船水浩行)	320

(2) 選択科目

※法学〔福祉〕(小林弘人)	321
社会福祉発達史(林千代)	321
リハビリテーション論(生川善雄)	322
※社会保障論(長尾譲治)	323
家庭福祉論(岩上真珠)	324
社会福祉計画論(川廷宗之)	325
国際社会福祉論(山本真実)	326
保健福祉論(長尾譲治)	327
※公的扶助論(伊藤秀一)	327
※障害者福祉論(生川善雄)	328
※老人福祉論(東條光雅)	329
児童福祉論(前期：山本真実)	330
(後期：許斐有)	
女性福祉論(林千代)	330
医療福祉論(春見静子)	331
※地域福祉論(渡辺一成)	332
※社会学〔福祉〕(橋爪敏)	333
※心理学〔福祉〕(高橋良博)	333

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育原理	とよ た ちよ こ 豊田千代子	教職2必 (禅・仏教)	4

講義のねらい

自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』（福村出版）
大学教育実践研究会編『教育を考える』（相川書房）

その他

自分たちで考えていくことを大切にしたいので、授業は、グループでの話しあいを中心に進める。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育原理	きた むら みつ こ 北村三子	教職2必 (国文・英文・ 社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

第二次大戦後、民主主義と科学の精神を掲げて出発した日本の教育学は、今日の教育をめぐる様々な問題に十分に対応できなくなっている。また、誰もが環境問題に無関心ではいられない今日において、教育学も、それにふさわしい新たな人間観や、自然や自分や他者との関わりのある方を模索しなければならない。この授業では、教育の新しい方向を見いだすための一つの試みとして、(日本の教育学の源流である)西洋近代の教育学にとっては傍流であった、ゲーテやシュタイナーに焦点をあて、その可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

R シュタイナーは、近代教育学の中では極めて特異な存在であった。しかし、近代の矛盾が顕在化してきた今日では、シュタイナー学校への支持の高まりが見られるばかりでなく、欧米の公教育にも大きな影響を与え始めている。また、シュタイナーは、ゲーテの認識論を基礎にその思想を築いている。近代文明や近代科学によって見失われてきた、人間の身体性や全体性の追求がそこに見い出せるであろう。授業では、シュタイナーの著作をテキストにその教育思想や教育方法を検討するが、今日の子どもや若者をめぐる問題も、それと関連させて取り扱いたい。

履修上の留意点

多人数のためゼミ形式は取れないが、共に感じたり、考えたりできる時間にしたい。

成績評価の方法

年度末にレポート(4,000字程度)提出。また、授業時に資料についてのコメントを何回か求めるが、それも出席点として加算する。

教科書

R シュタイナー『教育芸術1 方法論と教授法』(筑摩書房)3,200円

参考書等

高橋巖『シュタイナー教育入門』(角川選書)子安美知子『ミュンヘンの小学生』(中公新書)同『ミュンヘンの中学生』(朝日文庫)など。詳しくは、教場で指示。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 原 理	伊 藤 茂 樹 <small>いとう しげき</small>	教 職 2 必 (地理・歴史・法律・政治)	4

講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なものとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知るということには受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対して的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・現代の教育問題
- ・「学歴社会」とは
- ・現代の子ども、青少年
- ・学校という場
- ・教育改革の現在
- ・教育学という学問

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教 職 2 必 (経 済)	4

講義のねらい

教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、テキストにそい、下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた社会的視野から攻究できる能力を育てることをめざしている。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭・作文）とその理論的な整理の作業
- 第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題について、テキストその他の資料を参考にしながら、考察を深める作業
- 第3ステップ 夏休み中、関連する資料の読みとりとそのレポート作成
- 第4ステップ レポートを基に、日本の教育の現状についてその課題を明らかにし、望ましい改革の方向を探究する作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

教科書

堀尾輝久『教育入門』（岩波新書）480円

参考書等

『下村湖人全書』全10巻。
その他についてはそのつど紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育原理	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (商 ・ 経 営)	4

講義のねらい

教育は、一面においては理論的研究を必要とするが、それだけに止まっていることができない。他面において、実際に被教育者をいかにして教育していくか、という実践的・技術的研究が必要とされる。したがって教育は、狭い専門領域に立てこもっているわけにはいかず、人間生活の万般に関係をもつことになる。

教育原理は、これまでの教育学の研究成果をとり入れることはもちろんであるが、それとともに、それらの成果を、どのように実践に生かして行くかをも探究する。教育学は教育を対象として理論的研究を進めるものであるが、教育原理は、教育に従事しようとする人たちに教育についての理解を深め、実際に教育にあたる場合の技術や心得を培うことについても検討しなければならない。

履修上の留意点

講義と並行して、参考書欄に記した②「きょういく VISUAL NOTE」を、自学自習のテキストとして活用し、各自で作業（ノート）を完成させ、完了次第提出してもらいます。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、「きょういく VISUAL NOTE」及び年度末のテストなどによって、総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円

参考書等

田村皖司他著『きょういく VISUAL NOTE』（エイデル研究所）1,800円

その他

必要な資料を適宜配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義のねらい	今世紀の心理学研究の流れをたどりながら、心理学の諸分野で明らかにされてきたことが、今日における日本の教育の諸側面と、どのように関わるのかを考えることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	基礎的な心理学実験や、性格テストなどの実習、さらにパソコンによる教育統計の入門など、できる限り実習の機会を多くとり、心理学の研究方法を知ると同時に、その背景にある理論について理解を深めていきたい。
成績評価の方法	年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。
参考書等	参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。
そ の 他	実習の他、ビデオ教材等も活用する。それらを通して、教育方法についても考えていきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育心理学 (教育方法論を含む)	こく がん ま り こ 国 眼 眞 理 子	教 職 2 必 (国文・英米文・地理・歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい	生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を学ぶ。
講義の内容・授業スケジュール	前半は教科書を用いて、心理学の基礎的な考え方を習得する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. われわれの世界の捉え方 (知覚) 2. 記憶や学習のメカニズム 3. 発達のメカニズムとその可能性 4. パーソナリティとは何か、その捉え方 後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「青年期」と、その心理的な課題 (アイデンティティ形成) 2. 自己のアイデンティティを探る 3. 自己意識の発達 4. 自己の発達と対人関係 (親子関係、友人関係、その他) 5. 進路選択とアイデンティティ形成 6. サポーターとしての教師の役割 (「共感的理解」とは何か) 7. カウンセリングとは何か 8. コミュニケーション (非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)
成績評価の方法	指定図書5冊の本の中から、2冊を選び、レポート提出。 前期終了時に小テストを実施。 後期終了時にレポートもしくは試験を実施。(受講者数による)
教 科 書	磯貝芳郎・下山剛編『心理学』(鷹書房) 1996
参考書等	<ol style="list-style-type: none"> ① 河合隼雄『カウンセリングを考える(上)』(創元社) 1995 ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』(創元社) 1988 ③ 清水将之『思春期のころ』(日本放送出版会) 1996

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 心 理 学 (教 育 方 法 論 を 含 む)	すみの 角 野 善 司	教 職 2 必 (地 理 ・ 歴 史 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理 ・ 経 済 ・ 商 ・ 法 律 ・ 政 治 ・ 経 営)	4

講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、心理学的な観点から考えようとするものです。

この講義で学び、そして考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと思います。

講義の内容・ 授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。

- ① 発達：人間の生涯にわたる発達について
- ② 教授－学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について
- ③ 測定・評価：教育場面における評価の目的やあり方について

履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

成績評価の方法

出席点1割、平常課題の提出状況1割、前期・後期末のテスト3割、夏季・冬期休暇時のレポート5割の配点で、評価します。

教 科 書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』（有斐閣）
この他、講義の進行に合わせ、適時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職2必 (法律・政治)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なものの方の見方とはどのようなものであるのかを考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・
授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたかを見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れつつ、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書等

参考書等については授業中に随時紹介する。

その他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
青年心理学 (教育方法論を含む)	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	教職2必 (禅・仏教・国文・英米文)	4

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに青年期に限らず、人間の発達とは何か、について考える。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を検討していく。また、性格テストなどの実習や、基礎的な研究実習も可能な限り行っていきたい。

履修上の留意点

実習の機会を活かすためにも、毎回の講義への出席を大切にしてほしい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参考書等

参考資料については随時、準備し指示する。また、ビデオ教材なども活用していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青 年 心 理 学 (教 育 方 法 論 を 含 む)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	教 職 2 必 (国文・英米文・地理・ 歴史・社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

中学生になる頃から急速な体の成長や生理的変化を迎える。この第二性徴をもって青年期が始まる。身体的な変化は内面的な変化を引き起こす訳だが、必ずしも良い方向への変化ばかりではなく悪くなることもある。良い方向への変化にしても、その経過は必ずしも順調にいくとは限らない。ともかく問題の多い時期である。そのことは新聞やテレビの報道を見ていてもよく分る。こういった青年期の特徴を理解するのが、この講義の第一の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 青年（期）について（発達段階、ライフサイクルの中での青年、歴史・文化的所産）
- ② 体と心の発達（第二性徴、思春期危機）
- ③ 自己意識（自我～自己同一性）
- ④ 親子関係～対人関係（愛着、人見知り等）
- ⑤ 人格・性格（代表的な理論、自己愛）
- ⑥ 友達・仲間（近隣、学校、社会）
- ⑦ 若者文化（移り変わり、流行、風俗）
- ⑧ 性・恋愛（性意識・性行動、恋愛の発達）
- ⑨ 逸脱行動（非行・犯罪、道徳意識）
- ⑩ 心の病気（種類と症状、病理、背景）
- ⑪ 不登校（病理、背景要因、対処法）

大体以上の様なスケジュールで前期が終わる。後期はトピックや事件等をテーマにしながら講義をしたり学生に色々書いてもらったりしている。

成績評価の方法

- ① 前期末と後期末に筆記試験を行なう。
- ② 夏休みに別途課題が出る。
- ③ 不定期に小テストがある。特に後期に小論文テストが数回ある。
- ④ 以上を総合して最終的な評価が出る。

教 科 書

特に指定されたものはない。講義の時にプリント・資料が配布される。
文献は適宜紹介する。
時折体験的な心理テスト等を行なったりする（評価に際して若干考慮される）。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	こみやま かなめ 小宮山 要	教職 2 必 (地理・歴史・ 社会・福祉・心理)	4

講義のねらい

青年期にある学生自身にとって、青年期をどう生きるかについて考えると同時に、青年期にある中・高校生を正しく理解してよき教育を実践できる能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 青年期は人間関係の拡大と深化の時期であり、その良否は精神的健康にも影響する。そこで、好ましい人間関係の形成に必要な理論や、ルール及びスキル等について幅広く学習する。
- 2) いじめ、登校拒否、非行、スチューデント・アパシー等の青年期に見られる病理現象について、その発生のメカニズムと対応について学習する。
- 3) 青年期の中心的テーマである恋愛と結婚について学習する。

履修上の留意点

予定された内容を終わらせるためには、講義はかなりのスピードで行われるので、自分で積極的にノートをとる習慣を身につけて欲しい。

成績評価の方法

通常の授業の中で行う小テストとレポート及び授業に対する態度等を総合して評価する。

教科書

小宮山 要著『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書)

参考書等

授業で適宜指示する。

教職・資格講座

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青年心理学 (教育方法論を含む)	かわはら せい し 川原 誠 司	教職 2 必 (経済・商・法律・ 政治・経営)	4

講義のねらい

教職科目ですので、細かな心理学的理論の伝達を主眼に置くことはしません。「教師としてのあり方」「学校現場で教師の受けている種々のストレス」「具体的な学級経営方法」といった実際の教育場面での問題に対して、心理学的な見方や手法がどのように活かされるのかという点を理解してもらうことを目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容やスケジュールについては、受講者の数や受講者の動機などによって変わりますので、その状況を把握した上で、受講生に伝えます。

履修上の留意点

どのような学生がどの程度の人数受講するのかということ、私は最初の講義時間に把握したいと考えていますので、受講を希望する学生はそのつもりで行動して下さい。

成績評価の方法

受講人数や受講態度によって変わりますので、講義を進めていく中で受講生に伝えます。

教科書・
参考書等

講義を進めていく中で、必要なものを適宜紹介していきます。

そ の 他

授業の一部では、グループで検討する課題を出題したり、学級経営に関する英語の文献をグループで要約して発表してもらうことを予定しています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	か とう ゆき お 加 藤 幸 夫	教 職 2 ・ 3 必 (地 理 ・ 歴 史 ・ 経 済 ・ 商 ・ 法 律 ・ 政 治 ・ 経 営)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史的変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 現代社会と道徳教育
- II 道徳および道徳教育の本質
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校教育における道徳教育
- VI 道徳教育をめぐる諸問題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を想い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野目直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (後 期)	かとうゆきお 加藤幸夫	教 職 2 ・ 3 必 (禅 ・ 仏教 ・ 国文 ・ 英米文 社会 ・ 福 祉 ・ 心 理)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 人間形成と道徳教育
- II 道徳教育の歴史
- III 現代社会と道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校における道徳教育
- VI 現代道徳教育の課題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

遠藤昭彦・鈴木博雄共編『現代道徳教育の課題』（振学出版）2,000円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期) (後 期)	つる まき 鶴 巻 武	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

今日の学校教育は、いじめ不登校をはじめとして、学校の在り方にかかわる様々な問題に直面し、生徒に生きる力を育む教師の力量が期待されている。この時間では、小・中学校においては、教育課程の一領域として、また、高校においては学校の教育計画の一環として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、教師としての実践的な指導力を身につけるために道徳の年間指導計画や1単位時間の指導計画(道徳学習指導案)などについて、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・授業スケジュール

①道徳教育の基本的な在り方 ②道徳教育の目標と内容 ③道徳の時間の指導内容 ④主として自分自身に関する事 ⑤主として他の人とのかかわりに関すること ⑥主として自然や崇高なもののかかわりに関すること ⑦主として集団や社会とのかかわりに関すること ⑧道徳の時間の指導計画とその作成 ⑨道徳の時間の指導方法 ⑩道徳教育における評価の在り方 ⑪学級経営と道徳教育 ⑫学校、家庭、社会における道徳教育と相互の連携

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、特に道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

リポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校解説書道徳編』(新学習指導要領告示後発刊予定)

参考書等

教員養成基礎教養研究会編『新訂道徳教育の研究』(教育出版) 1,800円
教師養成研究会編『道徳教育の研究』新訂版(学芸図書株式会社) 1,000円

その他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	お 小 川 い ち ろ う 小 川 一 郎	教 職 2 ・ 3 必	2

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。すべての教員が学級活動(ホームルーム活動)を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力を身につけることがねらいとなる。

講義の内容・授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教科書

小川一郎、中野直明編著『現代の特別活動』(酒井書店) 2,000円

参考書等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』(清水書院) 1,500円

その他

講義を主に、随時討議などを行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (前 期) (後 期)	つる 鶴 まき 巻 たけし 武	教職 2・3 必	2

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は小・中・高等学校の教育課程の一領域であり、集団活動を通じた教育活動により、集団の一員としての自覚を深め、児童・生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級（ホームルーム）や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①生きる力の育成を目指す教育改革と特別活動の役割 ②特別活動の教育的意義と目標 ③特別活動の特質と内容相互の関連 ④特別活動の指導計画の作成と指導の工夫 ⑤学級活動の指導とガイダンスの充実 ⑥生徒会活動の特質とその活性化 ⑦学校行事の特質と指導 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と学級経営 ⑩学級活動と教育相談 ⑪進路指導の充実 ⑫特別活動の指導と評価 ⑬特別活動と総合学習との関連

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特に特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、教師としての識見を高め、実践的な指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教 科 書

- ① 文部省『中学校解説書特別活動編』（新学習指導要領告示後発刊予定）
- ② 高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』（教育出版）1,900円

参 考 書 等

宇留田敬一著『特別活動論』（第一法規）1,800円

そ の 他

講義及び年間指導計画、指導案の作成

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 活 指 導 (前 期) (後 期)	えん どう 遠 藤 つかさ 司	教職 2・3 必	2

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとする人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生活指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

「学校における問題行動とは何か」、「不登校問題はどのような視点から考えるべきか」などの問いについて考えることを通して、学校の中で適応的に生きることができない人に対して、教師としてどのような態度でのぞむかを考える。特に、現在の学校において様々な意味において不適応状態となっている人たちに対して、そのような状態にある生徒に対して、自分はどのような態度でのぞむかを考えることを通して、最終的には自分自身の生活指導観を問いなおしていくことにつなげていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

参 考 書 等

参考書等については授業中随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

講義中心になることは否めないが、様々な問いを呈示し、それらに対して自らの考えに基づいて書いて答えるという機会をできるだけ多く作りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生活指導 (前期) (後期)	佐藤 尚人	教職2・3必	2

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにいくよう指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解「非行」
- 10 X こころの病・不応「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはしない。)

成績評価の方法

原則として定期の筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教科書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参考書等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) 2,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 科 教 育 法	こ 山 一 乗 こ やま かず のり	教 職 3 必 (禪 ・ 仏 教)	4

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論——分かりやすい仏教——』をテキストにして、原則として模擬授業（50分）を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらおう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点などにより評価する。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』（宣協社）2,940円
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』（曹洞宗宗務庁）800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）1,600円
 『教育小六法』（学陽書房）2,200円

参考書等

井上順孝監修『宗教教育資料集』（すずき出版）3,900円
 『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985年
 その他適宜紹介する。

その他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業（演習）を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をすることで視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国語科教育法	かみ や みち のり 神 谷 道 倫	教 職 3 必 (国 文)	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新版中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
書道科教育法	な す たか よし 那 須 隆 吉	教 職 3 必 (国 文)	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英語科教育法	き とう しん じ 佐 藤 真 二	教職3必 (英米文)	4

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに、実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- 1) 英語科教育の目標
- 2) 主な教授法 (文法訳読式教授法、直接教授法、オーラル・メソッド、グレイデッド・ダイレクト・メソッド、オーラル・アプローチ、認知学習理論、ヒューマンスティック・アプローチ、コミュニケーション・アプローチ)
- 3) 言語材料と指導 (音声、文字、文法、語彙)
- 4) 言語活動 (聞く、話す、読む、書く)
- 5) 授業の展開 (授業計画、授業の構成、指導案、中学校の授業、高等学校の授業)
- 6) 指導形態 (一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、学習習熟度別指導、ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチング)
- 7) 評価とテスト
- 8) 教具・視聴覚機器 (ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、OHP、テープ・レコーダー、LL、VTR など)
- 9) 教師と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

試験、レポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

教科書

塩沢利雄他著『新英語科教育の展開』(英潮社)

参考書等

教場において指示する。

その他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し、教えることに馴染んで欲しいと願う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	くぼ た 久保田 たくし 武	教職 3 必	4

講義のねらい	中学社会科、高校地歴科を教えるにあたって必要な基礎的知識・技法の修得 教科の目標（存在理由）と暗記科目にならない教授内容構成と教授法の考察
講義の内容・ 授業スケジュール	<p>◆講義の内容 毎回教授者による具体的な授業事例を通じて生徒の興味関心と学力を増す教授内容構成とその指導法を示す。 学習指導要領の変遷とその背景 生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法 希望する学生に対しレポートによる指導案の作成作業とその内容指導 教育現場での体験談から具体的な学習指導法へのヒントを示す。</p> <p>◆授業スケジュール 前期は講義（教授者による授業例）と、関連事項の質疑・実習・課題作成等 後期はそれに加え夏季休業中に教案作成課題を提出した学生の中から発表者を選んで模擬授業の機会を設ける。</p>
履修上の留意点	授業の終わりに毎回授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求める（出欠調査に代える）。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。
成績評価の方法	定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）と実績（発表等）等を総合して評価。原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない。
教科書	使用しない。
参考書等	授業の時にそのつど紹介する。但し、地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等は、この際揃えたほうがよい。とりあえず地図帳、年表と統計資料は初回から持参のこと。
その他	毎授業時間の前半は講義、後半は視聴覚学習、質疑、作業、実習を原則とする。 OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を多用し講義内容の理解と機材の利用法を示す。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	教職 3 必	4

講義のねらい	中学校社会科、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理分野、地理A、Bを例に概説する。
講義の内容・ 授業スケジュール	<p>おおよその内容は、以下の通りである。</p> <p>①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫 ④指導案の作成 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事</p>
履修上の留意点	各自マイクロティーチングを試み、個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みってもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による欠席以外の欠席については厳しく取り扱われる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。 中学校社会科地理分野と地理歴史科の科目・地理A、Bを中心題材とするので注意すること。
成績評価の方法	出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など 70点 夏休みレポート 10点 期末試験 20点
教科書	桜井明久『地理教育学入門』（古今書院）1999（予定）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・地理歴史科教育法	藤 木 正 国	教 職 3 必	4

講義のねらい

中学校社会科（特に歴史的分野）・高等学校地歴科（特に日本史）の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は講義を中心とする。

- ① 明治以降日本教育制度の変遷
- ② 社会科成立の事情とその理念
- ③ 学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ
- ④ 学習指導計画と指導案の作成
- ⑤ 評価の考え方とその方法
- ⑥ 社会科をめぐる諸問題の考察

後期はグループ別に模擬授業を実施する。

履修上の留意点

受講する以上は、教員をまじし努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。

成績評価の方法

年間を通じての出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参考書等

文部省学習指導要領、中・高教科書（必要に応じて授業時に紹介する）。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科・公民科教育法	橋 爪 敏	教 職 3 必	4

講義のねらい

この授業は、社会科・公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能な形式で行ないたい。したがって、受講学生数によって、その方法は変わらざる得ない少数（15名位迄）の場合は社会科・公民科に関わる文献講読を主としたい。15名以上の受講生の場合は、学生自身の自主研究の発表を主にしたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

前期・後期のレポート提出ならびに普段の研究報告、授業参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

文献講読の場合は、授業開始後に指示する。

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科・公民科教育法	や しき ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。第6次の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か社会教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してみることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学学習指導案の意義と作成
9. ビデオによる社会科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模範授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱いと平成10年12月告示の中学校学習指導要領
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱いと平成11年3月告示の高等学校学習指導要領
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

参 考 書 等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科・公民科教育法	かみ じょう すえ お 上 條 末 夫	教 職 3 必	4

講義のねらい

社会科・公民科は民主主義国家社会の一員としての自覚と実践行動ができる人間を育成する上に、欠くことのできない教科である。したがって、生徒が民主主義を十分理解し、かつそれを実践することができるような具体的な指針をあたえる教育をすることが必要である。その方法論および技能が身につくようにすることが、この講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校教育とはなにか
2. 学校教育の制度と目的
3. 学校教育法と社会科教育
4. 社会化の過程と学校教育
5. 学校環境と教員の影響力
6. 発達心理学にみる教育レベル
7. 理解せしめるための方法論 ①心的アプローチ
8. 理解せしめるための方法論 ②物的アプローチ
9. 表現力の養成 ①記号としての言語
10. 表現力の養成 ②記号としての文字
11. 表現力の養成 ③記号としての数字
12. 表現力の養成 ④記号としての象徴
13. 民主主義の実践 ①アイスブレイキング
14. 民主主義の実践 ②参加と有効感覚
15. 民主主義の実践 ③コミュニケーション効果
16. 民主主義の実践 ④リーダーシップ論
17. 情熱と持続力

履修上の留意点

講義と演習の組み合わせの授業であるから必ず出席すること。

成績評価の方法

出席および演習態度によって評価する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

プリントを配付する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経済・商・経営)	4

講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

高等学校商業科の『教科書』、『高等学校学習指導要領』

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業科教育法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職3必 (経済・商)	4

講義のねらい	<p>基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。</p> <p>① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。</p> <p>② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。</p> <p>③ 職業教育について考えていく。</p> <p>①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。</p>
履修上の留意点	自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。
成績評価の方法	筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。
教科書	『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。
参考書等	中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。
その他	授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	教職4必 (禅・仏教・社会・福祉・心理)	3

講義のねらい	2週間の教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	<p>事前指導 — ・実習の心がまえ ・生徒指導について ・教科指導について ・指導案作成 ・模擬授業</p> <p>訪問指導 — ・研究授業訪問指導</p> <p>事後指導 — ・授業実習の検討</p>
成績評価の方法	実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。
教科書	教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考書等	適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 4 必 (国文・法律・政治・経営)	3

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくすることよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導(教育)も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成(提出)、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か-どうあるべきか-について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告(口頭報告)及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント(感想)、④年度末試験(または、課題レポート)によって、総合的に評価します。なお、①~④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』(宣協社)1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』(学文社)1,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教 職 4 必 (英米文)	3

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項を取りあげる。

- 教育実習の意義と心がまえ
- 学習指導について
- 生徒指導について
- 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	きたむらみつこ 北村三子	教 職 4 必 (地理・経済・商)	3

講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに増えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、一般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合があるので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習	いとうしげき 伊藤茂樹	教 職 4 必 (歴 史)	3

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業の中で適宜指示・紹介する。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育関係法規	ひろさわあきら 広 沢 明	教職2選	4

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 校則(1)——丸刈訴訟
2. 校則(2)——バイク裁判
3. 校則(3)——生徒会
4. 懲戒(1)——退学・停学
5. 懲戒(2)——体罰・精神罰
6. 教育情報(1)——家庭環境調査書
7. 教育情報(2)——内申書・指導要録
8. 教育と宗教(1)——日曜日訴訟
9. 教育と宗教(2)——エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1)——検定の事実
12. 教科書裁判(2)——法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1)——民族教育
15. 教育と平等(2)——性差別
16. 教育と平等(3)——障害児
17. 義務教育（登校拒否を含む）
18. いじめ

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教科書

使用しない。

参考書等

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育評価	おおはまきくこ 大 浜 幾 久 子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 哲 学	しお み とし ゆき 汐 見 稔 幸	教職2・3・4選	4

講義のねらい

「教育哲学」と銘うっているが、形而上学的な哲学論議をしながら教育を考えるというわけではない。現場に出ようとしている人、教育について一度じっくりと考えてみたいと思っている人などを対象に、現実の教育の諸問題を考察すること窓口にして、教育とは何か、どのような可能性をもつ営みなのか、ということの原点に戻って考えようという授業である。具体的なテーマ、テキストなどは参加者の希望をもとにはじめの授業で決める。

講義の内容・
授業スケジュール

例年4年生の受講者が多いので、教育実習（6月）教育採用試験（7～8月）、卒論しめきり（12月）などの前後には授業をしないで、かわって何回かの合宿ないし集中形式で行なう予定。

2002年より、学校教育の本格的な改革が始まるが、この改革によって、現代の学校が抱えている諸問題が解決できるのかということが、今年度の授業の通奏低音となろう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育情報学	小倉康仁	教職2・3・4選	4

講義のねらい

- a. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態について、教育学の視点から理論的に考察する。
 b. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行い、講義と実習を適宜組み合わせる。前期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 コンピュータの基礎知識（講義）、パソコンの基本操作（実習）、ワープロソフトの基本操作（実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、インターネットの基礎知識（講義）、初歩的なネットサーフィン（実習）
 後期の授業内容としては、以下のものを予定している。
 教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトの選択・活用方法について（講義と実習）、コンピュータネットワーク（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育（講義）、インターネット（WWW）上での情報検索の方法（実習）、HTMLによるホームページ作成の実際（実習）

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点（出欠、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題作品）の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリントを利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつと授業時間内で指示する。

その他

使用するパソコンは Macintosh のみを用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育臨床心理学	牟田隆郎	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 社 会 学	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

教育が行なわれるために形成されるさまざまな社会的な関係を研究して教育上の問題の解決に寄与し、教育の充実、向上をめざす学問—これが教育社会学である。講義では、そういう教育社会学の研究の成果をもとに、人間を成長、発達させるいとなみ—教育は、どのような社会的な関係のもとに行なわれているのか、教育は社会とどのような関係で結ばれているのか、その関係のなかでどのような問題が発生するのか、これらの問題はどのように解決されてきたか、されようとしているか、について現代日本の事例を取り上げ、明らかにしようと思う。

どんな人間をいかに育成するか、ということは、いつの時代でも重要な課題であった。どのような社会も、その存続と発展のために未来になう後継の世代を教育する課題に真剣に取り組まなければならない。この課題は、人類にとって普遍的なものであるが、実は、文明が高度に発展すればするほど、その重大性が増してきていることに注目しなければならない。現在、わが国で、学校に直接関係して生活している人々—児童生徒・学生、教員・事務職員の数は、全人口の四分の一に達している。近年、教育のために支出される費用は、国民所得の8%前後にのぼっている。こうした数字は、今日の社会で教育が占める位置の大きさ、意味の重さをよく示している。ところがその教育をめぐる不登校・校内暴力など困った問題が多発している。今日の教育問題をどう解決すればよいか、という問題意識のもとに戦後日本の教育と社会の関係を主な事例として講義をすすめた。

講義の内容・授業スケジュール

I部 [教育の展開と社会の条件]

- (1) 教育の成立と展開における政治の要因：社会現象としての教育、教育の政治性と政治的教育性、教育への政治にインパクト、終戦と教育改革、冷戦構造と教育の混乱、教育をめぐるイデオロギーの対立、冷戦構造の崩壊と教育改革をめぐる動向 政治体制と教育、教育の資源配分と政治の役割 (4～5月)
- (2) 教育の展開と経済の関係：教育の条件としての経済、経済の条件としての教育、高度経済成長と教育、人材開発と教育投資、教育と能力主義、経済の自由化と教育の自由化、経済と教育の機会 (6月)
- (3) 教育と地域社会：教育の場としての地域社会、教育の地域性と地域差、地域社会と子供・学校、過疎・過密の教育問題、地域社会の変動と子供の発達 (7月)
- (4) 教育と文化の動向：教育の内容としての文化、伝統文化のインパクト、マスメディアの影響、映像文化の時代と教育、大衆化文化と教育、物質的価値の支配と教育 (9月)

II部 [現代社会の学校の病理と教育改革]

- (1) 学校化社会の現状：学校人口、就学率・進学率、教育費の問題、ライフサイクルと学校(10月)
- (2) 学校化社会の病理：子供の問題行動、学歴主義の支配、差別・選別・レイバリング、画一化・管理と競争、少子化にともなう問題、脱学校論のインパクト (11月)
- (3) 教育改革の視点と動向：改革の視点—子供の人権(権利)・学習権・個性重視・人間化等、“第三の教育改革”、1980年代以降の教育改革の動向 (12、1月)

履修上の留意点

出席を重視、教育関係の分野に進出を希望する者を対象とする。

成績評価の方法

年度末の試験の成績と出席状況による。

参考書等

熊谷一乗『子どもの発達と社会』(東信堂)、熊谷一乗『現代教育制度論』(学文社)

その他

授業中に指示

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 史	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

90年代半ばから小学校の「学級崩壊」が問題化している。原因は複合的だが、行動や反応の幼児的化が指摘されることも多い。小学生ばかりでなく、中学・高校生のいわゆる問題行動にも、幼い子供時代の過ごし方に問題があるように見えるケースも多い。だが、どのような幼年期の体験が人間の心の成長にとって必要なのだろうか。この授業では、自伝的な作品の中で幼年期がどのように捉えられているかを歴史的な視点を入れて検討したい。また、幼年期の体験がその後の人生にとってどのような意味を持つのかも考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような文献を検討してゆく。
 W. ベンヤミン『ベルリンの幼年時代』ベンヤミン著作集12（晶文社）
 中勘助『銀の匙』（岩波文庫）
 大岡昇平『幼年』『少年』（講談社文芸文庫）他

履修上の留意点

教育史のいわゆる「教科書」を授業で扱うことはないが、文献などに関して個別の相談には応じたい。授業はゼミ形式で行い、参加者の意見交換を大切にしたい。

成績評価の方法

平常点。ただし、発表回数が少ない場合には、レポート提出もありうる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	教職2・3・4選	4

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教 科 書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参 考 書 等

特に指定しない。

そ の 他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
芸 術 教 育	か がわ よし しげ 香 川 良 成	教職2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験

参 考 書 等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）・『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』（大月書店）

そ の 他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するということも行いたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

わたしたちが生をいとむ現代の社会は、解決の難しい問題に充ちている。科学技術の進歩に支えられた産業の高度な発展は、人々に豊かさと便利さという明るい「光」を与える一方で、人間疎外の進行・環境問題・エネルギー問題など厄介な暗い「陰」を落している。いま、教育の在り方は、この「光」と「陰」の影響を受けて激しく揺れ動き、変革を迫られている。教育も社会の「光」と「陰」のもとで問題に充ちているのである。社会の諸問題を解決するためにはどのような教育が必要となるのか。また望ましい教育のために社会は、どのようにあるべきなのか、何をなすべきなのか-講義は、以上の問題にこたえることをねらいとして行われる。

講義の内容・授業スケジュール

- 以上の問題意識のもとに、授業は次ぎの小テーマにしたがって行われる。
- (1) 軍事占領下の社会的諸問題と教育改革（終戦にともなう社会諸問題と教育、第1次米国教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法の成立など）- 4～5月
 - (2) 「冷戦」の激化にともなう社会的変化と「戦後教育」の転換（イデオロギーの対立・主権の回復と教育、「55年体制」の確立と教育の緊張、教育集権化の動向など）- 5～6月
 - (3) 高度経済成長にともなう諸問題と教育（経済のための“人づくり”、教育投資論の影響、豊かさのなかの非行問題、「期待される人間像」など）- 6～7月
 - (4) 高度経済成長以後の社会的変化-地域社会の変動、映像文化の浸透、中間的大衆層の形成と支配-と教育改革の提案（情報化と“第三の教育改革”など）- 9～10月
 - (5) 社会的変化にともなう生涯教育論の登場（P.ラングランの生涯教育論、社会教育審議会の答申など）- 10～11月
 - (6) 自由化の波と臨時教育審議会（新自由主義・保守主義と1980年代以降の教育政策、戦後日本の総決算と自由化、「臨教審」の設置など）- 11月
 - (7) 冷戦・55年体制の崩壊と「臨教審」以後の教育政策（変化する子供、文部省と日教組とのパートナーシップ、連立政権下の教育政策、第14・15・16期中教審答申と21世紀への教育改革など）- 12～1月

成績評価の方法

学年末の試験と出席状態による。

教 科 書

使用せず。

参 考 書 等

熊谷『現代教育制度論』（学文社）等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年問題研究	さぬきまさこ 讀 岐 真 佐 子	教職2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教科書

氏原寛・東山絃久編『発達とカウンセリング』
別冊『発達』第18巻（ミネルヴァ書房）2,500円

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法蔵館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（楡出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 教 育	こ やま かず のり 小 山 一 乗	教職2・3・4選	4

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(legal mind)、そこに看取れるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができるのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先人観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と指定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、(religious education)と(education about religion)との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何〜何事、what〜whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童話、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円

小中高各『学習指導要領』各230円 250円 370円

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年

土持ゲーリー法一著『米国外教育使節団の研究』(玉川大学出版部) 9,785円

井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円

杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)

参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. *MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION*. (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論	とよ た ち よ こ 豊 田 千代子	教職2・3・4選	4

(P.286) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視聴覚教育	い い も り あ き ひ こ 飯 森 彬 彦	教職2・3・4選	4

(P.299) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	む ら や ま て る よ し 村 山 輝 吉	教職2・3・4選	4

(P.288) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校経営と学校図書館 (前期)	や ま た せ つ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.279) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	や ま た せ つ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

(P.279) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しろう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	教職2・3・4選	2

(P.280) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しろう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	教職2・3・4選	2

(P.280) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)(後期)	<small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

(P.281) 参照

(3) 教科に関する専門科目（必修）

【社会・地理・歴史・公民】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東 洋 思 想 史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教 職 教 科	4

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購読する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート（年1回以上）
2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教 科 書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参 考 書 等

適宜授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
美 術 史 概 説	や の よう こ 矢 野 陽 子	教 職 教 科	4

講義のねらい

美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるのかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。

講義の内容・
授業スケジュール

研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。

美術史の起源
西洋美術史学の方法と歴史
原作、複製、文献
描写と解釈

合わせて古代から現代への流れを概観していきます。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。

参 考 書 等

マーク・ロスキル著、中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社）
マルシア・ポイント著、木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）
高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）
このほか適宜、授業中に参考文献を紹介します。

そ の 他

スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行ないます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
民間信仰論	谷口 貢	教職教科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教科書

とくに使用しない

参考書等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
人文地理学概説	小池 とみ子	教職教科	4

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論・地域論などについて検討する。次に現代世界の概観をふまえた上で、人種・民族と国家、人口問題、産業立地と地域の変容などを柱として、世界各地が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら、概説を試みる。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
自然地理学概説	たかぎまさひろ 高木正博	教職教科	4

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・授業スケジュール

次の諸点について講ずる。
1) 水循環・水収支など水文学の基礎について
2) 河川や地下水の水量や水質など特性と地域とのかかわりについて
3) 河川地形と水災害、利水・自然環境など流域の自然と人々の関係について
4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地形図や地図帳などが必要である。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間にプリントを配布する。

参考書等

地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』（東海大学出版会）
その他随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
自然地理学概説	はやふねげんほう 早船元峰	教職教科	4

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をふまえて、主に環境地誌学的立場から論じる。

講義の内容・授業スケジュール

- ・関東平野の地形発達史
- ・北海道本部の気候地形
- ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全
- ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり
- ・その他

履修上の留意点

国土地理院の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・帯状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレース紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。

成績評価の方法

課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。

参考書等

水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）
脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』（古今書院）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわもととよかず 川元豊和	教 職 教 科	4

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	くぼた たいし 久保田 武	教 職 教 科	4

講義のねらい

一般教養として広く世界の諸地域の特色と課題について基礎的知識の修得と理解
高校地歴科、中学校社会科の授業で世界の諸地域を扱う際に必要な基礎知識の修得
暗記科目にせず世界の諸地域に対し生徒の興味関心を増す教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
世界の諸地域の地域学習（地理・歴史・その他の内容）。大地域は一通り学習。中小地域と国は範例学習的に選択
教授者による毎回の授業、夏季休業中学生による地域紹介作成課題とその内容指導、生徒の学習評価法、教授者の自己評価法、情報源になる資料紹介、その他
- ◆授業スケジュール
前期は講義（教授者による授業例）と関連事項の質疑・実習・課題作成等
後期はそれに加え夏季休業中の課題「学生による地域学習案作成」の添削指導

履修上の留意点

毎回授業の終わりに授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求め
出欠調査に代える。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）等を総合して評価
原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない

教 科 書

使用しない

参 考 書 等

授業の時に紹介する。但し、地理教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料等は、この際揃えた方がよい。とりあえず地図帳と統計資料、歴史年表は初回から持参のこと

そ の 他

毎授業時間の前半は講義、後半は質疑、実習、課題作成等を原則とする
OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を講義内容理解と補足のため頻繁に使用する

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地誌学概説	ふじしまのり たが 藤 島 範 孝	教職教科	4

講義のねらい

アジアには30億の人が居住し、古代文明を生み出したが、その後欧米至上主義によって旧態依然といわれる。更に民族独立と社会主義崩壊、人口爆発と飢餓、核汚染と地球環境の破壊など多くの問題をかかえてきた。この実情をアジアに見る。特に日本はアジアの一員であることを忘れてきた経緯を反省し、各分野から分析してみたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

アジアの地図を描き、最近の変貌を加え、新しいアジア観の把握に努める。

履修上の留意点

各種の地図を利用するので、描写及び着色することがある。作図できるようにしておく。国境及首都等は構造として把握する。

成績評価の方法

最近のアジア各地の変貌を報告発表を要求する。

教科書

大藺友和『アジアを読む地図』（講談社）1,800円

参考書等

浅井信雄『民族世界地図』（新潮社）1,000円
 泉三郎『世界地図の新しい読み方』（日本実業出版社）1,300円
 アンドリュー・ポイド『世界紛争地図』（創元社）1,600円

その他

講義、作図。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教史	えんどうひろあき 遠 藤 廣 昭	教職教科	4

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心に見ていきたい。また一見それらとかわりの無いように見える「学僧」とよばれた僧侶の活動も詳述して見たい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度は、仏教の伝来から奈良・平安時代の仏教について前期で講義した。本年度は古代仏教も概観するが、講義の中心は中世の関東における仏教諸宗派の展開にしぼって見たい。中でも真言宗と曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗派中真言宗が最も多く展開を見、いわゆる鎌倉新仏教の中では曹洞宗が最も展開をとげているから、両宗は地域社会とのかかわりも深いと考えられるからである。このうち真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町時代を通して、京都や鎌倉との関係は無視できない。そのような視点からも講義を進めて見たい。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果を基本とするが、出席も重視する。

教科書・参考書等

教科書・参考書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本文化史 I	ひろせ りょうこう 廣瀬 良弘	教職教科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれるものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教科書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

授業中に随時示していく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
歴史哲学	あそう けん 麻生 建	教職教科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	くろだもと 黒田基樹	教職教科	4

講義のねらい

歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追究するものである。そのため、過去の日本社会を題材としつつも、常に現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本史を通時的に概観するのではなく、主として平安時代末期から江戸時代初期を対象として、個々のテーマを設定し、検討する。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教科書

特になし。

参考書等

授業のなかで随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	こまつとしはる 小松寿治	教職教科	4

講義のねらい

「日本史」が日本国の歴史について学ぶ学問であることは承知のことと思いますが、日本国に住みながら「日本史」を知らない人たちが多いいと思います。日本という国に住んでいる人間ならば、日本で起こったこと、特に国際化が叫ばれる昨今、外国とどのように関わっていたかを知っていることは、必要なことと思います。国際社会の中で、自分の住んでいる国の歴史を知らないことは、恥かしいことではないでしょうか。社会科の教員免許を目指す皆さんは、それがたとえ歴史の免許でなくても、関連する専攻の状況を理解するために、歴史に関する目を持つことは重要なことと思います。

講義の内容・授業スケジュール

日本の歴史を現在国際問題となっている日本の歴史認識と関連づけながら講義をしたいと思っています。そのため通常の歴史の授業とは違い、若干、時代的には前後する話になるかもしれません。

成績評価の方法

前・後期二度の試験をします。教員となる人たちの授業ですので、出席を重視します。

教科書

特に用意しません。必要な資料は、授業の際に配布いたします。

参考書等

授業の時、随時話します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
世界史概説	井村行子	教職教科	4

講義のねらい

近代世界システムの成立と展開の過程として世界近現代史を捉える。

講義の内容・授業スケジュール

第1回	近代世界体制成立の諸前提	第12回	19世紀後半のアジア
第2回	18世紀の西ヨーロッパ	第13回	帝国主義の開幕
第3回	18世紀の中・東ヨーロッパ	第14回	帝国主義の世界分割
第4回	18世紀のアジア	第15回	20世紀初頭の世界
第5回	二重革命の時代	第16回	第一次世界大戦
第6回	ヴェーン体制の成立	第17回	ヴェルサイユ体制の成立
第7回	19世紀前半のヨーロッパ	第18回	1920年代の世界
第8回	19世紀前半のアメリカ	第19回	1930年代の世界
第9回	19世紀前半のアジア	第20回	第二次世界大戦
第10回	19世紀後半のヨーロッパ	第21回	戦後世界の成立
第11回	19世紀後半のアメリカとロシア		

成績評価の方法

前期後期二回行う筆記試験による

教科書

使用しない。

参考書等

大江一道『世界近現代全史』全3巻 1991-97

科目名	担当者名	配当学科	単位
世界史概説	松本弘	教職教科	4

講義のねらい

本年度の世界史概説の東洋史は、中東の歴史を扱う。近い将来、学生諸君が教職について世界史を担当する際、最も困難を憶える部分は、おそらく中東やイスラムに関わるものであろう。近年、教科書における中東やイスラムに関わる記述は増えており、また中東和平問題やイスラム原理主義などの報道も大きく扱われている。にもかかわらず、中東は未だ「遠いところ」であり、その理解のための情報提供や教育はますます困難さを増しているように思われる。それゆえ本講義では、イスラム成立以後の中東の歴史を詳解し、学生諸君が教職につくという前提の下、中学及び高校において中東やイスラムに関する授業を行うために、最低限必要な情報と解説を示すことを講義の目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

「中東 (Middle East、地理用語では西アジア及び北アフリカ)」という言葉の意味から始めて、中東における民族や宗教を概観し、アイデンティティの問題を論じることによって、その社会の特質を明らかにする。加えて、ユダヤ教、キリスト教、イスラムという中東で成立した一神教の流れから、イスラムの占める位置も確認する。

次いで、預言者ムハンマドから正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝のイスラム史を概観し、その政治史や政治体制を解説するとともに、イスラム神学・法学やイスラム神秘主義といった思想史も扱いたい。

その後は、オスマン帝国の概説から中東の近代史に入り、ヨーロッパ列強の進出とそれに対する抵抗の過程を通して、「中東の近代」に関わる特質を論じる。そして、アラブ民族主義や中東和平問題から現代史に入り、イスラム原理主義や湾岸戦争後の情勢などを解説して、中東における歴史と現状の関わり合いについて、筆者なりの評価を示してみたい。

成績評価の方法

前後期2回の試験による。

教科書・参考書等

教科書は特に用いない。参考書は適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 学 原 論	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	教 職 教 科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

授業内容とそれに必要な準備

- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性“予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
- 第5回 1. 役割の取得——社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第6回 2. 役割の準拠——準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
3. 役割の葛藤——マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
- 第8回 1. 規範と同調——逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
- 第12回 2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性
- 第17回 1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
2. 官僚制組織の基本原理解 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲルドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
- 第20回 1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格
- i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
- 第25回 1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の-貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書

開講時に提示

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 人 類 学	さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹	教 職 教 科	4

(P.316) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさ だ どう いち ろう 浅 田 統 一 郎	教 職 教 科	4

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的としています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

講義の内容・授業スケジュール

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学の重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別の変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- | | |
|-------------|---------------------|
| I. ミクロ経済学 | II. マクロ経済学 |
| 1. 消費者行動の理論 | 1. 国民所得の概念 |
| 2. 企業行動の理論 | 2. 国民所得決定の理論 |
| 3. 市場均衡の理論 | 3. 貨幣と利率 (IS・LM 分析) |
| 4. 不完全競争の理論 | 4. 財政・金融政策の効果 |

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

教科書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』(成蹊堂)

参考書等

〔指定図書・文献等〕
 武隈慎一 著『ミクロ経済学』(新世社)
 中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あまのみつのり 天 野 光 則	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済学は、商品・貨幣経済を基礎とする近代社会（＝資本主義社会）の生成・発展のなかで、「社会認識」の学問として誕生した。

人々の生活はそれまでの自給自足的な生活から、自分の必要とするものを商品・貨幣関係＝市場を通して充足する生活へと変わって行き、それにともない人々の意識や行動も共同体的意識が次第にうすれ、個人が自己の利益を優先し、「損得勘定」に従うようになっていった。こうして人々は、「利己心」を中心に市場を通して関係を取り結ぶようになり、こうした社会にあって個人と社会の関係がどのように「調和」するかということをめぐって経済学という学問は生きたのである。経済学を一つの体系的な理論として示したのは、アダム・スミス『国富論』（1776年刊）であった。

スミスはイギリスにおける経済発展を考察しながら、近代社会が資本家・労働者・地主という三大階級からなり、階級間に貧富の差はあるけれども、分業にもとづく生産力の発展によってもっとも貧しい労働者階級にもその恩恵は及び、社会に「調和」が存在すると見なした。

しかし、18世紀末から19世紀初頭にかけての産業革命の進展とともに生産力は目ざましい発展を示しながら、資本主義社会の病理としての過剰生産恐慌は労働者を失業＝貧困に追いやり、社会の分裂・対立が大きな社会問題となった。この問題に真正面から取り組んだのが、マルクスであった。マルクスは資本主義社会を人類史における一つの歴史的・過渡的な社会ととらえ、そこにおける「経済的運動法則」の解明を意図して『資本論』（第一巻、1867年刊）を著わした。

本講義では、スミスからマルクスにいたるこうした経済学の流れを念頭におきながら、マルクスによって示された「資本主義の経済的運動法則」とはどのようなものであったかということ、明らかにして行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 第1篇 経済学の対象と方法
- 第2篇 商品・貨幣論
- 第3篇 資本・剰余価値論

後期

- 第4篇 資本蓄積論
- 第5篇 分配論（商業利潤論、利子論、地代論）

履修上の留意点

第2回の授業の出席者をもって受講登録者と見なすので、受講希望者は必ず出席すること。毎時間出席を取ることはいらないが、適宜出席を取り、平常的評価として加味する。

成績評価の方法

前後期各2回、授業時に簡単なテストを行ない、出席状況を加味して成績評価を行なう。

教科書

平井規之他著『経済原論』（有斐閣）

参考書等

- マルクス『資本論』第1巻（新日本新書）
- 内田義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）
- 大塚久雄『社会科学の方法』（岩波新書）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	小 野 俊 夫	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済は現代社会の基本であり、経済学、特に経済学原論は広く社会諸科学を学習し理解するためには必須の学問である。この講義では、現代経済社会の仕組みと運行の仕方を理解し、正しく分析し得る力を身につけるためには不可欠な理論の基本を、いわゆる近代経済学の立場から体系的に解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は次の順序で行う。

1. 経済学発展史要説
2. ミクロ経済学：ミクロ的経済循環とミクロ経済学、消費者行動の理論、企業行動の理論（企業の生産技術と生産費、完全競争下の企業行動、独占企業の行動）、完全競争市場と独占市場、現代企業と市場の理論。
3. マクロ経済学：マクロ的経済循環とマクロ経済学、国民所得の諸概念、ケインズの有効需要原理と理論体系要説、ケインズ経済学体系（消費関数と貯蓄関数、国民所得の決定と投資乗数の理論、投資決定の理論、利子率決定の流動性選好理論、ケインズ理論体系と IS-LM モデル）、経済成長と景気変動、政府および外国貿易を考慮する一般的分析。

履修上の留意点

講義を理解するために経済に関する予備知識は必要としないが、学問はそもそも一つの体系であるから、常に出席して講義の順を追って理解して行かねばならない。

成績評価の方法

次の3点の総合評価による。

- (a) 講義への出席率
- (b) 後期の適当な時期に課するレポート提出
- (c) 後期の最終講義時間に行う教場試験。

教 科 書

小野俊夫編著『現代経済学の基礎』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 I	おお <small>みや</small> 大 宮 <small>たかし</small> 隆	教 職 教 科	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んてくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教 職 教 科	4

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をとっておくとよいでしょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想 | C 日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B 政治の仕組み | D 国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：50% 中間試験：20% 学年末試験：30%

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 宗 教 文 化 史	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

講義のねらい

主として東北地方や沖縄地方の民俗・民衆的な宗教現象の具体例を紹介しながら、日本の宗教文化を根底から支えてきた基盤の広がり、その独特の性格などを考えてみたい。具体的には、日本人の運命観、死生観、靈魂観、系譜へのこだわり、「のろい」「うらみ」などの情緒への対処、「平等」に対する感性、などが話題になろう。

講義の内容・授業スケジュール

なるべく具体的な事例の考察を中心に話を進めたい。特に、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムヌシリなど、民間巫者などの総称によって捉えられてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方の話が中心となる。

成績評価の方法

年度末のレポートによる。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

スライド、ビデオを適宜使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 衆 宗 教 成 立 史	つ しろ ひろ ふみ 津 城 寛 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にたつて、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 新宗教の発生と展開

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部）1995年を用います。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	あらい 洗 けん 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、我々現代日本人とのかかわりを念頭に置いて、世界の諸宗教について概説し、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。
この教科は教職科目であるので、できれば近代と宗教、憲法理念と宗教の問題にも言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の性格、原始宗教、民族宗教、仏教、キリスト教、イスラーム教、神道、新宗教運動、近代化、世俗化、信教の自由、政教分離などの諸問題について考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参考書等

随時、紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

講義のねらい

「宗教」とよばれる現象には、特定の教祖によって開かれ、制度的・教典的な背景や歴史をもった「世界宗教」とよばれるものから、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた「習俗」、あるいは機能分化した近代社会に生きる個人の「生き甲斐」まで、多様な幅がある。また、教祖・聖者などの宗教的達人やエリートによって説かれた「思想」から、現世祈禱・死者供養・祭礼・禁忌・呪い、などとよばれるような庶民の「実践」まで、途方もない広がりをもっている。
本講義では、主として一般庶民の生活に根ざした、宗教の民俗・民衆的な側面に焦点を合わせ、宗教学の視点から、この側面を捉える方法や、その具体的な研究成果について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式によって、代表的な研究を紹介することを予定しているが、受講者の人数によっては、学生諸君に課題を与えて発表してもらうこともある。

成績評価の方法

レポートを予定しているが、試験に変更する可能性もある。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。
さしあたり、佐々木宏幹・村武精編『宗教学人類学』（新曜社）などが役に立つ。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文	教 職 教 科	4

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

その都度紹介します。

そ の 他

数回ビデオを用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	くにしまかずのり 国 嶋 一 則	教 職 教 科	4

講義のねらい

われわれは、生きてゆくための支えとなるものを求めざるをえない。「支え」となるものは価値のあるものである。価値とはいかなるものかを明らかにするには、まず価値が、自然や人間や歴史などの存在するものと、いかなる関係にあるかを、さらにその前に、存在するものがいかなるものであるかを、明らかにしなければならない。

ところで、世界、人間、歴史などの存在するものが、いかなる仕方で存在するかという存在論の問題を考えるためには、われわれは何を、いかに認識しうるかという認識論の問題について知っておかねばならない。そしてまたそのためには、認識の真偽を論ずる真理問題が明らかにされておらねばならない。

以上、価値、存在、認識（知識）、真理という哲学思索を進めるべき段階を辿ったが、その段階は哲学の体系でもある。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、哲学の基礎概念と思索を進めるための論理の学習。
後期は、体系的立場から、現代の主義を哲学的に考察する。

成績評価の方法

出席回数、筆記試験、レポート

教 科 書

学期のはじめに発表する。

教職・資格講座

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	すえぎやすひこ 末 木 恭 彦	教 職 教 科	4

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新事論』『新世訓』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教 科 書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新事論』『新世訓』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参 考 書 等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／島田虎次『新儒家哲学について』（同朋舎）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倫 理 学 概 説	く ぼ よう いち 久 保 陽 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

古代から現代にいたる倫理学の主な学説を学び、現代社会における人間の生き方の手掛かりを得ることをめざす。現代はしばしば「ポスト・モダン」の時代だと云われる。それは、近代の科学技術文明や社会制度が様々な問題を露呈し、その解決が求められているからだろう。けだし近代では、それまで結びついていた経済と政治、政治と宗教、個人と社会、人間と自然、学問(真)と道徳(善)と芸術(美)とが相互に分裂し、それぞれ独立の権限を主張するようになる一方、その前提から新たな総合が求められてもいる。けれども、いまだ——かつこの宗教や国家に代る——有効な統合原理は見出されえないでおり、そのため種々の混乱が生じている。そこで本講義では、近代の倫理学説を、一方で古代・中世の倫理学説との連関で取り上げると共に、他方で現代の倫理学説との連関で、批判的に考察することにする。

講義の内容・授業スケジュール

近代の倫理学——快樂主義、功利主義、社会契約と人権の思想、理性主義、カント等。
現代の倫理学——ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ハイデガー、ハーバーマス等。

履修上の留意点

講義に対する積極的な取組みが受講の要件であり、そのために一年間で少くとも古典を一冊読了するようにすること。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

読むべき古典を含め、授業中に紹介する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学科	単 位
産業概説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職教科	4

講義のねらい

授業は'85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・授業スケジュール

（総論）バブル経済と平成不況
 （各論）非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業指導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教職教科	4

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）2,000円
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）2,500円
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版）2,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教 職 教 科	4

(P.274) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学 1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子どもの読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書 2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ・演習

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前 期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク
- 2) 分類法(表)の解説・演習
- 3) 目録の解説・演習
- 4) 資料組織の機械化
- 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教 科 書

『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円
『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会)3,500円

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

必要に応じて、ビデオを活用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情報メディアの活用 (後 期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 情報化社会と人間
- 2) 情報メディアの特性と選択
- 3) 視聴覚メディアの活用
- 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用
- 5) 情報検索

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教 科 書

情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ)2,200円

参 考 書 等

講義中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)(後期)	やま だ せつ こ 山 田 節 子	図書(司)2・3・4必	2

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。
この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参 考 書 等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 計 画	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2必	4

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論の理解を深められるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教科書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参考書等

そのつど紹介する。

その他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることをもとめる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯学習概論	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事2必	4

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という視点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の視点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
(ユネスコの生涯教育論)
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・臨教審答申－「生涯学習体系化」への動き
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育
 - ・社会教育の概要（定義・社会教育施設・学習方法・形態など）
 - ・成人教育としての社会教育

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

碓井正久、倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会教育実習	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事3必	4

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導 — 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
- 訪問指導 — 実習先訪問指導。
- 事後指導 — 実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。実習報告書を作成する。

成績評価の方法

①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教科書

小林文人編『公民館の再発見 — その新しい実践』（国土社）

参考書等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

その他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。
実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このこととおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育実習	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事3必	4

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとりくみ、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ——これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間——個別の訪問指導
- ・実習後——個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習先の評価等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

そ の 他

社会教育実習を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育行政	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら説明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役立つような内容を明らかにしたい。

授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』（国土社）2,718円＋税

月刊社会教育編集部『生涯学習時代の社会教育をつくる』（国土社）1,942円＋税

参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館社会教育施設の重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
 - ・社会教育施設にかかわる人々
 - ・公民館の歴史と現状
 - ・図書館の歴史と現状
 - ・博物館の歴史と現状
 - ・社会体育施設の歴史と現状
 - ・その他の社会教育施設・関連施設
 - ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題
- それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、試験、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
成人学習論	ひがし 東 とし 寿 たか 隆	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

成人が学習することによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。始めに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。授業外に社会教育施設などでボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。

教科書

福尾武彦編著『現代を生きる学び』（民衆社）2,800円＋税

参考書等

酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,718円＋税

科目名	担当者名	配当学科	単 位
女性と学習	や 矢 ぐち えつ 口 悦 こ 子	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

生涯学習が世界的潮流となった今日、学校以外の様々な場での学習が社会生活を支えている。そうした学習機会の提供について特に女性問題（男性問題）の観点から検討を行なうことが本授業のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

講義の前半では、ジェンダー、エンパワーメント等の概念を整理しつつ、基本的な視点の提示を試みる。後半では、具体的な学習事例を紹介し分析・検討を加える。

履修上の留意点

学生自身の問題関心に応えるような授業とするために、積極的な発言を求める。

成績評価の方法

レポート及びそれをもとにした発表の予定。

教科書

使用しない。必要な資料は配布する。

参考書等

参考文献は授業の中で、必要に応じて紹介する。

その他

授業のタイトルが「女性と学習」となっているが、男性の受講を拒むものではありません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
企業内教育・職業訓練	しお かわ まさと 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

- この講義のねらいは「厳しい就職戦線に勝つ自分づくり」です。そのため毎回の授業は
1. 導入講義のあとは、対話と討論の授業とする。
 2. 大学卒業後の進路決定に直接役立つ授業とする。
 3. 就職を成功する決め手をつかむ授業とする。
 4. 企業と社会の現実をつかむ授業とする。
 5. 毎回、自己と対話し自己創造を積み上げる授業とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 担当講師は、日本能率協会の経営コンサルタント。200社を超える各種企業の経営指導を担当してきている。講義内容は企業の指導で行う教育とコンサルティングの理論・技法を紹介しつつ、学生生活の「革新」を指導する。その骨子は
- 「考える授業」を行う。そのため
 - ・大学生生活の過ごし方を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
 - ・卒業後の進む道の本気で考える学生だけを対象の授業とする。
 - 「表現する授業」を行う。そのため
 - ・毎回、講師と学生、学生と学生による対話と討論を行なう。
 - ・自己表現の各種技法を習得し、就職試験などでの対応策を授業の中で体得する。
 - 「実行する授業」を行う。そのため
 - ・授業で体得した内容を、大学生生活全般に活用する。
 - ・卒業後の進路開拓に活用する。

履修上の留意点

- ・本授業は三年生のための卒業後の進路開拓の支援を目指す授業です。授業の後半から就職準備が始まります。授業内容はそのまま就職への準備行動として展開します。
- ・必ず配布資料があります。討議のまとめもコピーします。各自ファイルを準備して下さい。

成績評価の方法

毎回の授業への参加内容を重視し併せて筆記試験も行います。

教 科 書

なし。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会体育Ⅰ (前期)	ふるた じゅんこ 古田潤子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

満ちて輝く心とからだ
 他者とひびき合う豊かな関係
 人間にとって本質的な生き方の問題を、自分のからだと向かい合うことから始めます。からだの感覚を手がかりに、からだの自然に気づき、自らの意思で、今を生きる確かさと自信を体得していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、自然の原理に沿った動きで、ゆるやかに自分自身の心とからだを拓いていくことを主眼とします。具体的には、動きの基本となる三要素①余分な緊張を取り去る。②その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。③動きに最適な自然な呼吸。を目安とし、自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）
 野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）
 野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）
 池田潤子執筆「からだのレッスン」雑誌『ひと』（太郎次郎社）
 古田潤子「自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義」
 駒沢大学教育学研究論集第13号 1997年

そ の 他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会体育Ⅱ (後期)	ふるた じゅんこ 古田潤子	社教主事2・3・4選	2

講義のねらい

後期では、他者との関係を豊かに拓いていくことを主眼とします。
 環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえて自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。
 また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	配当学科	単位
教育原理	社教主事2・3・4選	4

(P.217) 参照

科目名	配当学科	単位
教育心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.220) 参照

科目名	配当学科	単位
青年心理学 (教育方法論を含む)	社教主事2・3・4選	4

(P.222) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会心理学	つば い 井 つよし 坪 健	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など社会学と心理学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

 講義の内容・
授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との関わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テスト、エキササイズなどを行うことがあるので積極的に参加すること。
2. 授業内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更することもある。
3. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席+毎時間の授業態度、感想、意見、質問など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

教科書

各テーマの授業時間に指示する。

参考書等

各テーマの授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視聴覚教育	いい もり あき ひこ 飯 森 彬 彦	社教主事2・3・4選	4

(P.299) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育社会学	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	4

(P.245) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育史	きたむらみつこ 北村三子	社教主事2・3・4選	4

(P.246) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育調査	すずきのりお 鈴木規夫	社教主事2・3・4選	4

(P.247) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
児童文化	かかわよししげ 香川良成	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）『日本演劇教育史』（国土社）菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』（大月書店）

その他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するというも行いたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代社会の諸問題と教育	くまがいかずのり 熊谷一乗	社教主事2・3・4選	4

(P.248) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年問題研究	讃岐真佐子	社教主事2・3・4選	4

(P.249) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年指導演習	平野学	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題とそのカウンセリング(3回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボランティア活動他)の報告と討議。(3回)
7. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
8. その他(全体の振り返り他)。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。

出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行なうので安易な受講は避けてほしい。)

尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』(創元社)各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』(創元社)各1,300円
 同 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)1,240円
 同 『ユング心理学と仏教』(岩波書店)1,800円
 佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』(東大出版会)2,800円
 他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。
 授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たち 喜 美 子 太 田 喜 美 子	社教主事2・3・4選	2

(P.300) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	社教主事2・3・4選	2

(P.300) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視 聴 覚 教 育	<small>い</small> 飯 <small>もり</small> 森 <small>あき</small> 彬 <small>ひこ</small> 彦	学芸員2・3必	4

講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

講義の内容・ 授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景
コミュニケーションの理論と視聴覚教育
視聴覚教材の制作と利用
情報化社会における視聴覚教育
生涯学習時代とメディア
以上のような内容であるが、特に「視聴覚教材の制作と利用」に重点をおいて講義する。

履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品制作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。(OHPシート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など)

成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
中野照海・佐賀啓男・赤堀正宣編著『メディアと教育』（小林書房）

そ の 他

ビデオや写真などを多用して講義する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
考 古 発 掘 実 習	<small>い</small> 飯 <small>な</small> 武 <small>つぐ</small> 次 ・ <small>さ</small> 酒 <small>い</small> 井 <small>きよ</small> 清 <small>じ</small> 治	学芸員3・4必	2

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作ること。
授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は平常点。

教 科 書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たく さま 喜美子	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（竹内講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないの注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、竹内順一講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事を選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

そ の 他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館資料の収集、整理保管、展示などについて、理論や実践方法に関する知識と技術の習得をめざす。またあわせてこれらの基礎として必要な博物館資料の調査研究活動の意義と方法について理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

収集活動は、博物館事業の出発点となる重要なものであるが、博物館の設立趣旨や経緯に基づき一定の制限があるものである。この制限下の収集が、結果として博物館の諸事業の個性化をもたらし、特色ある博物館像をつくりあげる。博物館のコレクションを論ずることによって、その博物館の特色を考える。また、具体的な収集手順について、学芸員の収集候補資料の調査からはじまり、収集委員会や買取評価委員会などの開催に至る制度上の手順と問題点を明らかにする。さらには、買取以外の寄贈・委託・交換・採取といった収集方法についても考える。

整理保管は、学芸員の職務として位置づけられているが、欧米ではレジストラと称する専門職が司る。この欧米との制度上の比較を行いつつ、資料の管理と登録の実際面を考察する。とくに収蔵庫内の静的な管理と展示や搬出搬入に関わる動的な管理との差異の理解を深め、同時にこの両者に共通する保存化学の基礎知識にふれる。

展示は特別展の開催に至る手順を、開催趣旨（テーマ）の決定から、出品リスト作成・出陳交渉・集荷・会場設営等をマニュアルとして把握する。研究は、文献主義ではなく、学芸員独自の「モノ主義」の立場を知る。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博物館学Ⅲ（経営論・情報論） （後 期）	たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。また博物館における情報の意義と、その活用方法について理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館の運営を行政と財政の二つの側面から考察する。とくに国公立の博物館と私立博物館の比較系統を加える。また近年注目されている「博物館経営（ミュージアム・マネージメント）」についても理論と実際例を紹介し、他の芸術経営との相異と共通点を明らかにする。博物館の運営は、そこに勤務する職員の能力（知恵）と、施設や設備と不可分な関係にある。いわばソフトとハードの両面から博物館の運営を考え、あわせて将来のあるべき姿としての専門職員の分業制についても論ずる。

教育普及活動は、昨今必要性があらためて認識されているが、その活動範囲はきわめて広く、展示品説明（列品解説・ギャラリートーク）、ワークショップ、各種普及講座など入館者を前にして行なうものと、作品解説ラベル（題箋）、パネル板、図録作成など文章を中心とする活動の二種に大別される。この両者に共通する要諦は「わかりやすさ」であり、事例研究を通してこれを明らかにする。

博物館の対外活動は、「情報の発信」とみなすことができる。これを広義の情報提供とすれば、個々の博物館資料に関する知見は、狭義の情報である。この両者を考察しつつ、狭義の情報提供と活用方法を各種のメディア機器の特色とともに考える。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 I (館 務)	飯島 武次・酒井 清治 太田喜美子	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応してくださるお陰だと思うが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な趣きももっている。日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるので、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だって、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 II (収 集)	酒井 清治・太田喜美子 國見 徹・久保田昌希 佐々木 真・佐藤 元英 所 理喜夫・廣瀬 良弘	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきつまいようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 Ⅲ (見 学)	酒井 清治・太田喜美子 まつもと のぶみち 松本 信道	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ（館務）」と「Ⅱ（収集）」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人ができるように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Cの3組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

科 目 名	配 当 学 科	単 位
教 育 原 理	学芸員 2 必	4

(P.217) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 涯 学 習 概 論	豊 田 千 代 子 とよ た ち よ こ	学芸員2・3必	4

(P.286) 参照

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
インド仏教文化史	奈良康明	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、数学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテーラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か：
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames、他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「白覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テーラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見たいとすることが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないか。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	ほかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやって頂いてよい、ということなので、通常の講義と思って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講読を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでほしい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してほしい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禅 美 術	えびねとしお 海老根 聡 郎	学芸員2・3・4選	4

講義の内容・
授業スケジュール

日本の中世の絵画世界を、禅宗画僧による歴史として述べていく。鎌倉・南北朝・室町時代を対象とする。それらの画風の源泉は中国にあるから、合わせて、中国禅宗の中で描かれた絵画についても述べる。

授業は毎回スライドを映写する。

成績評価の方法

年度末に授業で述べたところから出題した筆記試験を行ない評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	やましたゆうじ 山 下 裕 二	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

仏像や仏画を見れば、だれもがそれを「仏教美術」だと認識する。だが、きらびやかな色彩の花鳥画や、落ちついた水墨の動物画にも、仏教的なイメージは流れこんでいる。この講義では、一見「仏教美術」とは思われないような作品をあえてとりあげて、読み解いていくこととする。

講義の内容・
授業スケジュール

①江戸時代の画家・伊藤若冲 ②南宋時代の画家・牧 ③江戸時代初期の風俗画・彦根屏風、他にも適宜多数の作品を紹介し、最新の研究論文を読んでもらう。

履修上の留意点

仏教美術に対する固定化したイメージを捨てて講義に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートにより評価する。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

参考文献は適宜コピーして配布する。

そ の 他

スライド・ビデオを多用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 民 俗 学	須 藤 寛 人 す どう ひろ と	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われれます。こういった日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を本講義では考察したいと思います。また今日の日常的な仏教的な営みの背景にある民俗的基盤の歴史と意味を再考することによって、仏教とのこれまでとは違った接し方のきっかけになればと思います。

講義の内容・授業スケジュール

以下の三点を以て、本講義の枠組みとし、盆行事や彼岸などの具体的事例を交えながら考察を行っていききたいと思います。

a. 祖先祭祀

祖先とは何か、先祖との違いは何かを明確にすることからはじめる。今日の日本仏教における寺院の主たる活動が、死者の葬式と追善供養からなっており、追善供養は祖先祭祀を民俗的背景として成り立っていることから、祖先祭祀は重要なテーマであると考えられる。

b. 葬送儀礼

葬式は多くの日本人にとって最も「仏教的」であることを再認識させられる出来事である。しかし、ほとんどの場合、そこでなに行われているのかは、一般人には知らされていない。そこで、民俗的事例をあげながら葬式の構成を明らかにそこにどういう意味があるのかを明らかにする。

c. 仏壇・位牌・墓

多くの日本人にとって最も馴染み深い「仏教的」なものが、仏壇・位牌や、墓であろう。これらのものが、拝む対象になる所以を民俗的背景から明らかにする。

履修上の留意点

遅刻・欠席はできるだけなくしてください。私語は慎んでください。

成績評価の方法

試験・レポート等で総合的に評価します。

教科書

教科書は用いませんが、講義の内容に沿って資料を配付します。

参考書等

適宜紹介したいと思います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	たに ぐち みつぎ 谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を用する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
美術史概説	矢野陽子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。
 美術史の起源
 西洋美術史学の方法と歴史
 原作、複製、文献
 描写と解釈
 合わせて古代から現代への流れを概観していきます。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。

参考書等

マーク・ロススキル著 中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社）
 マルシア・ポイント著 木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）
 高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）
 このほか適宜、授業中に参考文献を紹介します。

その他

スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行います。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代美術	矢野陽子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

現代美術は難しい、つまらないという声をよく聞くが、確かにルネサンスや印象派の美術に比べ、現代美術の作品は理解しにくいものが多い。しかし、美術作品は、現代のものに限らず、ただ好きなものを眺めていればわかるというものではない。理解するためには、制作された当時の社会背景や、作者の意図などを正確に知る必要がある。現代美術は、現代という時代と、そこに生きている我々のあり方を反映していると言ってよい。したがって、現代美術の考え方や表現技術を理解することは、我々の生活と決して無関係なものではなく、現代社会の問題点を考える手がかりになりうるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

現代美術とは、一般に20世紀の美術を言う。この授業では、めまぐるしい変化をとげながら、新鮮で多様な表現を生み出してきた現代美術の流れをつかみ、それぞれの運動、主張、作品の特徴を理解することを目的とする。20世紀の美術は、それ以前の美術の歴史の継承と断絶であるから、19世紀美術から講義を始めることになる。前期では19世紀中頃（写実主義、印象主義など）から20世紀初頭までを、後期では抽象絵画の誕生以降、1960年代の多様な美術までを見ていく予定である。

履修上の留意点

美術史を学ぶには、実物を見ることが大変重要である。展覧会や美術館に積極的に足を運んでほしい。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験で評価する。

参考書等

参考図書として、ニコラ・スタンゴス編 宝木範義訳『20世紀美術』（パルコ出版）
 美術出版社編集部編『現代美術入門』（美術出版社）
 を挙げておく。このほか適宜、授業中に文献を紹介する。

その他

授業では毎回スライドを使用する。また必要な資料はコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地形学	小池一之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。

1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
第四紀学	鈴木毅彦	学芸員3・4選	4

講義のねらい

第四紀とは現在を含む最も新しい地質時代であり、今からさかのぼること約170万年間をいう。現在の地球上でみられる地形、気候、人類の姿の大部分は、第四紀におきた現象の累積として説明できる。本講義のねらいは、第四紀の地形と気候の変化、人類の歴史をふりかえり、その結果として現在があること、また、将来を予測するためには過去を知ることが重要であることを理解することである。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、氷期-間氷期サイクルに関連する気候と海面の変化、第四紀の地形編年と層序の2項目を中心に、地殻変動、火山活動、植生、土壌、人類などの変遷史をテーマとしてとりあげる。第四紀学は歴史学であるので講義にあたっては具体的な事例を題材とする。その際にはなるべく身近な事例（関東地方、日本列島など）を取り上げるが、内容によっては全地球が対象となることはいうまでもない。

履修上の留意点

講義の中心は第四紀の歴史であり地質学的な側面が多いが、現在の地球の姿、すなわち自然地理学的な関心・知識を有することが望ましい。

成績評価の方法

筆記試験、および各自が各々の関心に応じて適当な単行本ないしは学術論文を選び、それについての評論を行ない、成績評価とする。また、講義中に簡単な作業などを要求することもある。

教科書

日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円

参考書等

貝塚爽平著『東京の自然史』（紀伊国屋書店）1,650円

その他

OHP、スライド、時にビデオを用いて講義を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 I 〔 日 本 〕	さか い きよ じ 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。

講義の内容・
授業スケジュール

日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験で採点。

参 考 書 等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会）
安蒜政雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 II 〔 外 国 〕	い い し ま たけ つぐ 飯 島 武 次	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年
飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 文 化 史 I	さ さ き 真 ^{まこと} 佐々木	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教 科 書

教科書は特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
山内進『略奪の法観念史』（東京大学出版会）

そ の 他

授業は講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 II	たか はま しゅう 高 浜 秀	学 芸 員 2・3・4 選	4

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。中国の北、現在の内蒙古からモンゴル国にかけての地域は、なかでも重要な地域であり、この文化の形成に大きな役割を果たしたと考えられる。講義では中国の北を中心として、初期遊牧民文化形成の問題を扱う。中国の時代区分では殷代から漢代までに相当する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教 科 書

教科書はない。

参 考 書 等

参考書や参考文献は、講義の初めなどに適宜指示する。

そ の 他

講義を中心とし、プリント、スライドおよびビデオを時に応用して使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 IV	や の かず の けい 矢 野 和 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。
このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造隊の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例・文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西域美術史	まつ だいら みわ こ 松 平 美 和 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について。
- ② クシャーナ朝美術とその意義
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について。
- ③ タク라마カン砂漠周辺のオアシス都市の美術
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルフアン、ホータン、敦煌などの美術について。

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライド・ビデオを多く用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗教人類学	さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。
人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きるということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1. 文化と人間、2. 社会と世界観、3. 宗教の原辺形態、4. 人間と動物、5. 民族宗教、6. 世界宗教、7. アニミズム・多神教・一神教の関係、8. 仏教・キリスト教・イスラム教、9. 民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。
講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなりポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったりポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』（講談社）840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社）980円

V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉原論	伊藤 秀一	社福主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日の社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 福 祉 原 論	ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行	社福主事2必	4

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、改めて「現代社会における社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる点を学習していくことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の理念とその意義
- 2 社会福祉の対象と援助の形態、方法
- 3 社会福祉サービスの体系
- 4 社会福祉の法体系、実施体制、財政
- 5 社会福祉の動向

成績評価の方法

年度末の定期試験により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教 科 書

仲村優一『社会福祉概論』（誠信書房）

参 考 書 等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 学 (福 祉)	こ ばやし ひろ と 小 林 弘 人	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・ 授業スケジュール

①憲法と社会福祉、②民法と社会福祉、③社会福祉の法、④社会福祉の組織、⑤社会福祉の財政、⑥社会福祉の争訟、⑦公的扶助の法、⑧児童福祉の法、⑨単身家庭福祉の法、⑩心身障害者福祉の法、⑪身体障害者福祉の法、⑫精神薄弱者福祉の法、⑬老人福祉の法

成績評価の方法

出席、年2～3回のレポート、期末テストなどを総合的に勘案して評価する。

教 科 書

小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）3月末刊行予定

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会福祉発達史	こ ばやし ち よ 林 千 代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的物産である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
リハビリテーション論	なる かわ よし お 生 川 善 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションとは、障害のある人が人間らしく生きる権利の回復、すなわち『全人間の復権』である、といえよう。

本講義においては、リハビリテーションの理念、医学・教育・職業の3領域のリハビリテーションについての概略、社会的リハビリテーションの基本問題の学習を通して、障害のある人が人間らしく生きる権利をどのように回復してゆくべきかについて考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、リハビリテーションの理念に触れる。次いで、医学、教育、職業、社会の4領域のリハビリテーションについての概説を行ない、それら4領域の関連性についても言及する。これら4領域のリハビリテーションのうちでも、社会的リハビリテーションは、障害者福祉との関連も深いといえるので、本講義においても主としてこれに多くの時間をあてる予定である。しかし、社会的リハビリテーションは、医学的リハビリテーションや職業的リハビリテーションに比べて、その考え方や技術の枠組みはいまひとつ確立されていないといえよう。そこで、社会的リハビリテーションについては、諸々の社会的リハビリテーションに関する研究を取り上げながら、検討していきたい。すなわち、障害者の社会活動への参加、障害者のQOLとADL、障害者をめぐる環境、障害者と家族、障害者の自立ならびに自立援助、地域に根ざしたリハビリテーション、施設リハビリテーション、社会的リハビリテーションの種々の方法などをとりあげながら、社会的リハビリテーションの基本問題を論じていきたい。

履修上の留意点

履修者は「人間らしく生きる権利の回復」という語句の意味を考えながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

- ・小島蓉子・奥野英子編著『新・社会リハビリテーション』（誠信書房）1994
- ・上田 敏『リハビリテーションを考える』（青木書店）1983

そ の 他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 保 障 論	なが お しょう じ 長 尾 譲 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、わが国における社会保障制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- | | | |
|---|-----------------|--------------|
| 1 現代社会における生活問題 | 2 社会保障の史的展開 | 3 社会保障の理念 |
| 4 社会保障の概念、範囲、規模 | 5 社会保障の財政 | 6 社会保障の機能 |
| 7 社会保障の問題点と今後の課題 | 8 わが国の社会保障制度の体系 | |
| 9 わが国の社会保障各制度の沿革と概要 | | |
| 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 労災保険 4) 雇用保険 5) 公的扶助 6) 児童手当 | | |
| 7) その他 | | |
| 10 民間保険の役割 | 11 社会保障の実施体制 | 12 社会保障研究の動向 |

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座5 社会保障論』（中央法規）

参考書等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
家 庭 福 祉 論	いわ 岩 上 真 珠	福祉主事2・3・4選	4

講義のねらい

個人と家庭のウェルビーイングはいかにして達成されるのか。講義では、親と子のウェルビーイングと家庭福祉の問題を、男女平等社会の役割分担のあり方や家族の多様化をふまえて考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次のような内容で進めていきたい。

- 1) 「ウェルビーイング」の考え方
- 2) 家庭の機能とは何か
- 3) 少子化・高齢化と家庭機能の変化
- 4) 個人化社会と家庭福祉
- 5) 男女平等社会と子育てサポート
- 6) 家族の多様化と子どもの福祉

履修上の留意点

問題意識をもって聴講してもらいたい。また随時意見や感想をレポートしてもらう予定である。

成績評価の方法

小レポート、期末試験、および平常点（出席状況を含む）で評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

講義中、適宜指示する。

そ の 他

講義を主体とする。必要なプリント類は随時配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉計画論	かわ 川 廷 宗 之 <small>か たい もと ゆき</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行わなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要がある。ソーシャル・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等も行なう予定であるので、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いておいてください。

なお、文学部社会科学福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にでてくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

教科書

第1回目の授業時に指定する。

参考書等

- ① 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③ 全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 社 会 福 祉 論	やまもと まみ実 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

二つの柱を通して国際社会福祉の理解を深めていく。まず、一つは福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を通して、日本の社会福祉の現状や考え方について振り返り、見直すこと。二つ目は、国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるかを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。

履修上の留意点

特に社会福祉の基礎がなくても構わない。

成績評価の方法

出席状況（カード）、レポート、試験の総合評価により評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

適宜授業中に紹介。

そ の 他

ビデオ使用。
適宜感想を記入するカードを配布。
積極的な討議、意見発表を高く評価する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
保健福祉論	なが お じょう じ 長 尾 譲 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参考書等

追って紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公的扶助論	い とう しゅう いち 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教科書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
障 害 者 福 祉 論	なる かわ よし お 生 川 善 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、①障害のある人々の障害状況を可能なかぎり軽減し、障害のない人々と同様の生活条件を享受できるようにすること、②障害がある故に入学しにくい、就職しにくい、などの社会常識の根底に潜む障害者観の歪み（差別や偏見など）を変革すること、の2つの面が課題となってくる、ともいえよう。

今日のわが国の障害者福祉は、行政努力、当事者運動、国民の人権意識などを反映して、さらには、国際障害者年の各種の国際会議などの影響もあり、制度的にも実践的にもかなり発展してきている。

本講義においては、上記のことをふまえ、障害問題、障害者に関する諸研究を整理し、大きく変化しつつある今日の福祉状況を見つめながら、障害者福祉の課題について検討していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、障害者福祉の基底に流れる理念、障害者の自立、障害の概念、障害者の実態と福祉ニーズ、身体障害者、知的障害者、精神障害者に対する福祉施策・制度、保健・医療、雇用、所得保障などの障害者福祉の関連施策、障害者福祉における民間活動、障害者福祉にたずさわる専門職・ボランティア、障害者の家族支援、障害者に対する相談援助活動などについて言及する。

履修上の留意点

履修者は、障害者福祉の課題を念頭に置きながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

- ・星野貞一郎 他編『障害福祉論入門 改訂版』（有斐閣双書）1982
- ・福祉士養成講座編集委員会 編『障害者福祉論』（中央法規）1996

そ の 他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
老人福祉論	とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期⇒人口高齢化の意味と状況

わが国における高齢者の生活実態及び高齢者像

老年期の心身の状況、etc.

後期⇒わが国における高齢者対策の歴史

老人福祉対策・サービスの現状および課題

今後の高齢化社会にむけて、etc.

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないので、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教 科 書

冷水豊編『老人福祉論』（メヂカルフレンド社）

冷水豊編『老人福祉－政策・処遇の視点と方法－（第三版）』（海声社）2,000円

参 考 書 等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
児 童 福 祉 論	前 期：山 ^{やま} 本 ^{もと} 真 ^ま 後 期：許 ^{この} 斐 ^み	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、「児童福祉」を《社会的子育てシステム》と捉え、現行の児童福祉の法制度を検討しながら、子どもを養育する社会の責任および公的責任、子育てに対する公的・社会的支援・援助のあり方を考察する（子ども家庭福祉論）。また、児童福祉法の成立・展開課程や子どもの権利条約等の検討を通して、子どもの権利の基本的な考え方および児童福祉法の基本理念を学び、《子どもの権利擁護システム》としての児童福祉法制度について理解を深める。なお、これらの参考として、カナダの子ども家庭サービスについても言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 子どもの現状と子どもの人権
- 2) 子ども家庭政策の展開と最近の動向
- 3) 子どもの権利の考え方
- 4) 児童福祉法の理念
- 5) 子ども家庭福祉に関する法制度
- 6) 子ども家庭福祉サービスの現状と課題
- 7) 児童虐待の実態と相談援助の実際
- 8) カナダの子ども家庭サービス

履修上の留意点

受講学生には、児童福祉を知識として学ぶだけでなく、子どもが権利の主体であるという新たな理念を正しく理解し、子どもと家庭に対する支援・援助のあり方を自分なりに考えることを期待している。

成績評価の方法

主として学年末の試験によるが、レポート等の成績を加味することもある。

教 科 書

許斐有『子どもの権利と児童福祉法』（信山社）
『社会福祉小六法』（出版社は問わない）

参 考 書 等

永井憲一・寺脇隆夫編（許斐共著）『解説・子どもの権利条約』（日本評価論社）
ささやななえ（椎名篤子原作）『凍りついた瞳——子ども虐待ドキュメンタリー』（集英社）ほか

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
女 性 福 祉 論	はやし ちよ代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

戦後のある時期“婦人福祉”という概念が登場した。以来、唯一、女性を対象としている社会福祉事業は、売春防止法に基づいて制度化されている婦人保護事業である。しかし、女性という特性ゆえに遭遇する生活上の困難は多様であり、何らかの解決策を必要としている。

女性福祉という概念はまだまだ成熟しているとはいえないが、売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の福祉阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

林 千代編『慈愛寮に生きた女性たち』（東京創文社）
林 千代編『現代の女性と売買春』（ドメス出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 療 福 祉 論	ほる み しず こ 春 見 静 子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における専門職としての医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どのようなフィールドでいかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- 教科書に沿って
- 1 社会福祉とソーシャルワーク
 - 2 医療・保健機関におけるソーシャルワークの特徴
 - 3 医療について 健康の概念、病気の概念
医療機関の組織と医療従事者のチームワーク
疾病分類
疾病に関する知識
 - 4 医療ソーシャルワーカーの役割 MSWの歴史、ワーカーの課題
総合病院のソーシャルワーカー、精神科領域、老人病院、
援助手段としての社会資源
 - 5 医療ソーシャルワークの実際
援助技術の方法（ケースワーク、グループワーク）、面接
の方法、外来段階の援助、入院段階の援助

履修上の留意点

時々小グループで検討することがあるので、積極的に参加して欲しい。希望する人には医療機関の実習を紹介する。

成績評価の方法

出席点と期末試験の点数で評価する。

教 科 書

出川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

そ の 他

毎年、医療機関の見学の機会を設けている。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 域 福 祉 論	わた なべ かず くに 渡 辺 一 城	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

我が国の社会福祉の流れはいま正に大きな転換期にある。80年代後半から今日にかけて議論されてきた制度改革におけるキーワードはいうまでもなく「地域福祉」であり、これが社会福祉を進めていく上での基本的な考え方となっている。従って、地域福祉は、社会福祉の一分野ないしは方法というより、それらを総合化した社会福祉の現代的形態として理解される必要がある。それは限りなく地域における住民の現実の生活に着目した、かつ新しい福祉を切り開く視点を内包した領域であるといえることができる。

本講義では、こうした前提を踏まえ、これから社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の視点や課題を学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は主として次の事項を扱う。

- ・地域福祉の理念や概念、内容
- ・地域福祉の歴史的展開
- ・在宅福祉サービスのあり方と供給方法
- ・地域福祉の主体形成と福祉教育
- ・ボランティア活動や NPO 活動とその支援
- ・地域福祉を推進する機関と組織（社会福祉協議会、ボランティアセンター、共同募金会のあり方や、関係機関や仲介調整組織との関係など）
- ・地域福祉を支えるコミュニティワーカーの役割
- ・小地域におけるインフォーマルネットワークのあり方
- ・地域福祉計画の策定とコミュニティワークの展開 など

成績評価の方法

出席、テストなどにより評価を行う。

教 科 書

大橋謙策著『地域福祉論』（放送大学教育振興会）

参 考 書 等

大橋謙策・宮城孝編『社会福祉構造改革と地域福祉の実践』（東洋堂企画出版社）
牧里每治・野口定久・河合克義編『地域福祉』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学(福祉)	はし 橋 づめ 爪 さとし 敏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいで述べたように、この「社会学(福祉)」の授業は社会福祉士、社会福祉主事の資格取得に関わるものである。しかし、こうした資格に関わる受験対策そのものをねらいとするものではない。また、「福祉社会学」を論ずるものでもない。あくまでも、「社会学」の基礎知識の習得がねらいである。したがって、社会学の歴史、社会集団の類型、現代社会の諸問題などを取り上げることとする。

履修上の留意点

この授業は、すでに社会学についての若干の予備知識のあるものと、まったくの初心者も受講すると言う、変則的なところがあるが、初心者に判り易く語ることを主にしていきたい。

成績評価の方法

成績評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』(中央法規出版)

参考書等

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社)
 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)
 高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房)
 R. ニスベット『現代社会学入門1～4』(講談社学術文庫)

科目名	担当者名	配当学科	単位
心理学(福祉)	たか 高 はし 橋 よし 良 ひろ 博	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉の現場で、必要とされる「心理学」の基礎的な知識を、習得することを目的とする、講義である。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、まず、心理学的なものを見方を身につけ、次に、社会福祉に関連するトピックスをとり上げてゆく。具体的には、以下の項目について、1年間を通し重点的にふれてゆく。①心理学の歴史と現状に対する理解 ②人間の心理学的理解に関する基礎概念 ③人間の成長・発達の心理と諸問題 ④心理学的な人間理解に基づく援助技術
 また、心理学研究の雰囲気にもふれるため、適宜、供覧実験や人格テストの体験なども折込ながら講義を進めてゆく予定である。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会 編集『改訂 社会福祉士養成講座11 心理学』(中央法規) 2,500円